

# 台風第 15 号に係る災害対応検証 関連資料

令和5年3月  
静岡市



## ～ 目 次 ～

<b>1 防災分野に関する有識者・関係機関</b> .....	1
(1) 有識者からの意見 .....	1
(2) 附属機関（防災会議・水防協議会）委員からの意見 .....	3
<b>2 自治会</b> .....	6
(1) 葵区 .....	7
(2) 駿河区 .....	12
(3) 清水区 .....	14
<b>3 静岡市議会</b> .....	27
(1) 9月定例会 .....	27
(2) 11 定例会 .....	28
(3) 2月定例会 .....	30
<b>4 市民アンケート</b> .....	32
(1) 調査概要 .....	32
(2) 調査結果 .....	33

## I 防災分野に関する有識者・関係機関

防災分野に関する行政機関や有識者等で構成する防災会議及び水防協議会を開催したほか、防災行政に精通した大学教授から、中間報告に対してそれぞれの立場からご意見をいただいた。

### 有識者

実施日	所属	職位
令和5年1月26日(木)	静岡大学 防災総合センター	教授
令和5年2月9日(木)	静岡大学 防災総合センター	特任教授

### 附属機関

開催日	附属機関名	出席者
令和5年2月6日(月)	防災会議	市長(会長)、国・県・市、ライフライン企業、自主防災組織等
令和5年2月15日(水)	水防協議会	市長(会長)、国・県・市、水防団、自治会、議会等

## (1) 有識者からの意見

### 検証項目1 災害対策本部及び本部会のあり方

- ・「災害対策本部の設置が、24日13時の設置となり、職員への周知も遅れた」という表記になっているが、それによって何が支障になったのかの記述がないため、課題にしている理由が分からない。(24日13時の設置自体が課題ではないはず)

### 検証項目3 被害状況の調査・報告

- ・「本部会において報告すべき事項が決められていなかった」⇒「報告すべき優先事項等を明確にする」とあるが、細かくルール化すれば正解というわけではなく、考え方や捉え方をきちんと記載すべきではないか。

### 検証項目4 情報の収集・共有・発信

- ・災害対策本部の役割、機能として、全庁的な体制が整わなかったことの検証を、一番大きな項目である検証項目1で行う必要があるのではないか。
- ・“インターネットを利用しない市民”への対応について十分ではなかったと言及しているが、ネットのみで発信していたわけではないと思われるので、できたこと・できなかったことの実態関係を示すことも重要ではないか。

### 検証項目 7 断水

- ・メディアへもっと情報提供すべきだったのではないかと。災害対策本部からの情報発信は誰が行っていたのかが見えなかった。なぜ毎日発信できなかったかも書かれていない。

### 検証項目 8 洪水・浸水害

- ・今回の被害の多くは想定された範囲内で発生したと思われる。今後の対応に生かすためにも、来年度以降でもよいので、被害状況などの記録を整理していくことが重要ではないか。

### 検証項目 9 土砂災害

- ・今回の被害は、住家の倒壊・流失はほぼ見られない規模だったとみられる。もっと甚大な被害が生じることは十分考えられるので、それを見越した対応策を今後検討していくのがよいのではないかと。

### 検証項目 1～11 以外

- ・この報告書は今後記録として参照されると思われるので、使用する文言は“分かりやすさ”よりも“正確さ”を重視し、本編は法律用語で表記すべきと思う。概要版は、分かりやすい文言でも良い。本編では必要に応じて、注釈を設けるなどの工夫を。
- ・地域防災計画に記載されていなかった項目については、記載がなかったことによりどのような支障があったのかなど事実関係を記録していくことが重要ではないか。
- ・今回の静岡市での家屋被害の数値が、かなりの重複を含んでいるので、今年度内に訂正した方が良い。
- ・災害対策本部設置に関する検証記述が不自然に感じる。本部設置の時期が課題ではなく、災害対策本部が全庁体制として情報共有等で不十分な運用だったので、その後の対応等に影響したことの検証が必要では。平日ではなく、通常業務がない休日に設置したので、むしろしっかり立ち上げることができたはず。
- ・本部長（不在時の副本部長）の指揮系統、特に何時どんな情報や状況を把握し、どう判断し指揮を執ったかについての検証が必要。政治家個人としては本人が検証されればよいので、ここでは組織としての検証が良い。

## (2) 附属機関（防災会議・水防協議会）委員からの意見

### 検証項目1 災害対策本部及び本部会のあり方

- ・情報や人材を本部1箇所に集約してはどうか。
- ・災害対策本部の役割は、①状況把握、②状況の分析、③方針決定、④方針に基づいての事案処理、⑤方針の広報・情報発信である。今回の災害において、これらがどこまで実践できたかの検証する必要がある。
- ・検証において、各々の分担の「やるべきこと」を明確に示す必要がある。

### 検証項目2 応援体制（市内、国・県・他都市、自衛隊など）

- ・非常災害時における情報提携、早期復旧体制の確立を目的として、市との災害協定を年度内に締結したい。
- ・台風第15号の際には、市の水道局と情報を共有しながら、給水対応を行った。海上保安庁としては、今回のような陸上災害であってもできる限り地元へ寄り添った支援を行っていききたい。
- ・検証項目2のタイトルに「国・県」を加えてはどうか。
- ・(2) 他都市への応援要請のタイトルを「国・県・他都市への応援要請」としてはどうか。
- ・国など関係機関への連携については、重要なポイントと思われるので記載が必要ではないか。

### 検証項目3 被害状況の調査・報告

- ・被害状況調査において、国のTEC-FORCEによる支援も記載してほしい。
- ・被害状況の把握に当たり、住民が直接、被害情報を市に通知できるようなシステムがあってもよい。

### 検証項目4 情報の収集・共有・発信

- ・自治会長や地域の防災役員が被災した場合にはどこから情報を収集するのか。
- ・市民一人ひとりから情報を吸い上げる仕組みとして何か考えているのか。
- ・冠水しやすい地域について、市は積極的に情報発信すべき。同報無線ではなく、防災ラジオ等、確実に伝わる方法を考えるべき。
- ・行政機関の連絡先が分からない状況だった。
- ・注意報でレベル4を発表する対応もあったが、オオカミ少年効果と正常性バイアスに注意しながらの運用が必要な印象。
- ・避難情報のアラート入力において、世帯数の数字（市全体、各区）が不明瞭な部分があった。市には、公式かつ正確な数（説得性のある数字）を発表してもらいたい。
- ・葵区の停電により、災害対策本部の立ち上げにも影響があったのでは。停電の対策等はあるのか。
- ・災害対策本部の役割について。中間報告には「市民等からの救援・支援要請に係るコーディネートと進行管理」に関する総括的な記載がなく、検証項目6以降で各論が述べられている。「検証項目4の2」として、「市民等からの救援・支援要請に係るコーディネートと進行管理」に関する総括的な記載を加えてはどうか。
- ・災害時は、迅速な情報収集と積極的な情報発信が必要と考える。台風第15号における情報収集・発信において、どの程度のことのできたのかについても確認し、今後活かしてほしい。
- ・被害情報等の入手方法の周知を図ってほしい。

### 検証項目5 自治会などとの連携

- ・自治会に入っていない人や地域との交流が少ない人からも情報収集を行う必要がある。
- ・自治会としては、マンション居住者や子育て世代といった自治会未加入者や近所付き合いの少ない人への対応に苦慮している
- ・現場では、高齢の自治会役員が水の配布等の対応を行った事例もあったようだ。自治会未加入者の割合が高まる中で、自治会ベースには限界があるのでは。
- ・自治会が役割を發揮できない場合の対応、未加入者への対応等、想定するべきでは。
- ・地区支部について、大雨になる前、事前に待機することも考えてほしい。大雨で職員が参集できないということがあっては困る。
- ・全ての対応を行政でできるわけではない。各家庭で災害への対処法を理解すべきと思う。
- ・夜間の避難訓練や行動マニュアル等の整備が必要と思う。
- ・水防団として、大雨が降ることは想定していたが、ここまで急に増水し、身動きが取れなくなるとは思わず、いつものように被害なく終わるという甘い考えがあったと思う。
- ・水防団本部としては、本部役員がいち早く対策本部に出向き、分団との連絡体制を確立しなければならない。
- ・水防団では、組長、副組長に対して災害対処、活動の仕方、団員の安全管理と意識高揚を加味したマニュアルを作成中。

### 検証項目6 災害廃棄物

- ・清水港湾を災害発生土の仮置き場として活用した。
- ・災害廃棄物の処理方法についても、市の災害廃棄物処理計画に基づく検証が必要である。

### 検証項目7 断水

- ・どの小学校でもプールの水をためているわけではないと思うが、「いざという時のためにプールの水をためておくこと」などを周知し、学校ごとに差が出ないようにするべきでは。
- ・備蓄の水は1週間分でよいのか。不足しないか。見直さなくてよいのか。
- ・地域に一つ井戸を掘れるようなシステムを作ってほしい。飲料水としての使用は無理でも、生活用水としては使用できると思う。
- ・承元寺取水口や両河内の送水管の被災があったことから、流木対策が必要と思う。
- ・送水管の位置も、被災しやすい位置を避けるべきでは。

### 検証項目8 洪水・浸水害

- ・巴川流域の浸水被害は今回で2回目。根本的な対策が必要では。
- ・冠水対策として、かさ上げを呼びかけたり、かさ上げのための助成を行ったりということが必要では。
- ・市全域で、どの地域が冠水しやすいのかを検証すべき。
- ・国の TEC-FORCE で排水ポンプ車による支援ができる。配備箇所について事前に検討を進め、必要時に支援要請を行う旨について記載するべきでは。
- ・近年の気象状況が急激に変化している中で、長期の整備期間を要するインフラ等では対応しきれない部分もあるので、グリーンインフラや Eco-DRR(生態系を活用した防災・減災)の考えも導入し、市民と一緒に対策を講じることも必要である。

### 検証項目 9 土砂災害

- ・二次災害を防ぐことを目的に、早急な状況把握と対応方針を行う必要があるため、有効な情報収集策を検討していく必要がある。
- ・県、市が管理する河川で発生した土砂の仮置き場に関しては、事前に決めておく必要がある。
- ・TEC-FORCE による災害支援として、災害リスクの評価も行っている。国の支援についても記載してはどうか。

### 検証項目 10 被災者支援

- ・被災者がどこに連絡すべきかわからなかった。
- ・実際にボランティアに参加して、高齢者にも分かりやすい被災者支援（地域での個別相談会など）が必要であると感じている。
- ・防災と福祉を一体的に進めて、人を真ん中に据えた施策（困りごとがあっても、誰もが情報を得られ、見通しをつけ、前に進むための施策）を。さらに、そのような活動をサポートする人材が必要である。

### 検証項目 1～11 以外

- ・「想定外をどう想定するか」が求められている。想定外が起りうる時代にどうやって命を守る。
- ・近年、日本中のあちこちで大きな水害被害が多発していたのだから、当然想定しておくべきだったはず。
- ・大災害を想定した防災のスペシャリストを育てる活動が必要。
- ・公園退避計画での実施ができず、河川敷トイレが多数流出した。
- ・応急復旧工事で通行止め措置をとったが、勝手に入ってくる住民がおり、施工に障害が生じた。



## 2 自治会

葵・駿河区は2月7日（火）から2月16日（木）にかけて、清水区は11月末に、自治会連合会長等との意見交換を計10回実施した。

### 葵区（計4回）

開催日	会場	参加自治会
令和5年2月7日（火）	城北小学校	安東、城北、竜南、麻機、千代田、西奈、西奈南、北沼上
令和5年2月8日（水）	安倍ごころ	井宮、井宮北、賤機南、賤機中、賤機北、安倍口、美和、足久保、松野、大河内、梅ヶ島、玉川
令和5年2月8日（水）	安西小学校	青葉、城内、横内、新通、駒形、一番町、三番町、田町、安西
令和5年2月16日（木）	わらびこ	服織、服織西、南藁科、中藁科、清沢、大川

### 駿河区（計2回）

開催日	会場	参加自治会
令和5年2月9日（木）	駿河区役所	大里東、宮竹、大谷、久能、長田北、長田東、長田西、長田南、川原
令和5年2月9日（木）	駿河区役所	富士見、西豊田、東豊田、東源台、森下、中田、馬淵、中島

### 清水区（計4回）

開催日	会場	参加自治会
令和4年11月29日（火）	清水区役所	辻、江尻、入江、浜田、岡、船越
令和4年11月29日（火）	清水区役所	飯田、高部、有度、袖師
令和4年11月30日（水）	清水区役所	清水、不二見、駒越、折戸、三保
令和4年11月30日（水）	清水区役所	庵原、興津、小島、両河内、蒲原、由比

## (1) 葵区

**給水・断水**

- 簡易水道がうまく流れない、給水車も清水区しか行けない。報道も清水区ばかり、葵区も被害があることをしっかり発信できるようにしてほしい。簡易水道への支援。
- 市の水道ではない（井戸等）自宅は、給水車がこなかった。市には困っている人を助けてほしい。現在でも、水がでない自宅もある。

**広報（情報共有・発信）**

- 1日以上復旧にかかる停電はあまりない。「鉄塔が倒れているから復旧が遅くなります」くらいの情報発信をしていただけると、心の準備もできる。災害状況の発信をしていただきたかった。
- 発災時の同報無線。「広報静岡です～」ではなく、サイレンなどで危険性を知らせるようなことをしてほしい。えらいことが起きたぞ!という発信。
- 停電時、役所⇄自治会の連携はどのようなツールを考えている？
- 停電によって情報が全くとれない。市と中部電力の情報交換はあったのか？見通しや原因を情報発信してほしい。
- 夜中であってももっと広報を流してほしい。必要な情報としては、停電や河川の情報だった。停電があって、なにも情報が入手できなかった。
- 地域としては大きな被害はなかったが、道路被害について、警察や市・業者の情報が錯そうし、混乱した。情報発信は市のみがやるなど、情報発信の一本化をしてほしい。停電全復旧との情報が入ったのだが、ところどころ復旧していない家屋があった。あとあと聞くと、様々な事情があったそうだが、早ければいいわけではない、正しい情報を流してほしい。どこの情報が正しいのか、発信がバラバラなので、どれを信用してよいかかわからなかった。（例：大型が通れないと聞いたが、実際は通れる）
- 自治会の役員は変わっていくため、引継ぎは不十分な場合が多い。そのため、区本部、市本部、自治会の役割分担、伝達ルートをしっかり決めていくべき。市ではわかっているが、自治会は把握していないことがあるのではないかと。流れてくる情報が様々であり、市からの情報もころころ変わっていく。良い方向に変わるのはいいこと。それを変わったときに自治会にも共有してほしい。
- 自治会側の情報収集発信、大災害が起きた場合、住民からの情報発信のツールが限定されてしまう。（停電、破壊）最悪の場合の情報発信の手段を教えてください。行政側からの情報発信、災害発生前、発生直後、12時間後、1日後、1週間後、その時期に応じて内容、発信場所、どこに行けば良いのか、その手段が違う。行政は、住民への情報発信の仕方を教えてください。

**地区支部**

- 応急給水は自治会と連携してやることとなっていた。と記載があったが、知らなかった。そういったことも事前に周知をしていただきたい。
- 23日の夜半に地区支部開設。避難について支部長と相談し、垂直避難にしようとお話した。（発災当初は連携できた）しかし、24日お昼に地区支部が解散してしまったため、どこに連絡をすればいいのかわからなかった。（発災後の連携ができなかった）市と自治会の窓口はワンストップでお願いしたい（情報の一本化）→自治会との連携強化に繋がる。12月の地域防災訓練での報告事項は「訓練の参加者」のみ。発災後、なにをどのように市に連絡・報告するのか。ぜひ訓練で取り組んでいただきたい。
- 地区支部の機能が薄い気がする。人が足りないのか、被害の少ない場所には人的配置が難しいのか？地区支部の人員、教育体制はどうなっているのか？被災場所を一緒に見て、被害を実感しながら情報共有、報告をしてほしい。実際に地区支部員が状況を見て、必要な対応を本部へ報告してほしい。自治会長からの情報だけではイメージがわからない、状況がしっかり伝わらない。

- 単町、連合会、地区支部の流れ、役割をもっと整理したほうが良い。一つの町内会でオープンチャットを行い、情報伝達を行った。市の方で情報発信をしてほしかった。
- 給水作業に関して「自治会連合会の役割」云々の記載があったが、今まで考えたこともなかった。救護所についても以前は、「避難所として自治会連合会が主導」から「救護所は市が主導」に変わったと思っていたところ、最近「設置は自治会連合会の責任」と変わってきたようだ。責任だといわれても施設管理の責任は学校側にあり、自治会連合会のできることは限られている。一度自治会連合会の役割と地区支部の役割を整理したい。
- 東日本大震災の際、福島原発や大川小学校において「津波がこの高さまでくるはずがない」、「ここまで津波が来ることは考えられない」という正常性バイアスが惨事を招いたことは誰もが承知している。にも拘わらず、台風 15 号では水害発生に対する認識が甘かった点は私ども自主防災会でも反省すべきであるが、行政も市民を守る組織として怠慢。日頃の避難所開設にあたってはどういう心構えでいたのか反省してみる必要があるのではないかと思う。
- 指示されたことしかやらない、やれない職員では困る。現場で住民と接し、一緒に活動するにあたっては地区支部の皆さんから地域の自主防災に提案するくらいの気配りをお願いしたい。自分たちに何が要求されているかを常に考えてほしいと希望する。
- 以前、地区支部の方と話をしていたところ、その方はお子さんを私の孫と同じこども園に預けていることがわかり「災害が発生したとき業務で避難所に来られるの？」と疑問に思った。小さな家族を守らなければならないような人まで地区支部に組み込むことに疑問を持った。
- 検証項目 5 自治会などとの連携（1）の改善策・今後の対策の方向性について、「災害発生後の本部総括部・区本部、地区支部その他関係機関及び学区自主防災会の一体化を図る。」を追加したらどうか。

(理由)

- ・自然災害発生後（今回は、台風 15 号通過後）の被害状況に関する情報提供・共有化が十分でなかった。
- ・災害発生後の事後処理（災害ゴミ集積場所、被災者状況及び消毒液の必要数把握など）に関する行政のワンストップ化を図り迅速化・効率化を図る。

### 災害ごみ

- ごみの出し方について、収集業務課に連絡したところ、すぐに返答をくれた。市の対応については大変感謝している。とてもスピーディーな対応をしていただいた。
- ごみの集積所（公園等）などを事前に指定してほしい。
- 残念ながら、私達自治会では、災害廃棄物の設置場所、ルールもなにも決まっていません。今回の意見交換会において、すでに決まっている自治会もあるとのこと参考にしたいと思っています。紹介して下さい。
- 大災害発生後に発生したゴミの処理方法を、次回ごみの出し方、分別ガイドブックに明記する様お願いします。

### その他

- 日曜日に天野県議員が防災服で地元の各自治会長のところを回ってきた。役所の人も自治会長への訪問くらいできなかつたか？
- 停電についての検証はしているのか？停電は市民の大きな関心事である。
- 備蓄の大切さがよく分かった。そのことについてもっと発信してほしい。
- この雨で床下浸水程度の被害で済んだのは、遊水池のおかげだ。長沼ではスーパーの 2 階の駐車場と提携を結んでおり、同地区では、車を移動させるよう周知をしたことで水没した車がほとんどなかった。今後も続けていきたい。また、30 年前にいた千代田小学校の土（貯留）の効果がどれくらいあるのか？検証していただきたい。麻機遊水池や愛宕霊園の遊水池の機能について、機能拡充を依頼したい。

- 土砂崩れが多かった。各自治会から業者に頼んで、土砂の処理をしてくれた。市の体制を組んでいたのか？
- 中間報告の検証項目8(1)②の改善策2項目、3項目目は具体的にはどのような考えか？同学区だったら瀬名川南公園があるが、そのようなところを活用するのか？(学校のグラウンドの貯留機能も上げている、との回答に対し)それでは複数年の計画となる。来年の雨に備えて短期的な考えはあるのか？また、中間報告の書き方では読んだ市民が「すぐに工事をしてくれるのか！」と過度な期待をしてしまう可能性がある。
- 巴川について、同程度の台風が来た場合、どうなる？
- 安倍川は？丸子のほうで氾濫すると聞いたが…
- 安倍川の土砂堆積の対策をより強化してほしい。砂利をとるような工事を頻繁にしているようには思えないが…。
- いざ！というときは自治会も動けないような気がする。もっと手身近な対策からやってほしい。また、耐震補強の申請も手続きが大変。申請の簡略化をして、より楽に簡単に耐震補強等の減災対策ができるようにしてほしい。
- 避難所である小学校の体育館が浸水した。先月からやっと復旧した。他にも雨漏りをしている体育館もあると聞く。この機会に総点検をしてほしい。
- 特別支援センターの体育館は発電機が連結している。今後は、ぜひ周知していただき、活用をしていただきたい。
- 市民感覚では、市も県も国も関係ない。一致団結して取り組んでほしい。
- 自衛隊の派遣要請は市からできない？
- 事後処理の話ばかり。過去のデータを引っ張り、場所ごとでどれだけ事前の対策が必要なのかを考え、対策を練ってほしい。色々なものが、壊れる前に強化する(ハード対策)が大事なのではないか？
- (駒形学区の浸水した小学校体育館の復旧の話を受けて)そのあたりの進捗状況も連絡がない。自治会への情報共有について丁寧さにかける。
- 安倍川の河床の掘削について、県にもお願いしているが、なかなか進まない。堆積した土砂の撤去をどのくらいしているのか。本当に支援を必要としていた市民の想いは反映されているのか。入っていないような気がするので、ぜひ盛り込んでほしい。
- 辰起川の川底が安倍川より低い。普通に考えて水が流れるわけがない。何度頼んでも進まない。話だけではなく、本当に実行してほしい。
- ボランティアの実績はこの報告書のどこに入るのか？そのような方たちについてもぜひ記載していただきたい。広報の仕方を考えてほしい。
- 川があって、民家があって、すぐに山。洪水ハザードマップでは5mくらい浸水が想定されている。避難場所は小学校しかない。小学校も2m浸水想定。人口に対し広いスペースもない。避難のタイミングを逃せば、垂直避難になる。安倍川の濁流が来たら、家も流されてしまう。どうすればよいか、自治会としても考えるが、市も考えてほしい。
- 運転免許試験場裏に水門があるが、安倍川の河床が上がっているため、水門を開けると水が逆流してしまう。対応として、連絡をすればポンプを出動させ、排水してくれる。とても排水能力が高いが、2台しかない。訓練となると、地震を想定したものとなる。住民の関心は風水害に移っている。訓練も水害を想定してやってほしい。
- 宅地内土砂の撤去はどのくらい進んでいるのか？
- 土砂災害で通行不可な箇所があった際、地区支部に情報を入れた。地域にも業者がいるが、お金が絡むので、自治会からは頼めない。市との連携を検討してほしい。自治会から直接依頼できたら楽だと思うが…。
- 山から水を引いている自宅。1戸しか補助制度が使えない。(飲料水供給施設の設置補助金は3戸10人以上。この緩和を求める要望。)
- 寺に土砂が入って相談した際、ほとんど相手にしてくれなかった。



- 市の対応は早かった。満足しているとの意見も聞く。だが、道路復旧の目途(いつごろできるのか)をもっと細かに教えてほしかった。また、わらびこを災害時の拠点にはできないか。立地的に中藁科小は適していない。
- 地元住民は、台風が去った24日の明け方には、地域の被害状況を理解し、個人、自治会で土砂等の片付けを行い、一刻も早く平常の生活を取り戻そうと片付け作業を行っていた。

そのような状況の中で、市の対策本部ができたのが、24日のお昼とあるが、被害を想定して、早めの対策ができなかったかを含め、市の体制は正しかったのか。また、ライフライン(電気・ガス・水道)関係はチームを作って、もっと連携してほしい。
- 自治会、個人での土砂の撤去が進む中、市が早期に土砂の仮置き場を指定しなかったため、どこにもっていけばいいのかわからなかった。そのため、民有地を借りた自治会もある。その後、市指定の仮置き場に運搬したが、最初から指定があれば二度手間を防げた。
- 当学区内は、急傾斜地が多く存在し、このような台風が発生する都度、土砂崩れなど、住民不安がある。そのため、工事要望を県に対し申請をしているが、工事施工まで約20年待ちになっている。市も早く工事が進められるようバックアップしてほしい。
- 過去の災害が十分に生かされていない気がする。映像等を見て、今後の対策にしっかり役立ててほしい。
- (土砂撤去について)災害協定業者は公開しないのか?地域の人も知っていたほうがいいのか?
- 安倍川の河床を下げない限り、大門川からの水が流れず、バックウォーターしてしまう。杏林堂とドン・キホーテが貯水施設を持っているそうだが、今回は全く機能しなかった。
- 停電についても、中部電力任せではなく市もバックアップ体制をとってほしい。
- 服織小が風雨以外時の避難場所になっているが、どのように避難すればいいか。車も水没。水がでたら物理的にも避難できない。
- 地元が好意でやってくれた土砂撤去に関して、市から補助のようなものはなかった。やり損になってしまわないか。お礼だけでもしてくれないか。
- 災害対策本部の遅れ、設置基準を満たした場合、自動的に設置すると記載されていましたが、設置基準がどの程度か分かりませんが、想定外の場合を考慮して、もう少し流動的に考えるべきではないか。訓練も定期的に行うべき。
- 想定される最大降雨に対する内水ハザードマップを新しく作成予定とききましたが、その中に台風15号でここまで水が来たと判るように作成してもらえたらと思います。
- 自衛隊への応援について、市長が県知事の携帯電話番号を知らなかった等テレビで放送していましたが、政令指定都市ならば直接自衛隊に電話要請出来る様に交渉してもらいたい。災害対応は早い方がよい。
- 静岡市は現在、自治会と行政とのつなぎ役として指導員制度を設けています。非常にありがたいことです。しかし、今回の災害において、その指導員からの連絡、指導はありませんでした。またこちらからも情報の発信はしなかった。これは私達の反省点でもあるし、改良して行きたいと思っています。
- 低地ゆえに台風15号により床下浸水や自動車冠水の被害はあったが、被害程度が軽く済んだのは行政の取り組みの結果と評価している。ハザードマップを更新・配布して後の対応は住民の責任で、というのは行政として無責任。危険な地域の住民の安全対策を早めに講ずることが肝要。
- 千代田小学校の授業で七夕豪雨の話をした際に見た当時の浸水被害の写真で、民家の全くない浸水地域には今は多くの民家が建っている。そういう状況を見ると、「床上浸水」の住宅数の比較で浸水被害の大きさを比較することや治水対策の効果を比較するのはナンセンスだと思う。実際に七夕豪雨を体験した地域の住人の感想の方が実態を表しているのではないかと思う。その感覚でいえば、時間当たり降水量が多い台風15号の時の方が浸水被害は小さく、放水路、貯留池対策の効果は大きかったと思う。

- 検証項目 1 災害対策本部及び本部会の設置時期、役割・機能（1）の改善策・今後の対策の方向性について、「地域防災計画…設置するよう」の次に、「危機警戒本部の下で」を加入し、「設置基準をより詳細に設定するとともに、…」としたらどうか。

（理由）

- ・ 災害対策本部を自動的に設置させるためには、危機警戒本部の機能をより充実・強化する必要がある。
  - ・ 静岡市地域防災計画 資料編 56 ページ「台風の接近時等における危機警戒本部の設置について」の「4 協議内容」中、災害対策本部の設置時期、設置条件の項目に、設置条件等を具体的に列挙する。
  - ・ 災害対策本部、危機警戒本部、地区支部員及び学区自主防災会の一体化が必要である。
- 災害の最中、直後の状況、復旧（道路など）に向けての対応状況、生活困難の状況など場面に応じて情報収集する流れを示していただき、関係機関・団体に共有したい。
  - 撤去した土砂の仮置場について、市のスポーツ広場や公園の使用を最優先するよう、利用規定に明記していただきたい。今回、他地区のスポーツ団体の使用計画が入っており融通してもらえなかった。
  - 土砂流入は当地域の宿命である。次の災害に備えるためにも、早期の浚渫（しゅんせつ）をお願いします。
  - 今回の教訓をいかし、もっと早い段階に個別訪問調査をしていただきたい。

## (2) 駿河区

**給水・断水**

- 自治会で持っている飲み水で、足りない所（今回の清水区のような）に補えば良いのでは。区役所では、自治会がどのくらい水を持っているのか知っているのではないか。足りている所から不足しているところへ持っていくように、市から指示することはできないのか。
- 災害ごみは公園に置くように地域で考えている。水についての対策としては、公共施設で井戸から水を出したらどうかという意見が出た。そのような際に補助がほしい。

**広報（情報共有・発信）**

- 発災時、地域からの発信はどうしたらよいか。地域から市への現場状況・危機に陥った際の連絡はどこにどうやってすればよいか。
- 被害にあっている時に、どこに連絡したら良いか。こちらからの情報発信を受けてもらいたい。
- 災害が起これば、被災現場の対応は自分たちでするので、すぐに情報発信できない。終わった後で情報発信することにどれだけ効果があるかわからない。災害対応をしている間の情報をどうするか。
- 夜間に情報発信ができないのをどうするのか。緊急時は、夜間でも情報発信してほしい。発災時、地域が協力できるようなバックアップをしてほしい。
- 自分たちの地区の災害情報（危険な場所・内容、避難所の開閉等）が十分にわからない。地域の人がどのような形で情報を得るのか考えてほしい。（提案：町内の人は、町内会長や役員に問い合わせるので、町内会長に情報が早めに渡るようにしたらどうか。町内会長が役員に連絡すれば、役員が見回りに行くこともできる。）

**地区支部**

- 地区支部と自治会連合会と地域との連携する力が必要。自治会連合会、単位自治会への加入をお願いする時に、行政の方から、未加入の人、自治会に、防災の面から加入した方がいいという呼びかけや指導がない。そのような指導をしてほしい。
- 災害が起こった際に、地区支部がいつまでいるのかはっきりしてほしい。もう少し長く残って現場を見てほしかった。
- 地区支部は地元の人を選定しないと、発災時すぐに来ることができないので意味がない。また、マニュアルの整備をしてほしい。
- 地区支部解散の基準について、本部からの命令系統を徹底してほしい。検証の資料についても、表記の仕方を変えてほしい（中間検証報告のままだと、地区支部が悪いように見えるが、本部の命令系統の問題であると考え）。  
地区支部から何の連絡もなかった。被害がなくても連絡が欲しい。後から被害が発見された。発見が遅すぎる。  
学区の分け方についても、市の職員はわかっていない。  
本部から地区支部、地区支部から連合自治会長や自主防災会長に逐一連絡して情報を流してほしい。
- 地区支部について、まずは現況の調査をしてほしい。地区支部への指示をしっかりとほしかった。地域と地区支部が何度か打ち合わせをして、方向性を決める必要がある。マニュアルの整備が必要である。

**災害ごみ**

- 廃棄物の置き場所が確保できていないのは、日頃の危機管理がなかったということだと思う。
- 臨時ごみについて、どこでどのようにするのか、市の方で確認しているのか。

- 臨時ごみを迷惑のかからない道路に置くのはどうか。

### その他

- 土砂の撤去について、土砂災害が多いと撤去する業者がまわりきれなくなってしまうのではないかと。対応できるようにしてほしい。
- 畑等、民地に土砂が入った際、行政は手をつけられないが、二次災害が怖い。今後の対策としてどのようにしたらよいか、対応を早く連絡してほしい。
- 裏山が崩れて民家に入った。ボランティアに片付けてもらったが、今後二次災害があるかもしれないので、その対策をとってほしい。市と連絡をとったが良い回答をもらっていない。早急に対策をとってほしい。
- 安倍川の河川敷広場の改修工事は、伝えられている期限までに終わる目途はついているのか。
- 土砂災害の緊急連絡先の一覧をつくってほしい。どこが対応するのか。発生している場所はどういう保全をしていったらいいのか、地元と話し合っしてほしい。
- 丸子川の改修は時間雨量 60mm に対応しているが、間もなく溢れるということが何回かあった。このことについて、もっと真剣に考えてほしい。
- 丸子川について、時間雨量 60mm の基準では今の状況では対応できない。国、県としっかり話をしてほしい。安倍川と丸子川が別々の流れを作れば、丸子川がスムーズに流れるのでは。
- 台風翌日バイパスのトンネルが通行止めで、別の道が渋滞した。市からの連絡には地域の人に対応をした。渋滞の情報等近所の人への配慮が足りない。
- 発災時、道路損傷情報システムを使用して住民から市へ道路の状況を発信したらどうか。
- いまだに災害ごみが農道等に散乱している。
- ハイキングコースの山が危険な状態になっているので対策をしてほしい。
- 流石が溜まっている。JR の橋の下に土砂が流れてしまっている。除去を考えてほしい。
- 砂防堰堤で土砂を止めることが出来ない状態になっている。対策をしてほしい。
- 側溝に水が溜まって流れないというのを早急に改善してほしい。水の流れが分からない所があるのも困る。
- 「台風 15 号に係る災害対応検証」となっているが、これは災害が発生した後の対策なのか。検証項目 8 (1) について、減災の具体案 (時間雨量何 mm までなら対応できるようにする等) が書いていないが、あるのか。具体案があるなら、全てやった方が良くと思う。
- 停電・断水について、特にマンションは困る。これについて触れられていない。検証に含めてほしい。
- 洪水の浸水被害については、時間雨量 110mm の雨だけが原因なのか、下水処理場、雨水ポンプ場の運転操作の影響もあるのか確認したうえで、時間雨量 150mm 想定に対応が必要なのか、検討してほしい (中島地区の一部については、津波災害警戒区域に指定されるため、出来れば 150mm の想定は避けてほしい)。
- 事業所への調査や手当が十分でない。中小事業者・個人事業者も大きな被害を受けた。しっかり対応してほしい。



## (3) 清水区

## 給水・断水

- 当初は辻・袖師・入江地区には給水所がなかった。地区支部長が上下水道局に交渉してくれたこともあって翌日には地区に給水所を設けてもらうことができた。
- 駐車場の少ないところに給水所を設けるのはいかなものか。例えば小中学校のグラウンドを使うなど広いところを使って給水作業を行っても良かった。
- 小学校のプールに溜まった水を浄水して飲料水に使うことができなかったか。防災倉庫にはろ過機が準備されているはず。
- 地域にある地下水、井戸水を工業用水扱いではなく、一時的にでも飲み水に転用できないか。人命がかかった状況では臨機応変な対応が必要になるのではないか。
- 入江交流館には地下水の蛇口があるのでいつでも出るのだが、工業用水の扱いで非常に歯がゆい思いをした。
- 巴川製紙が工業用水を供給してくれた。
- Jオイルミルズから連合自治会長に連絡が入り、工業用水を提供できるとの提案があった。
- 岡小学校の100 tタンクの耐震性貯水槽を思い出し、24日13時に準備を始めたところ、部品が外れ、水が溢れ、ホースも繋がらない状況だったが、高校生を中心にバケツリレーをするなどして給水できるようにした。途中からは消防団の消防車に来てもらって直接給水するなどの対応をとった。多いときは1,500人が並んだ。
- 自治会の給水作業中に並んでいる市民から罵声が飛んだので、自主防や地区支部はビブスを着用するなど、わかるようにしたらよと感じた。
- 後々だが、岡生涯学習交流館は桜が丘高校のプールとつながっていて、交流館の蛇口をひねれば出るということがわかった。
- 車両の誘導、給水の手伝いまで、24日から断水解消されるまで、早朝から夜まで給水所に付きっきりだった。
- 船越小学校が給水所になった。運動場を駐車場にして全部運動場に入れた。出入りの場所が車の出入りができるようになっていないので、ずっと交通整理で2人出なければならなかった。
- 給水の応援に自治会長や防災委員を呼んで、何をするか指示が必要で付きっきりになってしまった。
- プールの水を生活用水として提供した。3本のホースを外まで引いてどんどん汲むことができるようにした。
- 給水車の回転が悪く、熱い中5時間以上待たされる人もいた。もっと多くの都市に多くの台数の給水支援を求められなかったのか。
- 給水対応に来る他都市の給水車は毎日変わるため、毎日勝手がわからない状況だった。
- 断水がいつ解消されるのか、明確な回答が市からなかったため給水に来た市民へ回答できずに苦労した。
- 給水で応援に来てくれた他県の給水職員に対して、自治会ができる手伝いや心配りを考えるのも大事。水道局からは「給水車が行きます。」だけ。
- 職員がタンクだけ置いて、やり方を説明しないまま帰ってしまえば現場は混乱してしまう。
- 給水所は水道局独自で決めていたため、交流館運営協議会局長、館長、所管課（生涯学習推進課）も交流館を給水場所として使うことを知らなかった。知らないうちに10か所で給水する指示が出ていたため混乱した。
- 学校の門の開け閉めは地区支部長がやってくれた。6時半に支部長が開けて午後9時終了後も支部長が見回って門を閉めてくれた。照明の消灯も地区支部長がやってくれた。また学校も協力してくれた。
- 24時間開放することも検討したが、会長・支部長・教頭で相談し、防犯の観点からやめた。

- 3日間3トンの給水車が1台しか来なかった。船越は5,000軒の12,000人住んでいる。そこでも給水車は1台しか来なかった。暑い中長時間何百人と並んでいた。
- 給水車の職員へ途中で情報をくれと頼んだが、渋滞すると困るので情報は出せませんと言われた。結局何時に到着するかわからなかった。
- 人数が多いところも、少ないところも、あまり必要ないところも1台ずつ配車している。20数台配車しているが一つの地区に2台も3台も配車できないと言われた。
- 貯水槽がない所はなぜないのか。あるところはなぜあるのか。今後どうするかということをはっきりしておかないと上手くない。また同じことが起きる可能性はある。
- どの自治体も給水車は持っている。県内の自治体の給水車が比較的少なかったように感じた。静岡市で困っているからすぐに来てくれとお願いすれば50台程度の給水車が応援に来てくれる体制になっているはず
- 課題として全地区に耐震性貯水槽を設置するという働き掛けをする必要がある。
- 蓄えが必要と言われていながら、ほとんどの世帯は蓄えていない。世帯の水についての蓄えはないと思う。給水のためのポリタンクも用意していない。
- 個人の蓄えがない中で、他県から来た給水車にはビニール袋を持ってきて渡してあげて、すごく良かった。
- 24日朝に初めて断水がわかり、市へ状況を確認したら水道局の電話番号を教えてくれた。水道局へ電話しても繋がらなかった。
- 周りから15時から交流館で給水を始めるという情報が流れてきたが、市から連絡は何もなかった。本当に住民へ流しているものかわからず生涯学習交流館へ確認に行った。
- 15時に空のタンクだけはきた。17時に給水の車が来て、水をもらう体制ができた。
- 給水車で来た人はタンクに水を入れるだけ。そのとき300m程度人が並んだ。個々にやってもらうことが心配になって、連合の三役がいたので三役で水出しをやった。
- 2日目も給水車は職員がいるので給水の手伝いをしてくれたが、タンクの方は市の職員がいなかった。2日目も21時、22時まで給水を手伝った。
- 3日目になって支部の女性職員が一人来た。21時までやるというので地域で手伝った。
- 正確な情報が連合の方に直接来ないので、いくらインターネットどうこう言われても困ってしまった。発信しているものか本当に困った。
- 高齢者は給水所で給水して水を持って帰るのが大変だった。
- 地区支部員が残ってくれたのは助かった。
- 給水に来た人達が並んだときは大変混雑した。しかし、職員が3人だと給水で手一杯で、車や人の整理まで手が回らず困った。
- 断水は東名から上は柏尾の水が出たが、東名から下が大変だった。東名から下の人たちがみんな車で来るため車が多くて対応に苦労した。
- 3、4日するとスムーズになってきた。
- 小学校の貯水槽も開放していたので、それほど大きいトラブルはなかった。
- 断水後2〜3日現場は大慌てだった。当初の2〜3日に職員の配置がきちんと決まっていれば、混乱は避けられた。
- 七中の給水タンクを開けてくれと市水道局から依頼があった。26日に対応した。開栓後、自治会が皆へ広報すると打診したが、広報は市(水道局)が行うからやめてくれと言われた。結局、市(水道局)はアナウンスしてくれなかったため、住民に周知出来なかった。
- 車が並んでしまうのはタンクが空になってしまい、それを住民が知らないから、さらに列がつながってしまった。
- 最後尾に並んでいる住民にまでタンクが空になった情報を伝えなければいけなかった。
- 市の給水ポイントとは別に、個人的な人脈(新潟市からの派遣)を活用し独自に楠と長崎に給水所を2カ所設置した。水道局と調整したわけではない。
- 交流館は混雑してしまった。

- 給水所はなるべく被害が大きいところの近くに置くべきだったのではないかと市の方へ相談したが変更できなかった。
- 生活用水は常葉大学生がペットボトルに水を貯めて持ってきてくれた。そのペットボトルを道路沿いや駅に置き、自由に持って行ってもらう形式にした。(5日間くらい)
- 24日土曜日の夕方5時に給水車が来た。その時点で交流館に500人程度の住民が集まっていた。
- 交流館は断水のため閉館していたが、開館してもらい1階2階に住民に入ってもらった。
- 26日夜、タンクが空の間、住民が待つスペースがなく、臨時で交流館を開館してもらった。
- 車が渋滞してしまったため、自治会で交通安全会にお願いし、交通整理をしてもらった。
- 車の駐車場も袖師小学校、JA等を借りた(自治会が依頼)。
- 27日、金沢市から3tの給水車、夜の8時半自衛隊の給水車が到着した。
- 28日朝、チラシ1枚の張り紙で給水作業終了が周知された。(水道局に電話した。)  
「飲用開始が宣言されたので、袖師交流館での給水は28日をもって終了させていただきます。最新の給水拠点については静岡市ホームページをご覧ください。」
- 若い住民はホームページを見て住民が給水に来る。200タンクを2、3個持ってくる。1tタンクだと50人(1人200)入れると空になってしまう。空になってすぐに来てくれと連絡を入れたが、給水車はすぐには来なかった。
- 学校にある受水槽を使用したいと依頼したが生徒用だから駄目だと断られた。
- 24日は給水車の配置が無かったため、水道局へ連絡し、清水小学校の耐震性貯水槽を開けさせてほしいことを伝え許可が下りた。自治会で耐震性貯水槽を開けて水を住民へ配布した。
- 2日目は愛知県から給水車が来た。そのため耐震性貯水槽は使用しなかった。富山から来た給水車の職員はポリタンクの代用になる袋を用意してくれていた。水を入れるとリュックのような形になる。お年寄りでも運べて便利。今後は静岡市でも用意すると良いだろう。他市への応援の際にも配布したらいいかがか。
- ブロックが三保という扱いになっていた。断水の区域は東海道線を境に三保である。巴川の海側の築地町や旭町は三保のブロックだと言われた。地域総務課から水道局へ確認を依頼してもらい巴川ブロックと確認してもらった。飲食店などは三保地区でなく巴川ブロックと判明すればもう一日早く営業できた。
- 築地町～旭町のブロック訂正は夜10時頃、訂正の発表があると言われた。もっと早く教えてほしかった。
- 断水解除時、放送で「三保ブロック」と言われてもあまりピンとこず、わかりにくかった。
- 給水車が朝5時頃に学校へ来て、門が開いていないとの連絡で起こされることがあった。学校の門の開け閉めは水道局や地区支部でやってほしかった。
- 24日午前中に水道局から電話で、四中の耐震貯水槽タンクを使用するかとの連絡があって、使用すると回答した。10時頃電話があって11時頃タンクを開けてくれた。タンクを開けてもらったのはいいが、開けっぱなしで職員は帰ってしまった。そのため、急遽自治会長を集めて、担当を決めて2時間ごとにサイクルを組んだ。自治会長は高齢者が多いので長く続かなくて、その間に交通安全会や防犯協会、消防団にお願いしてみんなで最後まで対応した。
- 不二見小学校に給水車を派遣してもらったが、給水車の容量が少ないためすぐに無くなってしまい、かなり待たれたようだった。
- 四中の耐水貯水槽タンクを開ける際、地区支部長へ応援を依頼したが、指示が出るまで動けないと言われてしまった。そのため、四中の給水所を宣伝することができなかった。宣伝は周辺の人たちの口こみ、LINE、SNSで行った。
- 24時間開設したがギシギシに並ぶことはなかった。逆に穴場のような給水所になった。広報をどこがするかが課題と感じた。
- 日立が隣なので3日目くらいから工業用水を交流館に引っ張って、地域の団体に協力してもらい生活用水を配布した。
- 地域にある会社から空の100ポリケースをたくさんもらった。不二見は企業が多いため、地域の会社の人たちが手助けしてくれた。

- 水の大切さ、不二見地区の人の関係もよくわかった。
- 四中の生徒がかなり手伝ってくれたので感謝状を渡した。
- 人手はしかたないが情報だけは密にしてもらいたい⇒連携が取れなくなってしまう。
- 当初は自治会役員で対応していたが、給水に来た若い人に給水ポンプを押してもらい給水作業していた。
- 交流館、学校の門は鍵を掛けなかった。
- 事前に断水があると連絡があったため、汲み置きをするよう指示ができた。大変助かった。
- 給水所では3時間くらい待つこともあった。
- 25日朝から給水が開始。事前連絡は水道局から24日22時過ぎにあった。たまたま地区支部長と連絡が取れる体制をとっていたのですぐに相談した。
- 25日6時に自治会長へ連絡。6時半までに三保二小に集まってもらった。
- 給水所には、前日の三保交流館で交流館前の道路がパニックになっていたことを把握していたため交通整理員を付けた。
- 水についてはいろいろなところに助けてもらった。(三保造船、国土交通省など)
- 外国人が飲用水をゴミ袋やポリタンクへ詰めるなどして独占された。最初のうちは黙認していたが、すぐに給水車が空になってしまうので、国際交流課へ職員派遣を要請したが、外国人向けのチラシ2枚だけ渡されただけだった。
- 最初に名古屋市の給水車が来た。7時開設予定だが、実際には7時半に開設になった。空になったときにどこへ給水に行くのか確認すると「門屋」と言われたので、水道局に連絡し「南安倍」に変更してもらった。
- 給水車が浄水場を出発する際に三保二小の役員へ連絡してもらい、給水所で待っている人に「あと〇分に来るよ」と伝えられるようにした。給水場所に来た人へ待ち時間を伝えるだけでも予測ができるので、きめ細かい情報を与えていかないといけない。
- 有事の際には交流館というイメージが強いにも関わらず、交流館が閉められたのが一番大きかった。
- 学校長と協議して鍵はかけないが、門だけは閉めるようにした。
- 名古屋市の給水車にも鍵をしていないことを伝えていたため、入口の開閉で揉めることはなかった。
- 交流館が給水所として機能した。
- 給水、断水について、交流館、自治会長へ何も連絡がなかった。いつから給水を始めますとの連絡もなかった。断水の事前連絡も全くなかった。
- ホームページに午後3時から給水と発表になったが、実際に始まったのは午後5時近かった。
- 翌日、ペットボトルを提供するので配布してほしいとの依頼があり、その連絡と手伝いを単位自治会長へ連絡するという形をとった。
- 交流館長は事前連絡もなく給水車がきて、人が並んでしまったため対応せざるを得なかった。
- 給水車や人がまだ残っているが17:30には交流館を閉めるよう会長から指示をした。
- 単位自治会で組長までの連絡網はあるが、それ以下の会員への連絡手段がないため、ペットボトルの水の配布を地区住民へ伝達する手段がなく困った。小中学校のPTA役員から会長へ頼み、PTA連絡網で流してもらった。
- 三保造船、日本軽金属が工業用水を生活用水として配付してくれた。急遽蛇口を入口に用意してくれた。回覧を配付するよう持ってきてくれたが、スピード感に欠けた。他に情報の流しようがなかった。口伝えにも周知をお願いした。
- 井戸の所有者が多く、生活用水として活用できた。
- 私から民生委員へ水がなく困っている高齢者がいないか確認を依頼した。民生委員が高齢者に水を届けてくれたケースもあった。民生委員からは普段の業務以外で負担をかけるのは酷との意見があった。民生委員以外の連携方法を考えるべきであった。



- 交流館近くの自治会長、児童館に出入りしている子供たち、焼津市の会社から何人かがボランティアで来てくれて給水の手伝いをしてくれて助かった。
- 20ℓ タンクへ満杯に水を入れると持てなく、ボランティアが配達してくれて助かった。
- 据え置きタンクは生涯学習交流館にきた。給水車はタンクに給水し次に袖師地区へ移動、給水車が空になったら葵区へ補給に向かうという流れだった。
- かなり清水区内で通水が始まってから茂畑に給水車が来るようになった。給水所に来た人数は最大 50 名程度で他地区に比べて少なかった。
- 据え置きタンクは 1 t なので、一人で 20ℓ、40ℓ と給水する人もいたのですぐに空になってしまった。
- 交流館の周りに簡易水道を使用している地域もあるので、その地域からの水の提供、個別の協力があって給水所は比較的落ち着いた状況だった。
- 生活用水は畑総の中に 2,500 t のタンクが設置されていて、そこを使って良いとの許可を得たので地域に周知し使用した。
- 私の家に 200ℓ のタンクがあったので。タンクをトラックに乗せて交流館に置きっぱなしにした。生活用水についても何とかあった。
- 給水タンクが空になったあと、いつ補給されるのかという問い合わせが多数あった。
- 給水所の開設場所の問い合わせも多かった。
- 井戸を持っている人が多くいたので水を提供してくれて助かった。
- 最初に給水車が来たのが小島小だった。暫定的ということだった。補給で葵区へ行って戻ってくるといって戻ってこなかった。
- 町内ごとに放送設備を持っているので水道局に給水の広報をしたほうが良いか確認したところ、広報しなくてもいいと言われた。市が広報車等で広報してくれるかと思っていたが、結局広報はなく、知っている人だけが給水に来た。
- 断水後 24 時間体制での給水対応が 1 週間後ほどだった。市街地と揃ってなくて、市街地がそろそろ通水となったところに手厚くなった気がする。24 時間体制になるまでは水のやり繰りが大変だった。
- 始めの頃は葵区に補給へ行くと、1 時間半から 2 時間は帰ってこなかった。
- 9 月 25 日に断水が復旧した。(3 割市、7 割自家水道)
- 和田島ブロックが断水したという情報により、誰も給水に来ないのに給水車や職員が 4～5 日来ていた。
- 24 日は給水車が必要だった。給水車が何台あるかと聞いたところ 9 台との回答だった。困っているので両河内に回さないのかと聞いたが、それは別のところで決めますと言われ、これは両河内には来ないと感じた。
- 静岡市と焼津市で協定を結んでも、近隣で同じ災害が発生する可能性があるのも意味がないということで、遠くの自治体と協定を結ぶことはわかる。しかし、こんな時なので市長が島田市へ行って、給水車を 10 台貸してほしいと依頼すればよかった。協定を結んでいないのはわかるが富士市や沼津市へ行ってお願いすればよかった。市長が頭を下げれば、今回はそういうことが足りないと感じた。
- 最初の対応は仕方がないが、63,000 世帯が断水して給水車が足りないとなったときにどのように動いたか。水道局は隣の市から給水車を借りてくる契約になっていないと言った。理屈はわかるがそのときに市長が動くべきだった。
- 一つの提案として河原の水も浄水機 (RO 膜の機材) を使えば飲料水として使用できる。ろ過装置とセットで用意しておけば海の水でも飲むことができる。給水車 1 台購入するなら数台購入することができる。
- 知り合い、親戚が水を取りにきて給水に協力した。
- 25 日朝の時点でも被災状況がわからなかった。
- 情報がしっかり伝達されて他地区の状況がわかっていたら、もっと他地域を助けることもできたと思う。

- 蒲原地区には飲料水兼用耐震性貯水槽が3台設置されているので、今後このようなことがあれば、すぐに使えるよう準備したい。
- 由比地区は由比川水系が主体で山間部は簡易水道や供給組合がある。普段から仲良くして、浜辺の人たちも水がなくなればもらいにくければいいと感じた。
- 蒲原支所へ、由比地区は浄水場があるので、車があつて自分で取りに来ることができれば水を取りにくければいいのにと提案した。

### 広報（情報共有・発信）

- 給水のための広報車が回ったと思うが、主要道路ばかりで、住宅地まで入ってこなかったため、情報が聞き取れない世帯が多々あった。同様に同報無線が聞こえないという話もあった。
- 防災ラジオは単位自治会全世帯分購入し配布した。かなり大きい音で鳴るので、切ってしまう世帯もある。
- 防災ラジオの活用を考えてもらえないか。必要な情報をずっと流しておいてもらっても良かった。
- 浜田小で給水していることが、同報無線では聞こえなかった。結果的にせつかく給水車が来ているのに人が並ばない状況だった。
- 同報無線が聞こえないことの解決策として、有事の際には市が災害ラジオなどを無償貸出するなど考えてみてほしい。
- 給水情報の収集が難しいことを経験し、情報の伝達方法を考えていかなければならないと感じた。
- 災害情報の一元化を望みたい。ここに連絡すれば教えてもらえるという連絡先がほしい。
- 現場は自治会でやる。地区支部が現場の情報を上げ、市の情報を下ろしてもらう。
- 単位自治会ごとに放送設備がある。私に情報が入ってくれば情報を流すことは可能である。
- 掲示板に張るのは情報が毎日変わるので誰が張りに来るのか。鍵はどうするのか。現実的ではない。
- 緊急時に回覧版を使って書面で回すのは不可能。同報無線は音が響いて内容がわからない。
- 防災ラジオを全世帯に配付するのは比較的良い方法だと思う。
- いつから水が出る、飲める水が出るなどの情報の伝達方法を検討してほしい。住民に対してネットでも、テレビでも、スマホでもわかるじゃないかと言ったら逆に怒られてしまった。水没してテレビがつかない。高齢者にはわからない。と逆に怒られてしまった。
- 被害を受けた地域は何も使えない。交通手段もない人にどう伝えるか。自治会も考えるが市の方も考えてほしい。
- 24日の朝になっても、地区支部、自治会、交流館に情報が全く来なかった。もう少し情報伝達の機能を見直してほしい。せつかく体制を作っても情報が伝達されなければ意味がない。
- 同報無線と防災ラジオで同じ内容が流れてこなかった。もう少し防災ラジオを使って情報を流せばよかった。
- 何かあれば町内放送を利用して情報を流した。放送設備が威力を発揮した。何時から何をやりますよという放送を次から次へと流した。
- 同報無線で「HP、LINEで確認して」はやめてほしい。高齢者は確認できない。そもそも、LINEってなんだ？となる人もいるため、カタカナは減らして同報無線の内容の電話番号を放送してくれた方がいい。
- 同報無線が折戸地区は全く聞こえなかった。聞こえないという住民からの苦情ばかり。会合をおこなうたびに「昔みたいに復活させてほしい」との要望がでていく。昔は交流館を起点に地域放送ができていた。
- 同報無線が全く聞こえなかったため、放送が流れると区へ連絡し、流れた内容を三保二小にFAXしてもらった。おかげで給水に来た人たちに情報を伝えることができた。
- 高齢者に同報無線の内容をインターネットで確認しろというのは無理である。
- 市役所、清水区役所、清水中央図書館にチラシが配布してあります。という広報をしているがそれでは実際には話にならない。本当の広報の形は違うと思う。様々な連絡方法を考えなくてはならない。

- 今回、広報の仕方の問題点が浮き彫りになった。
- 市へなぜ住民への広報に消防団車両を使わせてくれなかったのかと尋ねたところ、市の備品なので勝手に使うことができないと言われた。市災害本部の中に消防団が入っている。広報担当が同報無線だけが広報という考え方でいるのがよくない。
- 地区支部員も情報を得るのが大変な様子で、何か支部員へ聞いてもわからないと言われた。
- 自治会長が13名、連合の役員を入れると合計で20名。全員でLINEのグループを作ってあって災害対応のための情報や本部からの指示を流すことができた。
- 行政ともLINEと同様なやり取りができるツールがほしい。
- 単位自治会長とはLINEでグループを作って連絡のやり取りをしている。
- 地区支部が開設されると単位自治会に配備している防災無線を使用し連絡を取り合うことになっている。

### 地区支部

- 地区支部の対応について、災害が出ているにもかかわらず、警報解除されたら解散してしまうことに問題があるのではないかと。地震対応と勝手が違ったかもしれないが、災害状況を確認し、その対応を待ってから解散するべきだったのではないかと。
- 大雑把でいいので地区支部が被害状況を把握してほしい。
- 地区支部は地区支部長や地区の考え方で大きく違う部分がある。他の地区では地区支部があまり働かない、来ないということも聞く。地区からしたら市役所防災の窓口は地区支部。地区支部がしっかりしていれば、市への印象も違う。地区支部の対応に差が出ないためにも、地区支部対応業務を詳細まで決めておいた方がよい。
- 地域と役所とのつながりで大切なのは地区支部である。地区支部員がしっかりしていないと連携もできないし、いろいろなことが進んでいかない。見てみると地区支部長は2、3年で交代する。課長になると抜ける。新しい支部長への教育、地域との結びつきができていない。
- 船越は解散後も地区支部長が残ってくれていた。支部長の人間性で対応が違ったが、それでは困る。地区支部としてのルールを作っておく必要がある。地区支部長の判断に任せては困る。
- 支部長がいてくれたので私が役所に聞きたいことを直接連絡するのではなく、支部長が連絡し情報を教えてくれた。支部組織としてしっかり固まっていなかったため、今回のような地区ごとの差が出る問題が起こった。
- 飯田生涯学習交流館は浸水区域で支部員が集まるのも大変な状況だった。北部交流館なら上の方にあるから拠点として対応できる。
- 地区支部員が交流館に来てくれたのは助かった。
- 地区支部員は速やかに参集してくれないと困る。今回は私が参集しても誰もいなかった。
- 当日は3名地区支部員が参集していた。全て西久保、横砂在住の職員だった。それ以外の地域から参集しろと言っても参集できない状況だった。
- 地区支部員が地区の地名がわかっていない。そのような職員を配備されても機能しないのではないかと。その辺の配置もしっかりやってほしい。
- 地区支部の拠点は交流館だが、地区支部員は給水所に一緒にいてくれた。
- 地区支部員も解散後に一度くらい様子を見に来るとか連絡をくれるくらいしてくれてもよかった。そうすれば情報交換することができた。
- 地区支部員がいなかったため、どこに情報を伝えていいかわからなかった。
- 四中の給水所には地区支部員がいなかったが、不二見小の給水所には2日くらい遅れて入ってきた。支部員が不二見小にいること自体知らなかった。
- 不二見小と交流館が離れているので情報のやり取りができなかった。情報のやり取りができていれば自治会との給水所の連携がとれた。
- 地区支部長と連絡がとれる体制をとっていたので連携はとれていた。
- 地区支部長からの連絡もなし。後から支部長が三保第一小へ給水活動に行っていたのを知った。

- 地区支部は給水所で対応していた。
- 地区支部員のトラブルはなかった。
- 地区支部を通じて市から水を配付してもらった。

### 支援物資

- 事前連絡があり、3団体から水、ペーパータオルなどが届いた。
- 鳥坂自治会へ1度だけ届いたが、それ以外は一切なかった。
- 要らなくなったらすべて断っていた。特に水。
- I. C.に近い袖師交流館へ支援物資が関東圏（東京、横浜から100ケースの水、生理用品、ペーパータオルなど）から大量に届けられた。
- 物資は戸籍住民課を紹介し、市へ届けてもらったケースもある。
- 最初は助かっていたが、徐々に溢れてしまい、処理に追われてしまった。
- 連絡もなく、突然届いてしまい困惑したケースもあった。
- 有名人が支援に来た情報（SNS）を見て、その人に会いに来る人もいた。
- 4カ所くらいから現地に持って来てくれた。水、食べ物（静岡のホテル）、生理用品、簡易トイレキットの支援があった。
- 個人的に静岡市にゆかりのある方が、おむつ、簡易トイレキットを持ってきてくれた。どうお礼をしていいか迷ってしまった。
- 物資を市から断られたから自治会へ持ってきたと言われたケースがあった。断ったと思わせない対応が必要だ。
- 支援物資でかなり水もらったので、各町内会へ配付して高齢者には対応できた。
- 支援物資が入ってくるたびに単位自治会長に持って帰ってもらい、世帯割で各世帯へ配布した。
- 地元に来たものは、民生委員を中心に困っている人（主にお年寄り）へ水を配付してもらったが、余るものがあった。
- 町内放送を持っているので、情報を流しスムーズに配布できた。
- 市の方から水があるがどうかとか、企業から水の配布の打診があった。実際問題判断に困った。本当に困っている世帯に配りたい気持ちがあった。もらえるのはうれしいが配布に苦戦した。
- 一部は各単位自治会長へ配付を依頼した。
- 本当に必要としている人に配付したいので、市職員が公用車で町内を回ってくれるというのでハンドマイクを持って巡回配付した。
- 昼間働いている自治会長もいるので物資を配付する際の周知方法に苦慮した。
- 個人的に持ってきてくれた人がいたが様子を見て断ったものもあった。
- 東海大学にタレントが支援物資を持ってきた。東海大学から物資があるから取りに来てもらえるか相談があった。そうでなく折戸には市営住宅が3カ所ある。そこはほとんどが高齢者なのでせつかなので市営住宅まで届けてほしいとお願いした。トラックを用意するので水を積んでほしいとお願いし、大学から直接市営住宅に配布してもらった。拠点まで持ってきてもらい対応できた。
- 交流館あてに物資が送られてきたので交流館を閉めることができず、交流館の職員（折戸の交流館職員も）、児童館の職員が対応してくれた。
- はじめ茂畑、広瀬地区は1箱6本入りのペットボトルを1世帯に1箱を配付した。
- 支援の水がたくさん届いていたので、茂畑地区や広瀬地区の自治会に取りにきてもらい、高齢者に配布した。
- 市から水の配布を何度か受けた。茂畑、広瀬地区の自治会長に取りにきてもらい配布した。
- 一乗寺に大量に支援物資が届いた。その物資も茂畑、広瀬地区に配布したが最後は少し迷惑がられた。
- 特に混乱はなく、交流館を中心に必要な自治会に配布した。
- 興津に知り合いがいるとか、以前興津に住んでいたという人が物資を持ってきてくれた。



- 企業が400ケース程度持ってきてくれた。
- 2回目の時は地区社協から民生委員に依頼し高齢者に配布した。
- 単位自治会を通じて地域住民へ配付した。
- 小島地区に水が足りない、ほしいという情報がSNSで拡散されて、ものすごい量が交流館に届くようになった。
- 問い合わせがあって持って行くよというものに対しては量を見ながら受け入れの可否を判断した。何も連絡もなしで来る人もいて遠方から来てくれた場合にはもらうしかなかった。
- 交流館に取りに来ることができない高齢者、体の不自由な人には民生委員を通じて配布した。一度だけでなく何度か配布してもらった。
- 直接高齢者に届けたいという希望者がいたが、プライバシーとか個人情報の観点から、遠回しに断った。
- 両河内地区は水で困っていないのに他県から水をもってきてくれた人が多かった。
- 庵原や小島から余った物資を持って来た人がいたが断ることはできなかった。

### 災害ごみ

- ゴミ収集対応について、静岡市が提携する他県からの収集車が来るのが遅い。県内市町ともっと連携をとって速やかな収集対応をしてほしかった。
- 災害ゴミの出す場所、土砂を入れる袋が不足した。
- 地元市議が災害のごみの置き場は公園でいいと確認してくれたので指示を出せた。
- 災害ゴミを入れる袋は自治会で持っている数にも限りがあるため不足した。
- 公園に置けない場合は、道路に置いたケースがあった。飯田地区は比較的早く、ごみ回収をしてくれた。
- 公園に散らばったガラス、釘等の取り除きが遅い。自治会で独自にやろうとしたが、市からやめてくれと言われたが、まだ手が付けられていない公園が多数ある。後処理が済むまで公園が使えないのは困るので、何とか方策を考えてほしい。地区の自治会長が市に掛け合っているが、なかなか動いてくれない。
- 押切南、大内新田の公園にごみ置き場を設置した。特に押切南の公園の対応に苦慮した。災害に関係のない業者も捨てに来ていた。(タイヤ etc.) 断っても災害ゴミだと言いつけられて困り、自治会とトラブルになることがあった。
- 押切南の公園はフェンスが曲がるほど、大量のごみが廃棄された。
- 大内新田のごみ置き場は優先的に撤去してほしい。においも出てきてしまっている。住民に我慢してもらっている部分がある。
- 単位自治会ごとにきちんと分別して集めていたため、大きなトラブルはなかった。
- 特に吉川の単位自治会がきれいに分別していた。
- 横砂地区本部を設置し、4カ所の公園を臨時ゴミ置き場とした。設置は自治会が行い、搬入作業の手助けも自治会が行った。
- 建設業者がトラック、重機を貸してくれた。
- 設置に関して、市からの補助援助は何もなかった。

### 土砂災害

- 厚生病院西側の小高い丘(古墳)がある。根元にアパートが2棟ある。土砂が崩れて入り込んだ。西側の部屋に大量の土砂が入り込んだが、住民は不在だった。
- その他は人家に土砂が流れ込んだのは1カ所。土砂に埋まってしまい外に出られなく、近所の人たちで助け出したと聞いた。
- 耕作していない畑が何カ所も崩落している。その部分はそのままの状態。

- 一乗寺の裏側がかなり崩れて、お墓が大量に被災した。新しく晋山式をやったばかりのお坊さんがかなりネットワークを持っていて、全国から支援の物資が届いたし、ボランティアの数もすごかった。
- 24日三池平古墳を見にいったがかなりひどかった。下側に数軒民家がある。今ボウリング調査をしている。
- 崩れたところはあるが、今も通行止めの状態だが道路が2箇所。
- 沢が土砂で埋まっている状態。また、土砂で畑が埋まっている。
- 清見寺の裏側が崩れた。
- 小島陣屋跡の石垣、斜面が崩れて4軒が金曜日から土曜日にかけて避難した。敷地内に土砂が入り込んだ。
- 道路、河川が崩れたところが大小で10件程度あった。
- 今のところ応急復旧で終わっている。町内で言われているのが、いつ本復旧の工事に入るのか。時期を知りたいということ言われている。
- 山崩れ100カ所程度。住宅のすぐ裏に落ちたというのが10件程度。山崩れと、沢との合流で鉄砲水が出る。沢が荒れたのが100件程度。緊急対応はほぼしてくれている。
- 雨が降ったら家の裏まで土砂が来てしまっている。何らかの策をしないと住めないという家が2〜3件程度。起こったことよりも、これからどのように復旧するかということが最大の問題である。
- 毎日、あそこはどうなるかと電話が架かってくる。いついつまでに何をする、対応するという情報をその部署が出しようもない。ここがセンターになっているなら両河内の件ほどの程度まできましたと中間報告があってそれを確認すればいい。だけどそういうシステムが動いていない。
- 今日も現場を回ってきたが行ったら直っている。こんなにしちゃってあるところと、緊急事態として別枠で要望したもので手を付けていないところがある。例えば、こういう事情でやらないことにしましたとか、もう終わりましたとか、順番待ちだよとか、今年のうちには何とかするよとか。
- 最大困ったのは発災直後の対応。橋が流されたらどうする。村が11世帯孤立した。ヘリコプターでなければ救助できない人が31人いた。どこに電話していいかわからない。
- 発災直後橋が流れた、家の裏まで土砂が来ているなんとかしてくれと、興津川が家の近くまで来ている。このままなら家が流されてしまう。悲鳴が上がる。これをどこに連絡したらいいのか。
- 発災後の情報を集めることが一番。少なくとも村の情報を全部集めようということで25日に自治会長を全員集めた。村で起こっていることを全部出せと指示した。要望を地域総務課へ提出した。
- テレビで見る災害対策本部は100人くらい職員がいる。清水区で100人の本部は立ち上がらなかった。
- 何百件という要望を地域総務課へ提出したが対応できるわけがない。
- 災害対策本部の動きが良い、悪いの話ではない。市長が清水を救えと言えば局長も動いたと思う。水道局は水道局、都市局は都市局、みんな別々にやっている。局長を動かすのは市長しかいない。
- 市民局が生涯学習交流館を閉めてしまった。「ばかやろう、ふざけるな」と言って怒っても、かなりお偉いさんが来てもその程度だった。何とかならないか。区長に言っても解決しない話だけれど、政治が今、動かなくて、いつ動くのかと思った。
- 村にしてみれば、頼りに連絡するのは俺のところしかない。2,600人が住んでいる。朝から電話が架かってくる。政治の親方が動かなければ動かないと思う。発災から2、3日は危機管理本部なんてあっても、なくても同じことだった。
- 発災から2、3日、住民を黙らせるのはものすごく大変だった。
- 緊急に組織を代えても、組織をいじれる人が各局から5人出せと言えば集まる。その大きな号令を掛けられる人が市長だと思う。
- 清水道路整備課、治山林道課、土木事務所に俺が連絡してばかりいたら本部が混乱すると思って、遠慮した。起こっていることは俺がまとめて本部へ連絡する方法でスタートした。今となってはこの方法が本当に良かったのか、考えるところがある。
- 桜野地区8軒の集落が3日間ほど孤立した。

- ほかにも土砂崩れがかなりあった。
- 由比川のスポーツ広場の護岸が 60m程度削られた。一番悩ましいのは、被災の大きいところを優先するのでと、手を付けてもらえないのが歯がゆい。

### その他

- 情報の収集の仕方そのものが良くないのではないか。地区支部⇄各部各班⇄災害対策本部の情報ネットワークに問題がある。災害対策本部に各部から情報が上がっていないことから対応が遅れている。地震の際は電話も使えない中で、情報収集システムをどう確立すべきかが問題。
- 県民意識調査の結果、備蓄が不十分な住民が多いようだ。市民の意識啓発をもっとやっていくべきと感じる。
- 市の防災計画の中に自主防災組織が対応すべきことが記載されている。しかし、自主防災組織の役割について、役員当人が知らない部分が多い。自主防災会の方は、ほとんどを市の職員がやと思っている。自主防災会の役割を伝える研修の機会を設けるべきだ。
- 地区支部は専門家ではないのが実情だが、地域は防災の場にいる市職員はオールマイティーだと思ってしまう。
- 自主防災組織の中で、自らのポストを務められる人は少ない。地震が来ても機能しない。
- 市職員、自主防災組織の其々の役割が何かをしっかりと認識することが重要。
- 連合自主防⇄地区支部の情報のやり取りがどれだけあったか検証するべきだと思う。
- 自治会の関わり方など、給水の応援体制の在り方はしっかりと決めておいたほうがよい。
- 柳橋下の壁が一部ないことが原因で浸水被害に遭ったと思われる地域があったため、巴川を管轄する県に説明を求めたが何も反応がない状況で、人災と思わざるを得ない部分もある。
- 被害に遭った世帯は、床を張り替えるなど自宅修復をしている状況だが、車を使える若い人ばかりではない。
- 入江地区に葵区でNPO法人を立ち上げている人がいる。彼が言うにはグラスウールを主とした断熱材は乾かないので、撤去・交換しなければならない。相当な費用が掛かるので市のほうで補助金対応等を考えてもらいたい。
- 1件でも被害を少なくするためにどうしたらよいか、これから建設的に話し合わなければならない。
- 家を建てるときに基礎を上げてあった家は被害に遭わなかった。基礎上げの補助金など考えてもらいたい。
- 治水解決については何十年もかかる難しい問題だと思う。一方でできることはすぐに対応していかなければならない。とにかく被害を未然に防ぐ。1件でも被害を減らしていくことが必要。
- 万世町一丁目は巴川が満水になって、町内の側溝に河川の水が逆流し氾濫して、周辺住宅が浸水してしまった。かつて下水道事務所に相談したが県との管轄別の問題で話が進んでいない。
- 地域として要支援者への対応なども考えておかないといけないということも感じた。
- 今回の災害では自治会の存在がクローズアップされたが、自主防災会についてももう一度見直さないといけない。市民全体、区民全体に広げていくことで、全体のレベルアップを図る必要がある。例えば、避難所運営は集まった人たちで対応しなければならない状況になる。それなのに知らない人や他人任せの人が多く、意識を高めるための教育が必要。広げていく必要がある。
- 大沢川に繋がる白部川がよく氾濫する。白部川の話をする、大沢川管轄の県と話をしなければならない。大沢川は巴川に繋がる。河川のやり取りは長い間やっている。
- 地域住民は有事の拠点として交流館に來たり電話したりするが、本部からは館長へ休館で出勤しなくていいとの指示が出た。今回、決めと指示が間違っていた。これは改善していかなければいけない大きな問題である。
- 地元市議が来てくれて問題点を市の方に連絡してくれて地区は助かった。

- 飯田地区は捨川が氾濫する。「どこまできたら、どこへ逃げる」を明白にしてほしい（川にセンサーをつけるなど）逃げる基準さえわかれば、住民への伝達は自治会の方でできる。また、車を逃がす場所も示して欲しい。車避難駐車場のよう。
- 治水対策が早急にできないのであれば、国や住宅メーカーと連携して水害に強い家などの対策ができないか。
- 一番困ったのがみんな被害を受けて地区の自主防災会が全く機能しなかったこと。連合自治会の三役でも車まで浸水してしまい会議をやるにも迎えに行った。
- これだけ水が出てくると、全くどうしようもなかったのが現実です。
- 巴川の改修とか大内新田に貯水池、そういった対応をしてもらわないと防災体制を作っても無意味になってしまう。
- 北街道沿いは全滅なので、自分の家が被害を受けているから招集を掛けても人が集まらなかった。そういう被害のところで、ある程度軽いところと問題点が全然違っている。
- 24日、25日と市の方が全然動いていない。自治会の一部しか動けないので、そういう意味ですごく大変だった。苦情は全て連合自治会の方に来た。市の方が土日も稼働してどうやって機能させるか考えてほしかった。
- 道路の赤土の撤去（5cmほど）特に学生の通学路は早くしてほしかった。
- ボラセンから、市営団地の復旧（畳の撤去等）に手出しできないと言われた。※市の所有だからという理由で。濡れた畳の上にブルーシートを引いて寝ている状況は酷すぎる。
- 災害情報共有システムは活躍できたのか。システムばかり作っても上手く活用できなければ意味がない。
- 河川の改修をお願いしたい。今回災害が発生した箇所は何回も要望を出しているが、県土木が担当のところは一向に直らない。県の所管であっても、政令市なのだから、市の方で率先して直すくらいのことをやってほしい。
- 河川の幅自体の構造を直さないとまた同じ被害が起きてしまう。
- 簡単な事項は要望書無しで口頭でも対応してほしい。
- 横砂は床上浸水が酷かったため、被害対応に専念してもらった。
- 西久保・袖師（被害・小）⇒給水、横砂（被害・大）⇒浸水被害と役割分担した。
- 庵原川、JR架橋についての改修は、平成7年から要望を出している。横砂中町の内水氾濫の原因は、JR架橋に流木が引っかかってしまうこと。巴川以外の河川にも改修すべきところはたくさんある。市長は巴川流域に言及していたが…。根本から解決してくれないと再発する。
- 県、市土木から流木が橋脚に詰まったことで氾濫が生じたため、千歳橋の架け替えについて説明を受けた（橋脚が3本あったが2本にする）。
- 今回の台風は地区として災害対策について考え直す機会になったし、こういった経験を通して、人づくりができると考えられる。
- 大規模災害時には、自治会役員だけではなく地域全体で対応していかなければならない。
- 駒越地区はそれほど大きな被害はなかったが、西町町内で床上浸水があった。
- 駒越小学校は今回の件で門の施錠を止めてもらった。
- 駒越小は津波の浸水区域にある。津波の到達時間は2分程度。その時門を開けて非常階段を上るのは大変なので、学校へ相談し鍵を掛けないようにしてもらった。防犯の観点では推奨できないが、人の命を最優先に考えてもらった。
- 25～30日に交流館を閉められてしまった。交流館は地元の人たちの起点、交流館に行けばなんとかなると周知していたが、職員も三保交流館に行ってしまった。地区支部も開設していない。つまり住民が情報を得る場所を失ってしまった。
- 交流館休館についての指示が悪かった。貸館業務を停止するという意味での休館であったはずだが、通常の開館は職員がいてやらなければいけなかった。最初は休館したところの館長は他の交流館に行くと指示が出ていた。
- 交流館の中に人は入れなかったが、職員は電話、物資、給水タンクの対応をしていた。



- 情報をいかに流すか。流してあげられるか。それが組織としてはないわけで、断水でこの程度だけど、停電した場合どうするのか。
- 今まで防災というと地震と津波のことばかり考えていた。地震、津波以外のケースでも災害対策を考えるきっかけになった。
- 簡易トイレのキッドが箱で届いていた。特に職員から説明がなかったため、ほしいという人に箱ごと配布した。本当は中にある袋単位で配布すべきだった。
- 両河内は防災ラジオが入らないので、中継局を作って入るようにしてほしい。
- 2日くらいしてから蒲原支所へ、由比の防災倉庫にある清水区で必要なものは出してほしい。由比保健センター3階に温泉があるので無料にして使えるようにしてほしいと依頼した。
- 由比地区が被災した場合を考えたときに、SUNPUシステムを通じて情報が本部に報告されて、市がどれだけスピード感を持って対応してくれるのかと、各自治会長から意見が出た。
- 防災は積み重ねるもの。スマホがあってそのスマホに情報が全て入っている。次の会長にそのスマホを渡せば引継ぎできるなど、共有できる、繋がっていくのが必要だ。

### 3 静岡市議会

静岡市議会常任委員会における意見・要望を委員長報告から抜粋した。

委員長報告日	会期名
令和4年10月12日(水)	9月定例会
令和4年12月16日(金)	11月定例会
令和5年3月17日(金)	2月定例会

#### (1) 9月定例会

##### ①総務委員会

- ・危機管理総室を中心とする本市の災害対策について、今回の台風15号の被災に伴う情報収集能力の向上、広報の在り方、早期復旧に向けた取組、今後の課題検証、インフラ整備の重要性などに関する発言が複数の委員からありましたので、付言いたします。
- ・同報系防災行政無線デジタル化に係る工事請負契約の締結について、高性能なスピーカーの導入や文字情報の提供など、配慮が必要な方にも災害情報が行き届くようになることから、早期の整備を求めるとの発言がありました。

##### ②企業消防委員会

- ・消防団員の確保について、今後の災害時においても消防団が率先して土砂や瓦礫の処理に当たり、市民の安全・安心を支えていることから、あらゆる努力をして確保に努められたいとの発言がありました。
- ・今回の台風15号で取水口が機能を失い、水の供給に支障を来したことなどを教訓として、水道施設中長期更新計画の再検討を行い、市民生活に影響が出ないような対策を講じていただきたいとの発言がありました。
- ・雨水総合排水計画について、今回の台風15号の被害が大きかった地区をはじめとする計画の見直しや、浸水の原因を細かく分析するなど、市民に寄り添った対応を求めるとの意見がありました。また、高橋雨水ポンプ場について、市民はポンプ場が常に機能することを求めているので、運転条件について県や関係機関と調整して対応されたいとの発言がありました。

## (2) 11 定例会

### ①総務委員会

- ・台風 15 号の被災に伴う災害対策について、検証作業に全力を挙げて取り組むことを求めるとともに、検証報告書に大変期待しているとの発言や、南海トラフ巨大地震への対策も含めて検証作業を進められたいとの発言、被災された方々の精神的、経済的な不安が解消されるよう相談に乗るなどのケアをされたいとの発言がありましたので、付言いたします。

### ②市民環境教育委員会

- ・省エネ家電購入促進事業については、台風 15 号による被災もあり、想定以上の申請があるかもしれないので、全ての対象者に助成金が支給できるようにしていただきたいとの要望がありました。
- ・今般の台風 15 号に関し、災害ボランティアセンターの運営に従事されている社会福祉協議会の職員やボランティア、現場でのボランティアの調整を担っているコーディネーターの皆さんに対し感謝するとの発言が複数の委員から述べられたほか、ボランティアの方から被災地域内での移動支援を望む御意見をいただいたので、社会福祉協議会などとも検討していただきたいとの発言をはじめ、今回の災害を教訓として課題の検証を進めるとともに、ボランティアの皆さんが活動しやすいような環境を整えてほしいとの意見が述べられました。

### ③厚生委員会

- ・清水保健福祉センター及び児童福祉施設の災害復旧事業について、予算可決後の速やかな対応を求める発言がありました。また、こども園で修繕を行う際は、園児の安全に十分配慮されたいとの要望や、現状復旧に終わらず、BCPの策定、見直しも含めて、ハード、ソフト両面からの対策を講じてほしいとの発言がありました。
- ・今回の各補正予算では、災害復旧事業が多くあるが、一部の業者に仕事が集中してなかなか発注できないということを懸念している。発注する際は地元の企業、特に中小企業にも配慮されたいとの意見が述べられました。

### ④観光文化経済委員会

- ・民間文化財施設災害復旧費助成について、近隣住民に不安を与えないよう安全面に考慮し、事業内容については情報発信をしていただきたいとの要望がありました。
- ・公園災害復旧事業について、日本平動物園のローラースライダーは、これまで日本一の長さを誇り人気であったことから、遊具の安全性を確保した上で、魅力的な動物園となるよう早期の復旧を求める要望がありました。
- ・体育施設災害復旧事業について、スポーツ広場は健康増進、交流の場として利用される施設であるため、市民ニーズを確認しながら、早期復旧を望むとの意見がありました。
- ・被災中小企業等復旧・再建支援事業費助成については、被災した中小企業等に支援が行き渡るように周知を徹底し、予算が不足した際は追加の予算措置を検討すること、また早期の対応に務めるとともに、事業者には負担がかからないよう申請の簡素化を図ることなど、複数の委員から意見・要望がありました。
- ・農地災害復旧事業については、農家への負担を少しでも軽減できるよう、助成について、柔軟な対応、部局を超えた支援を求める意見がありました。
- ・災害復旧事業全般に共通した意見として、河川から流れ込んだ土砂や流木により多大な被害を受けている漁業についても、現状を把握し、国・県と連携しながら復旧に努めていただきたいとの要望や、新型コロナウイルス感染症に加え、原油価格・物価高騰の影響や台風 15 号の災害により各業界が大変苦勞しているため、事業者への的確な支援策を求めるとの要望がありました。

### ⑤都市建設委員会

- ・台風15号被害への対応として、被災した市民の住居を確保するため、災害救助法に基づき必要最小限度の住宅の修理を実施する被災住宅応急修理事業では、日常生活を早く取り戻すことができるよう着実な事業執行を求める発言や、事業手続が分かりにくいという声を聞くので、引き続き、被災者に寄り添った対応を求める意見がありました。
- ・災害救助法の支援対象にならない世帯に一時的な民間賃貸住宅への入居支援を実施する被災者応急住宅支援事業費助成では、支援対象の拡充に素早く取り組んでいただいたことを評価する発言がありました。
- ・台風15号被害の対応として、宅地に流れ込んだ土砂や瓦礫を撤去し、市民生活の再建を支援する堆積土砂排除事業では、土砂の除去作業に国の制度を活用した体制を評価するとの発言や、道路橋りょう災害復旧事業をはじめとする公共施設等の災害復旧事業では、二次被害の防止、市民生活の安全・安心を確保するため、着実な事業執行を求める発言や、安倍川緑地の早期復旧を求める発言がありました。
- ・今回のような災害の再発を防ぐため、第三者を介しての検証を求める発言や、この経験を教訓とし、気候変動を視野に入れた治水、都市計画を進めていただきたいとの要望がありました。

### ⑥企業消防委員会

- ・常備消防車両の災害復旧事業に関連し、豪雨災害については、今後も発生のおそれがあることから、今回の経験を今後に生かしていただきたいとの発言がありました。
- ・今回の台風15号災害から得た教訓を今後、どのように生かしていくのかは市民の関心も高い。特に、承元寺取水口機能停止に伴う水源検討業務等に関連し、今後、多様な方策を水源として考えていくということですが、オープンで公正な議論を行い、課題解決に向け、ダムや海水の淡水化を含め、広く検討を重ね、早急に進めていただきたいなどの意見が複数の委員からありました。



## (3) 2月定例会

### ①総務委員会

- ・『静岡型「災害時総合情報サイト」構築事業』について、災害時には情報が錯綜するほか、偽情報が出回ることがあるので、正確な情報が速やかに伝わるサイトを構築されたい。また、このサイトによる情報提供だけでなく、インターネット等になじみのない方などに対して、防災ラジオや自治会を通じて情報伝達するなど、速やかに、正確に、わかりやすく伝えてほしいとの要望が複数の委員からありました。
- ・危機管理総室に関して、「台風15号」の教訓から、様々な新規事業に対応していることを評価する。今後、これらの取組が台風だけでなく、様々な災害時にも効果が発揮されることを期待しているなどの発言が、複数の委員からありました。
- ・「被災者生活再建支援システム活用事業」について、既に運用が開始されているとのことだが、被災者への支援が行き届くよう、庁内の関係部署に積極的に働きかけてほしいとの意見が述べられました。
- ・「自主防災活動支援事業」について、自主防災組織が配備する備品の購入が促進されるよう、地域の要望に柔軟に対応されたいとの発言などがありました。

### ②市民環境教育委員会

- ・繰越明許費の災害援護資金貸付金についてであります。台風15号で被災された市民が苦勞されている状況は変わっていないので、親身な対応を求める発言がありました。また、事務手続きに時間がかかることは理解するが、被災者には負担になることから、年度内の災害援護金の貸し付けを完了するよう努めるとともに、今後の災害に備えて手続きの簡略化を含めた見直しを求める要望がありました。

### ③観光文化経済委員会

- ・農地災害復旧事業は、わさび田の復旧に限らず、農家の負担が大きいと聞いているので、早期の災害復旧に向け農家への支援を継続してほしいとの意見がありました。

### ④都市建設委員会

- ・台風15号による災害に関する取組について、「急傾斜地崩壊対策事業」では、県と連携を図り、工事着手が進むよう、引き続き、状況調査を求める発言がありました。さらに、「河川災害復旧事業」や「道路災害復旧事業」では、被害の拡大を防ぐため、河川パトロールの頻度の検討を求める発言のほか、道路工事の施工では、細心の注意を払っていただきたいとの要望がありました。
- ・防災・減災に向けた社会基盤の強化や体制づくりを推進するための「雨水貯留浸透施設整備事業」では、市民ニーズを反映した整備と最大限の対策を求める要望がありました。また、「大内新田地区基本計画策定事業」では、他局と協力し、総合的に機能を発揮できるよう取り組んでいただきたいとの要望のほか、「河川改修事業」では、引き続き、浸水対策推進プランに基づいた浸水対策を求める発言がありました。

### ⑤企業消防委員会

- ・台風15号の浸水被害に対する水道料金及び下水道使用料の減額について、罹災証明を発行された方が対象とのことだが、対象者に漏れが無いように周知していただきたい。特に、チラシなどでは「令和5年2月末までに罹災証明が発行された方」となっているが、3月以降も柔軟に対応することを市民の皆さんに周知していただきたい、との発言がありました。
- ・水道事業に関し、令和4年9月の台風15号を踏まえた災害対応・体制の強化について、承元寺取水口機能停止に伴う水源検討業務は、調査で終わらず、最終的には水源が確保できるところまで進めていただきたい、との意見や、会議の中間報告も含め、検討内容を市民にわかりやすく報告していただきたいとの意見がありました。

- ・断水時の給水に、迅速かつ多大なご協力をいただいた他市町等の事業体に感謝する発言がありましたので、付言いたします。
- ・下水道事業に関し、浸水対策の推進について、雨水幹線や雨水ポンプ場などの整備を着実に進めていただきたいとの発言が複数の委員からありました。また、災害対応・体制の強化に関連し、気候変動に対応した降雨水準への目標の修正について、海面上昇率など予測が困難な部分もあると思うが、環境局等とも連携し、調査・研究を求める、との発言がありました。
- ・上下水道事業全般に関して、管・施設の地震対策や老朽化対策等に加え、今回の台風15号による災害をきっかけに断水対策や浸水対策が喫緊の課題となった。これらの課題解決にあたっては、十分な検討を重ねつつも、できるだけ早く事業を進めていただきたい、との意見が述べられました。

## 4 市民アンケート

### (1) 調査概要

#### ① 調査の目的

普段の防災対策や令和4年台風第15号災害での行動に関して市民より意見を伺い、今後の災害対応の検討資料にすることを目的にアンケートを実施した。

#### ② 調査の内容

○気象警報などに関する意識

○台風第15号の際の行動

ア 避難行動について

イ 避難情報の入手方法について

ウ 断水への対応について

エ 災害時に発生したごみについて

オ 災害への備えについて

カ 災害後の対応について

○回答者自身のこと

#### ③ 調査の方法

調査対象：令和4年9月現在で18歳以上の静岡市在住市民1,000人を無作為抽出

調査方法：郵送配布・郵送回収

調査期間：令和5年1月25日（水）～令和5年2月8日（水）

#### ④ 回収状況

発送数	回収数	有効回収数	有効回収率
1,000サンプル	476サンプル	475サンプル	47.5%

\*有効回収数：回収数から全く回答がないもの（白票）を除いた数

#### ⑤ 注意事項

※回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してある。

※百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が100%にならないことがある。

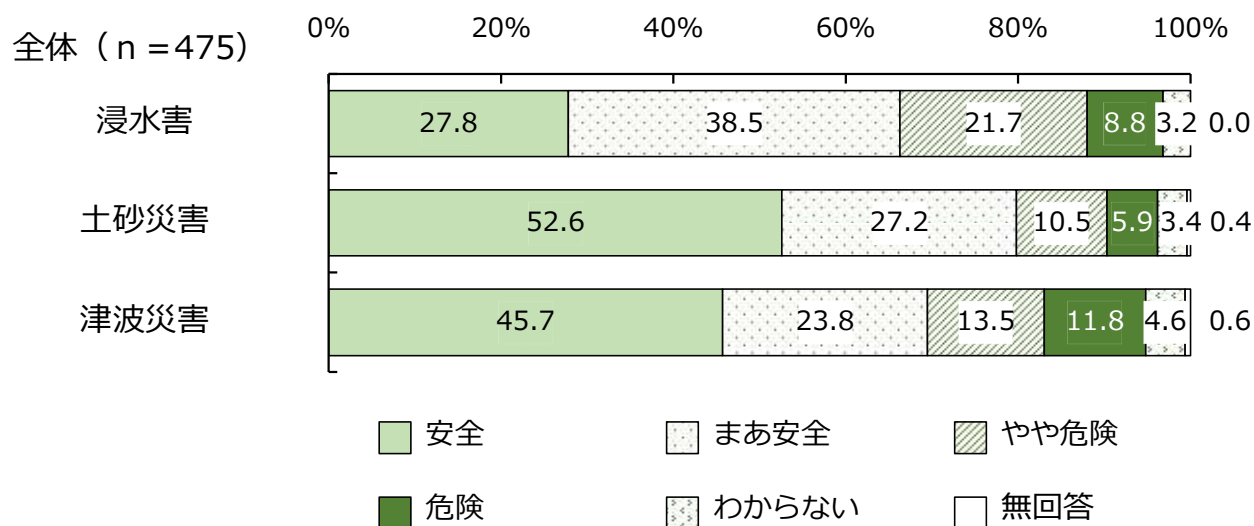
※1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。

※スペースの関係上、一部設問、選択肢の文言を省略している箇所がある。

## (2) 調査結果

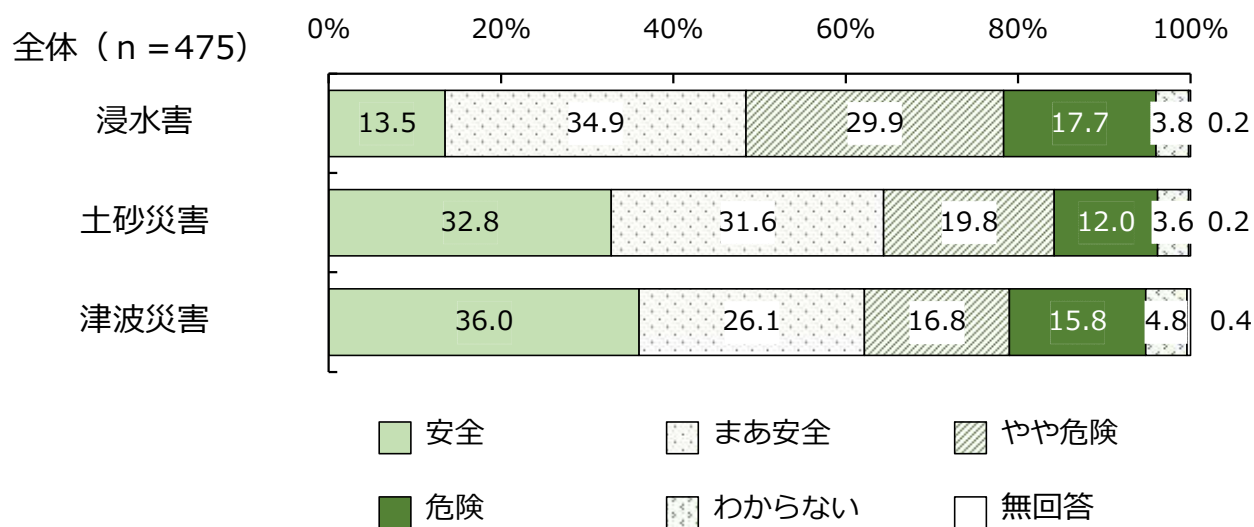
問1～問3は、気象情報などに関する意識について伺った。

問1 あなたは、自宅について、次にあげる災害に対して安全だと思いますか。



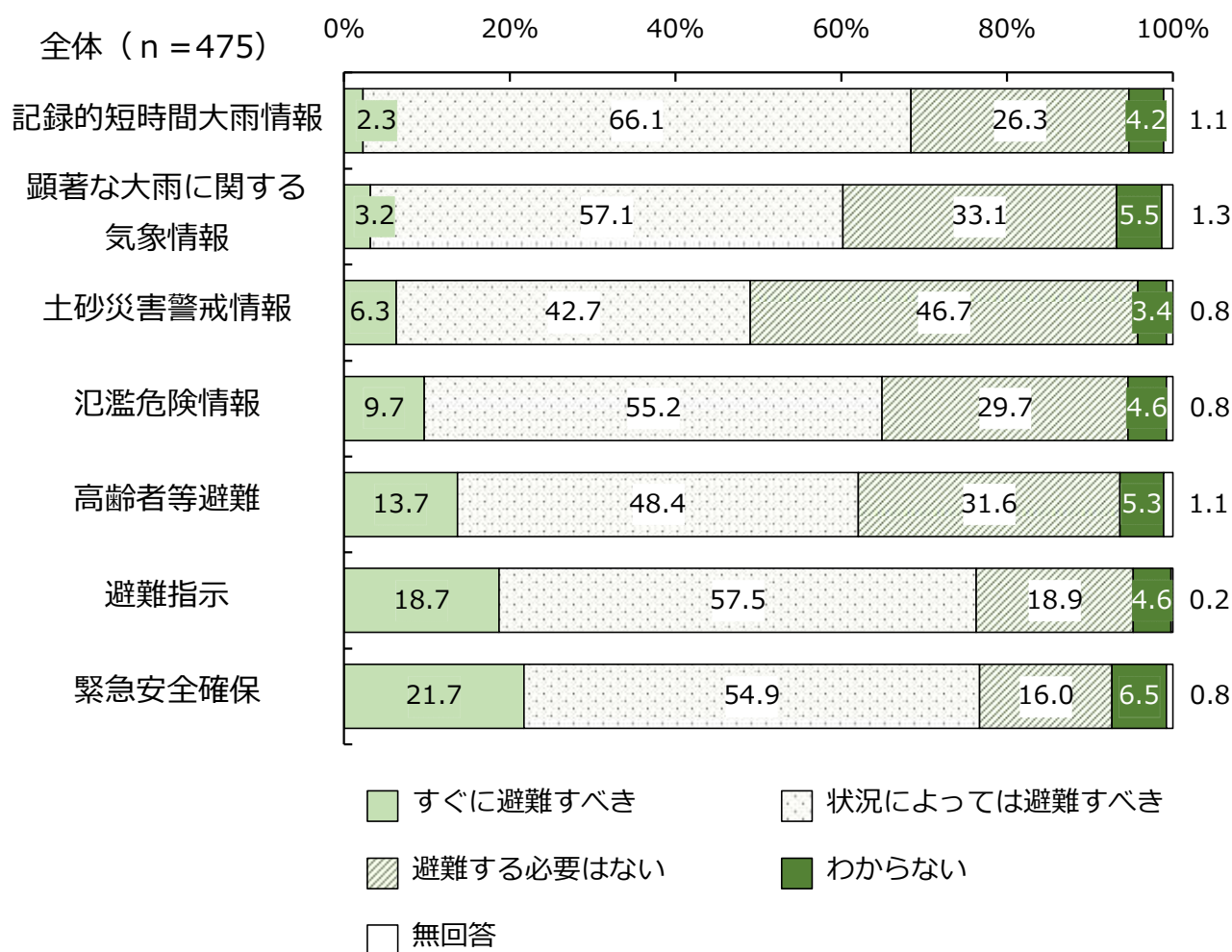
自宅が災害に対して安全だと思うかは、『安全』(安全+まあ安全)が《浸水害》で66.3%、《土砂災害》で79.8%、《津波災害》で69.5%となっている。

問2 あなたは、お住まいの学区・地区について、次にあげる災害に対して安全だと思いますか。



居住学区・地区が災害に対して安全だと思うかは、『安全』(安全+まあ安全)が《浸水害》で48.4%、《土砂災害》で64.4%、《津波災害》で62.1%となっている。

問3 あなたは、これらの情報が発表された場合、どのように行動すべきだと思いますか。

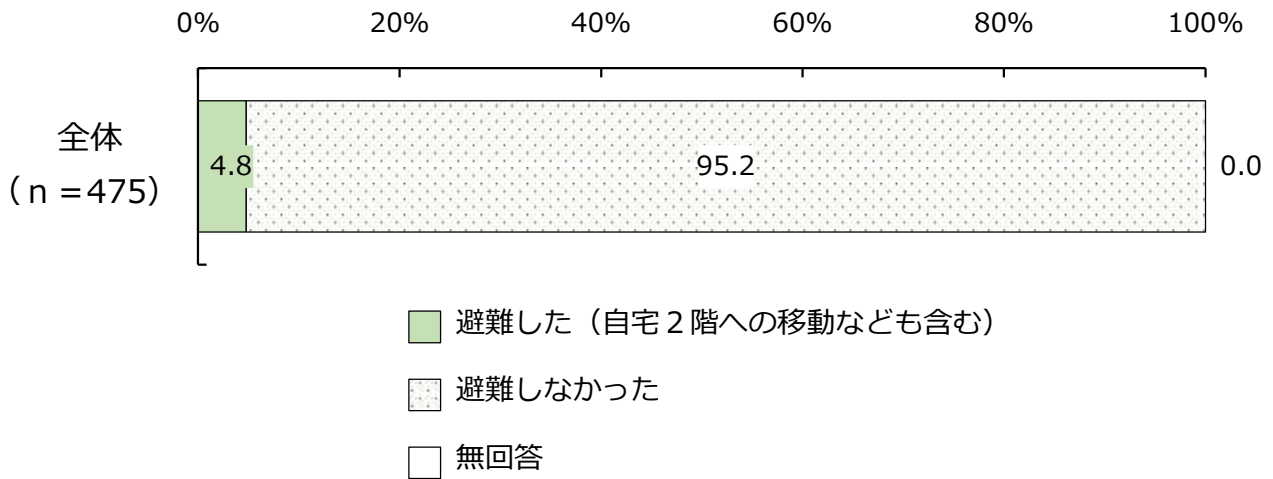


発表された場合に行動すべきだと考える情報は、「状況によっては避難すべき」が《土砂災害警戒情報》を除く情報で最も多くなっている。また、「すぐに避難すべき」は、全員が避難すべきである《避難指示》で18.7%、既に災害が発生している/安全に避難することが難しい《緊急安全確保》で21.7%と少なくなっている。

問4～問27は、台風第15号の際（R4.9.23～24）の行動について伺った。

## ア 避難行動について

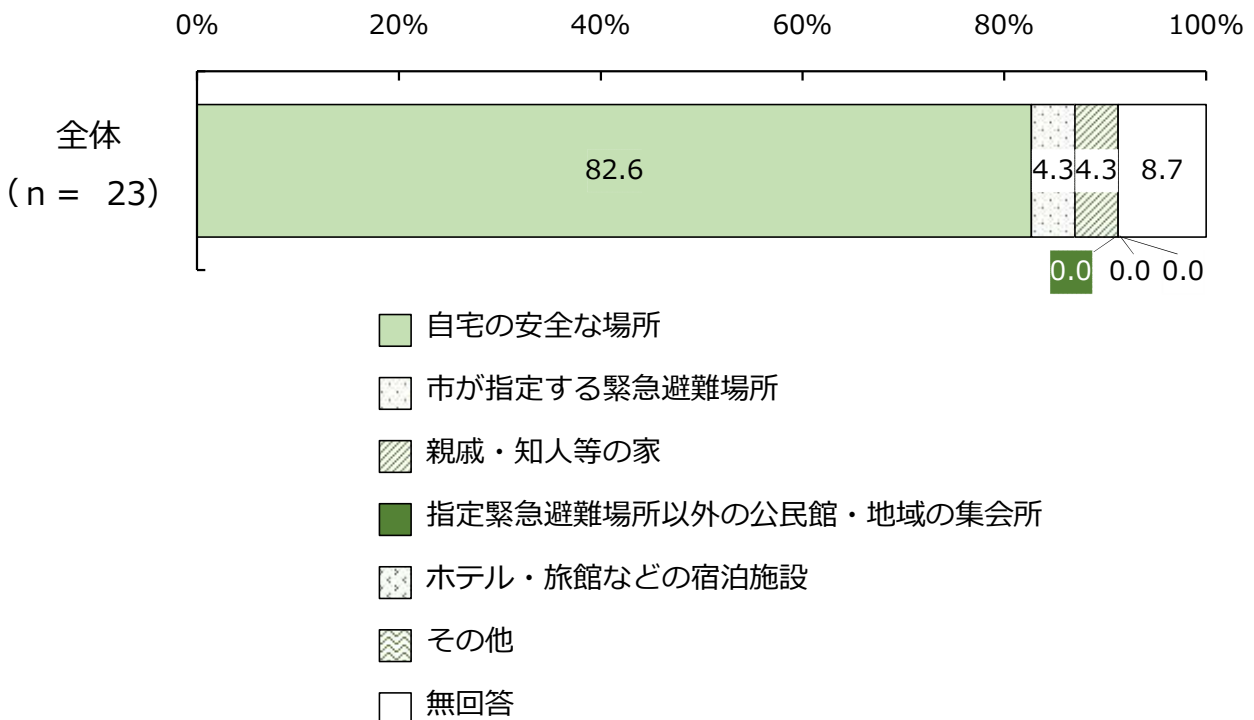
問4 あなたは、台風第15号の際、避難をしましたか。



台風第15号の際の避難状況は、「避難しなかった」が95.2%と突出している。

問4で「避難した」と回答した方のみ

問5 あなたは、どこに避難しましたか。

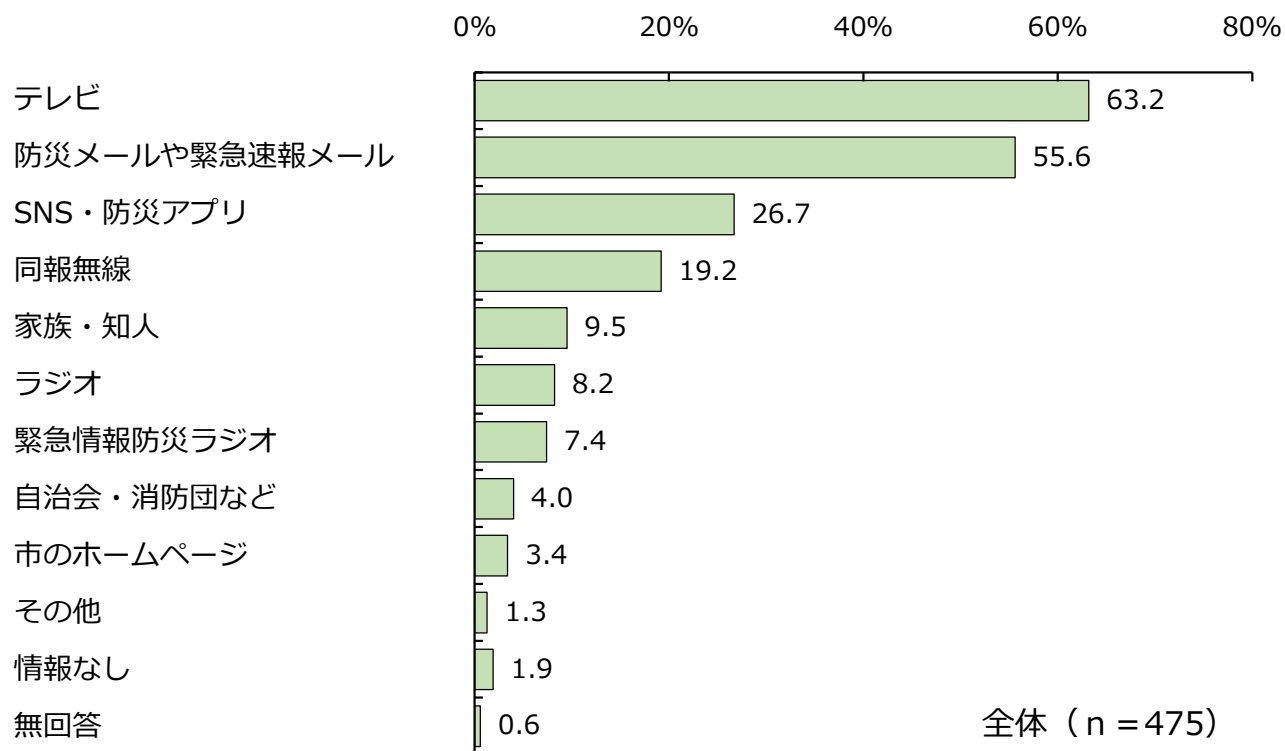


避難した先は、「自宅の安全な場所」が82.6%と突出している。

## イ 避難情報の入手方法について

問6 あなたは「避難指示」などの避難情報をどのように取得しましたか。

(複数回答可能)

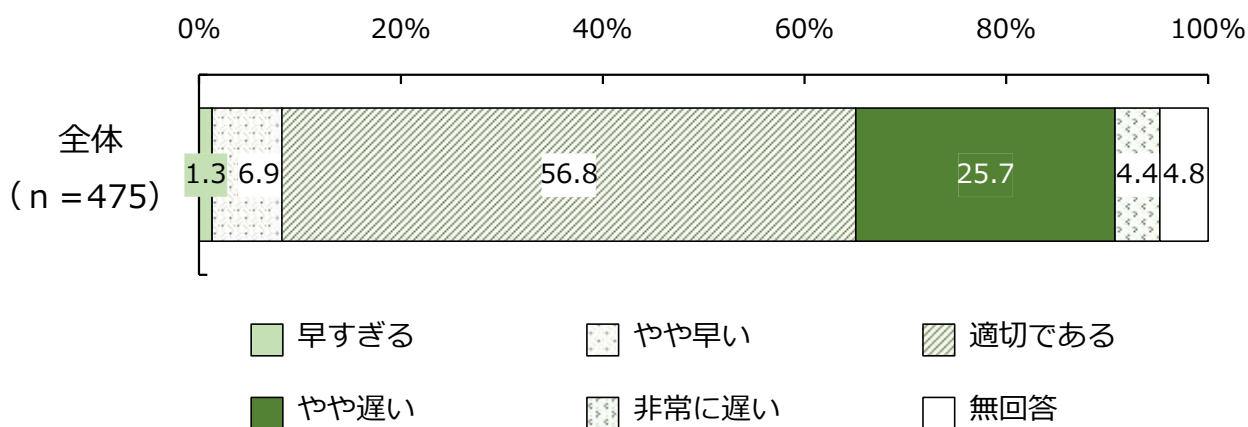


※「情報なし」は、その他の具体的な内容として多く回答されてきたため、集計時に追加した選択肢である。

『避難指示』などの避難情報の取得方法は、「テレビ」が63.2%と最も多く、次いで「防災メールや緊急速報メール」が55.6%、「SNS・防災アプリ」が26.7%などとなっている。

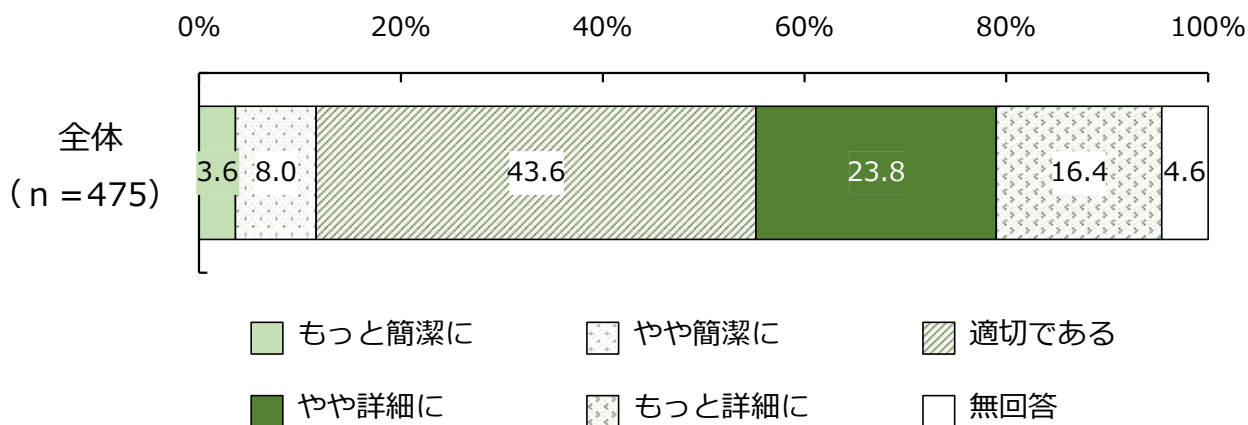


問7 あなたは避難情報の発表のタイミングについてどう思いますか。



避難情報の発表のタイミングは、「適切である」が56.8%と最も多く、次いで「やや遅い」が25.7%、「やや早い」が6.9%などとなっている。また、『早い』（早すぎる+やや早い）は8.2%、『遅い』（非常に遅い+やや遅い）は30.1%となっている。

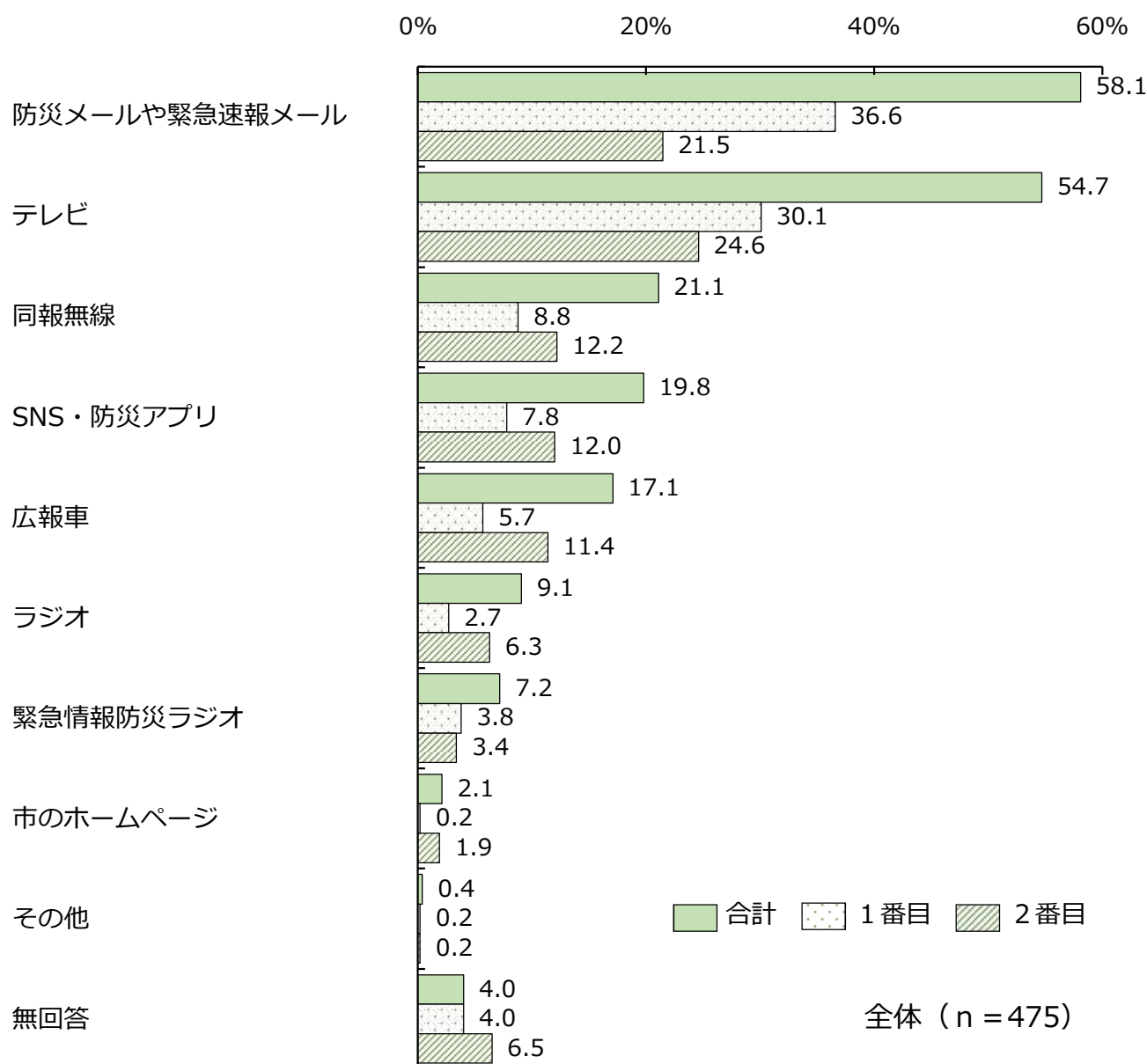
問8 あなたは避難情報の発表内容についてどう思いますか。



避難情報の発表内容は、「適切である」が43.6%と最も多く、次いで「やや詳細に」が23.8%、「もっと詳細に」が16.4%などとなっている。また、『簡潔に』（もっと簡潔に+やや簡潔に）は11.6%、『詳細に』（もっと詳細に+やや詳細に）は40.2%となっている。

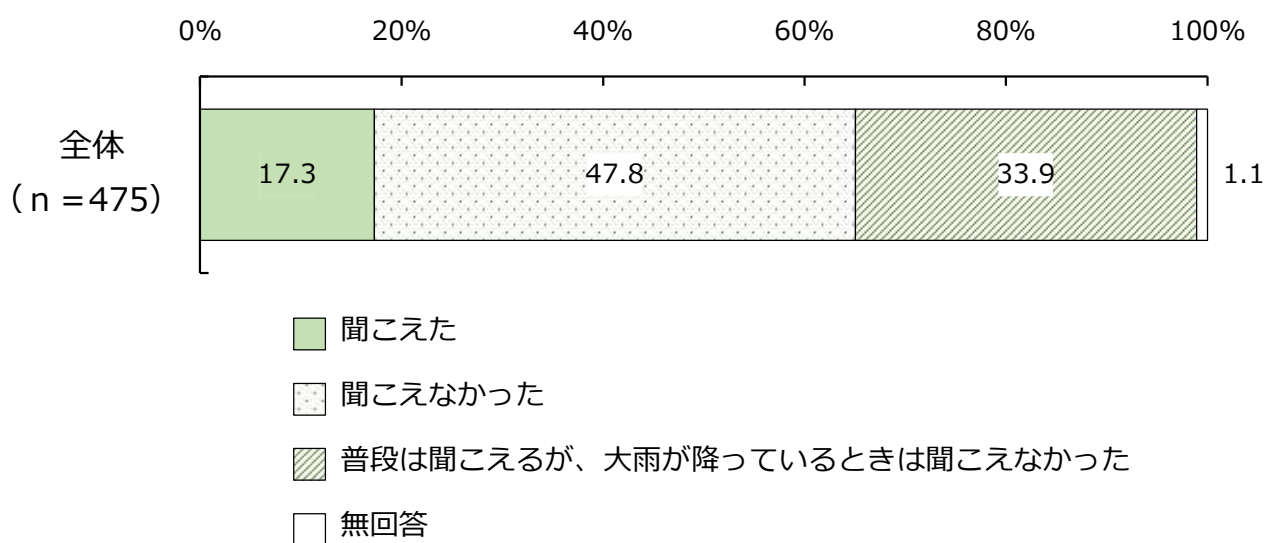


問9 あなたは避難情報について、どのような手段で発信するのが適切だと思いますか。  
 ※最も有効だと思うもの、2番目に有効だと思うものについてお答えください。



避難情報を発信するために適切だと思う手段は、「防災メールや緊急速報メール」が58.1%と最も多く、次いで「テレビ」が54.7%、「同報無線」が21.1%などとなっている。また、最も適切だと思う手段は、「防災メールや緊急速報メール」が36.6%と最も多く、次いで「テレビ」が30.1%、「同報無線」が8.8%などとなっている。

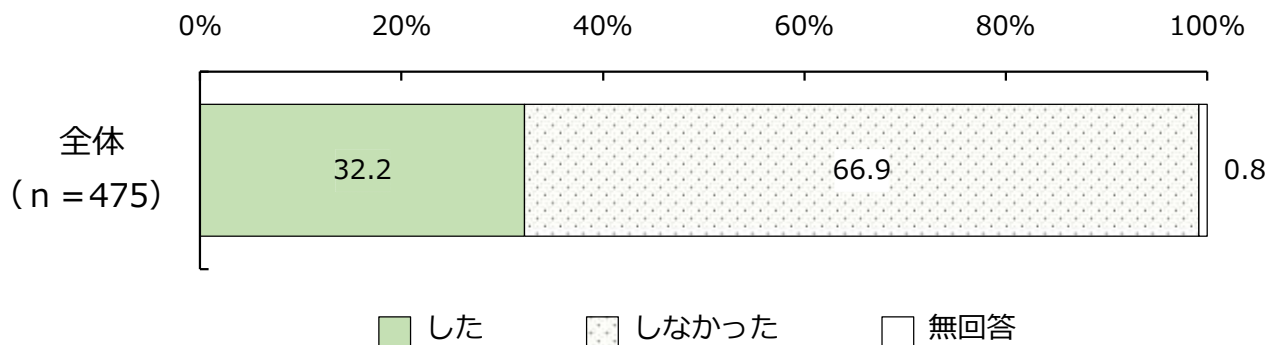
## 問10 同報無線で放送した「避難指示」や「大雨警報」などの情報は聞こえましたか。



同報無線で放送した『避難指示』や『大雨警報』などの情報が聞こえたかは、「聞こえなかった」が47.8%と最も多く、次いで「普段は聞こえるが、大雨が降っているときは聞こえなかった」が33.9%、「聞こえた」が17.3%となっている。

## ウ 断水への対応について

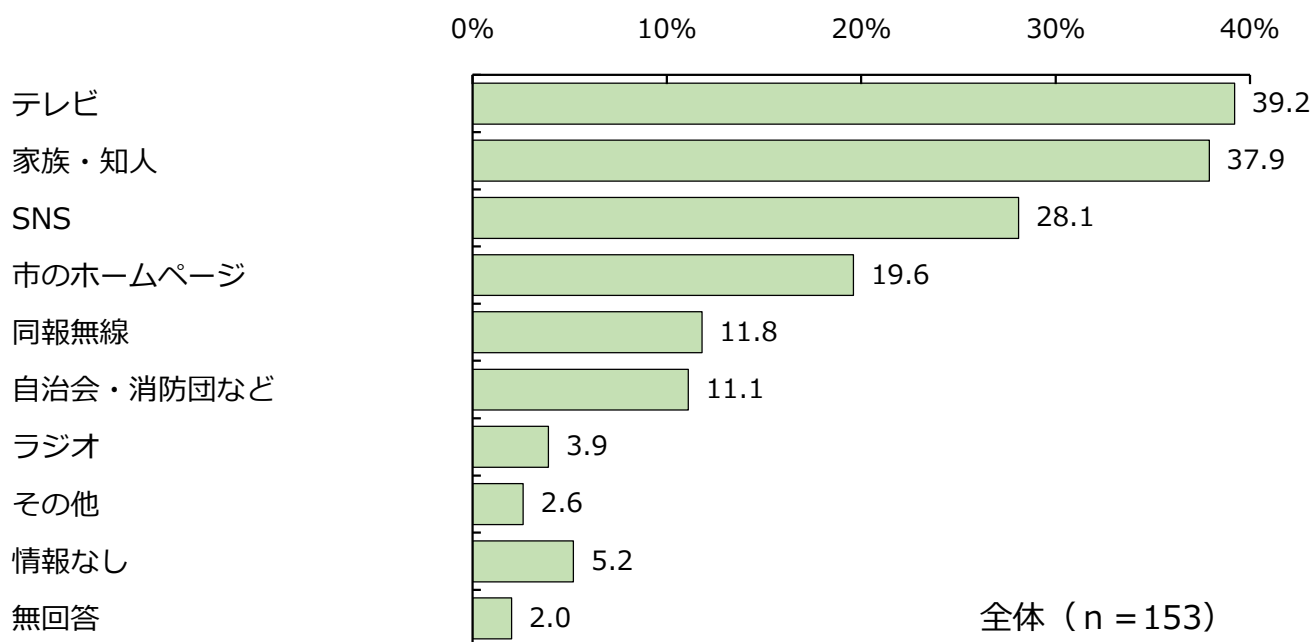
問11 自宅は断水しましたか。



自宅の断水の有無は、「しなかった」が66.9%、「した」が32.2%となっている。

問11で「した」と回答した方のみ

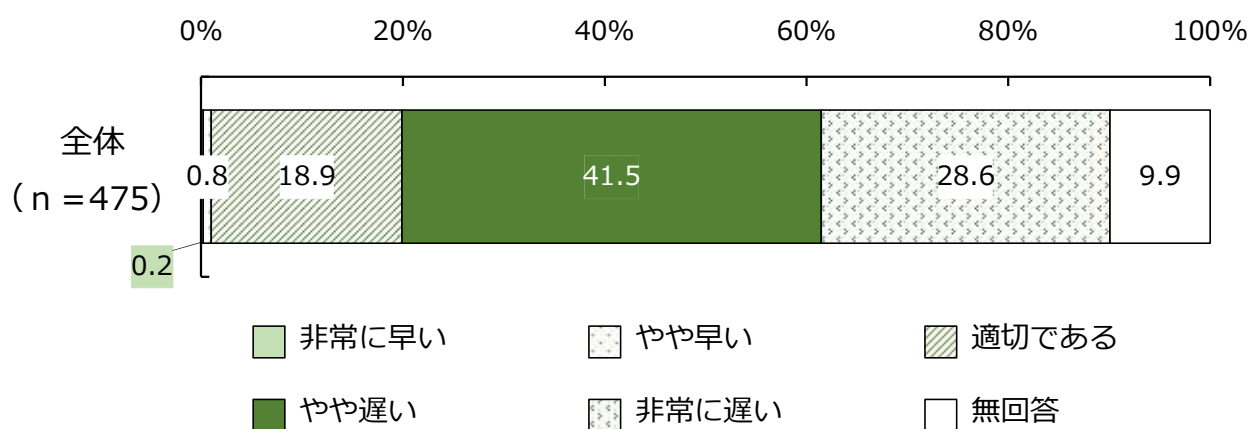
問12 あなたは応急給水に関する情報をどのように入手しましたか。（複数回答可能）



※「情報なし」は、その他の具体的な内容として多く回答されてきたため、集計時に追加した選択肢である。

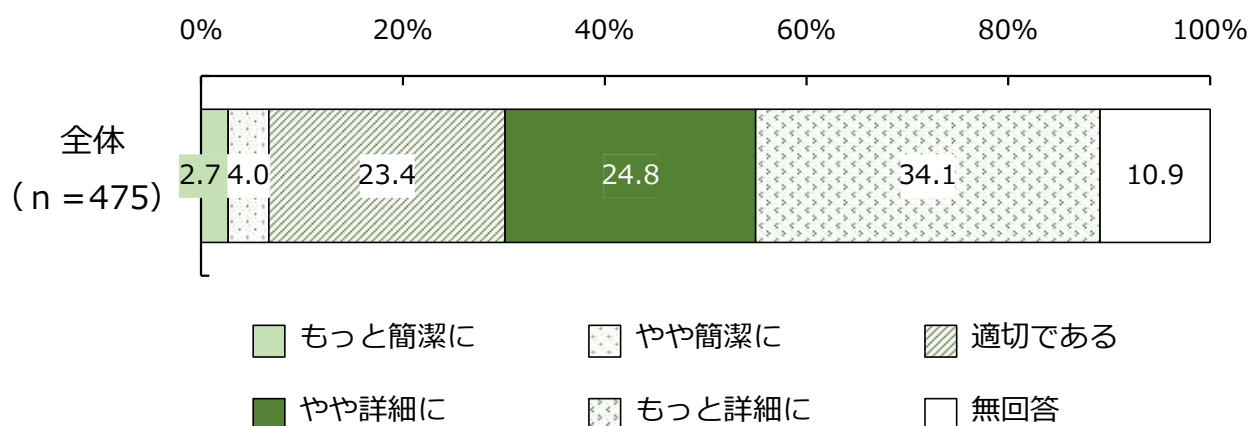
応急給水に関する情報の入手方法は、「テレビ」が39.2%と最も多く、次いで「家族・知人」が37.9%、「SNS」が28.1%などとなっている。

問 13 あなたは応急給水に関する情報の発表のタイミングについてどう思いますか。



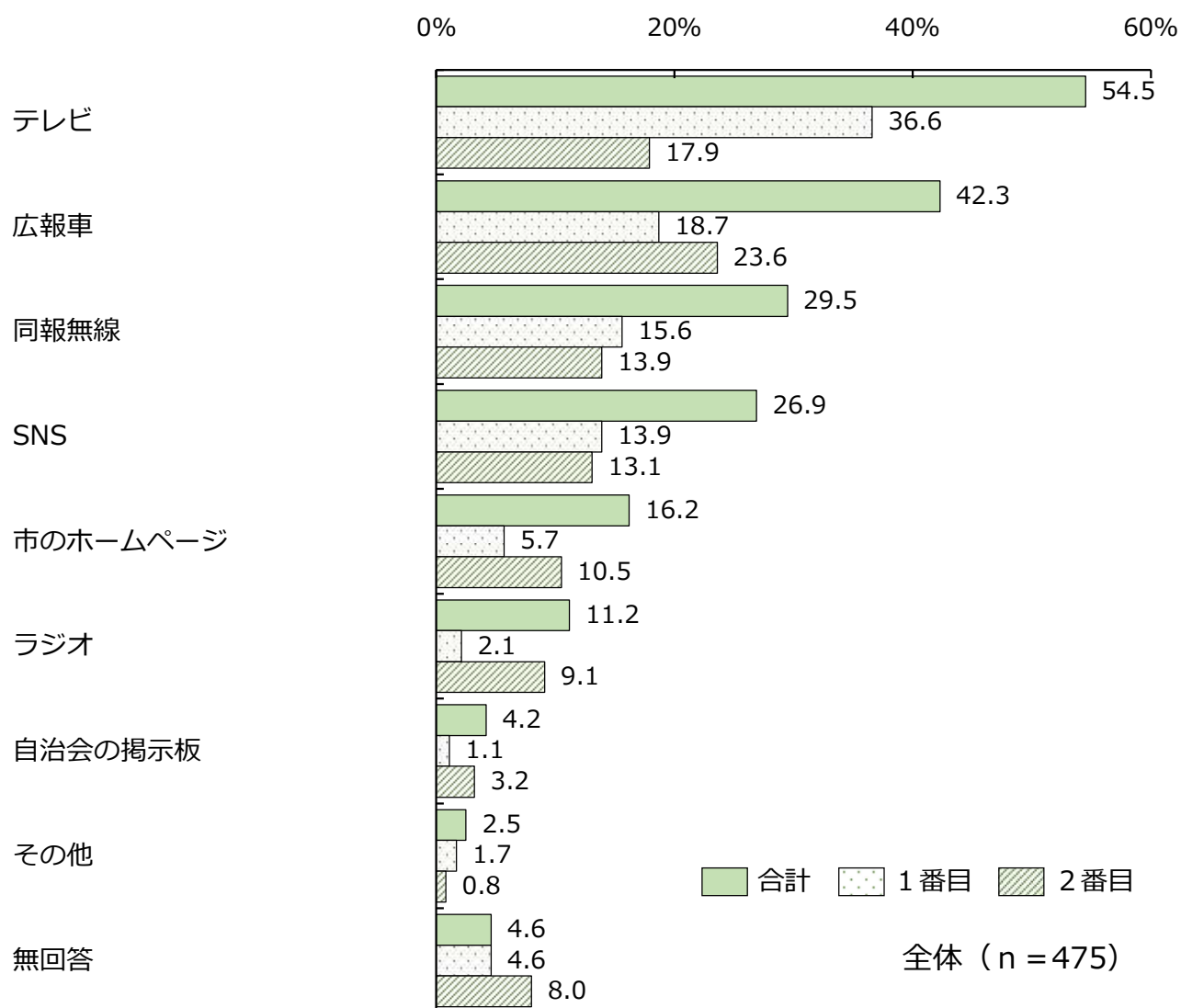
応急給水に関する情報の発表のタイミングは、「やや遅い」が41.5%と最も多く、次いで「非常に遅い」が28.6%、「適切である」が18.9%などとなっている。また、『早い』（非常に早い+やや早い）は1.0%、『遅い』（非常に遅い+やや遅い）は70.1%となっている。

問 14 あなたは応急給水に関する情報の発表内容についてどう思いますか。



応急給水に関する情報の発表内容は、「もっと詳細に」が34.1%と最も多く、次いで「やや詳細に」が24.8%、「適切である」が23.4%などとなっている。また、『簡潔に』（もっと簡潔に+やや簡潔に）は6.7%、『詳細に』（もっと詳細に+やや詳細に）は58.9%となっている。

問 15 応急給水に関する詳細な情報について、どのような手段で発信するのが適切だと思いますか。※最も有効だと思うもの、2番目に有効だと思うものについてお答えください。

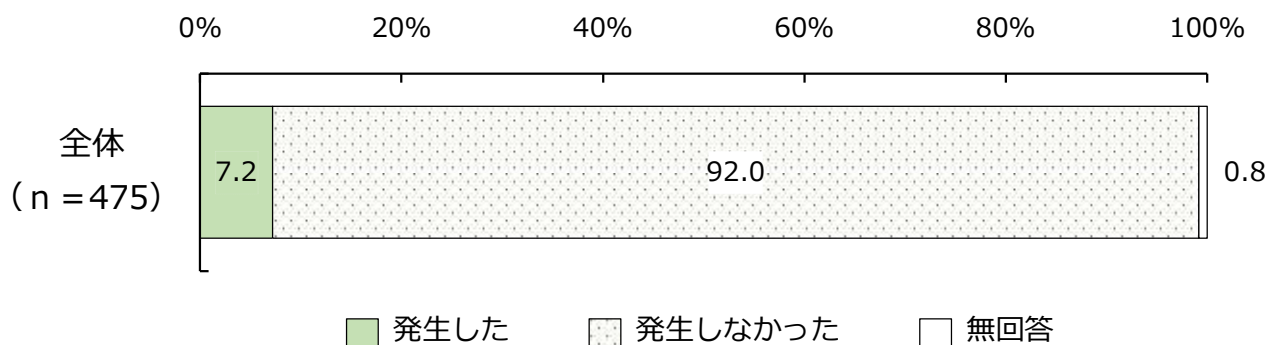


応急給水に関する詳細な情報を発信するために適切だと思う手段は、「テレビ」が54.5%と最も多く、次いで「広報車」が42.3%、「同報無線」が29.5%などとなっている。また、最も適切だと思う手段は、「テレビ」が36.6%と最も多く、次いで「広報車」が18.7%、「同報無線」が15.6%などとなっている。



## エ 災害時に発生したごみについて

問 16 あなたの自宅では、浸水や土砂災害などによる災害ごみが発生しましたか。

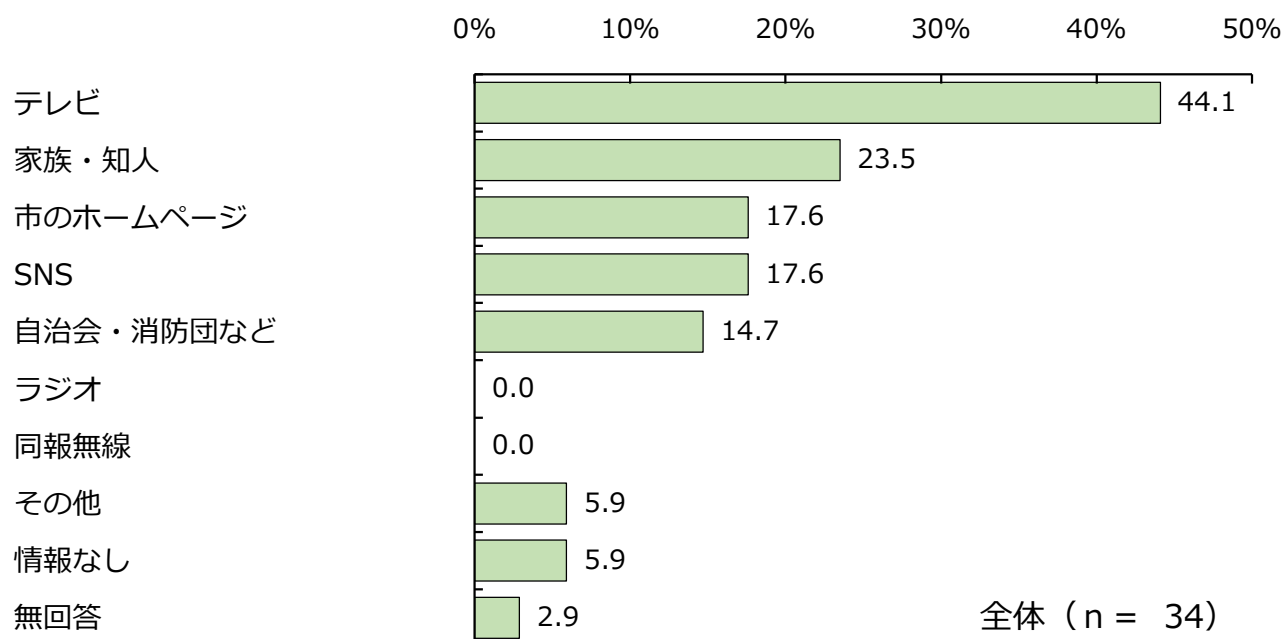


自宅で浸水や土砂災害などによる災害ごみの発生の有無は、「発生しなかった」が92.0%と突出している。

問 16 で「発生した」と回答した方のみ

問 17 あなたは災害ごみの出し方に関する情報をどのように入手しましたか。

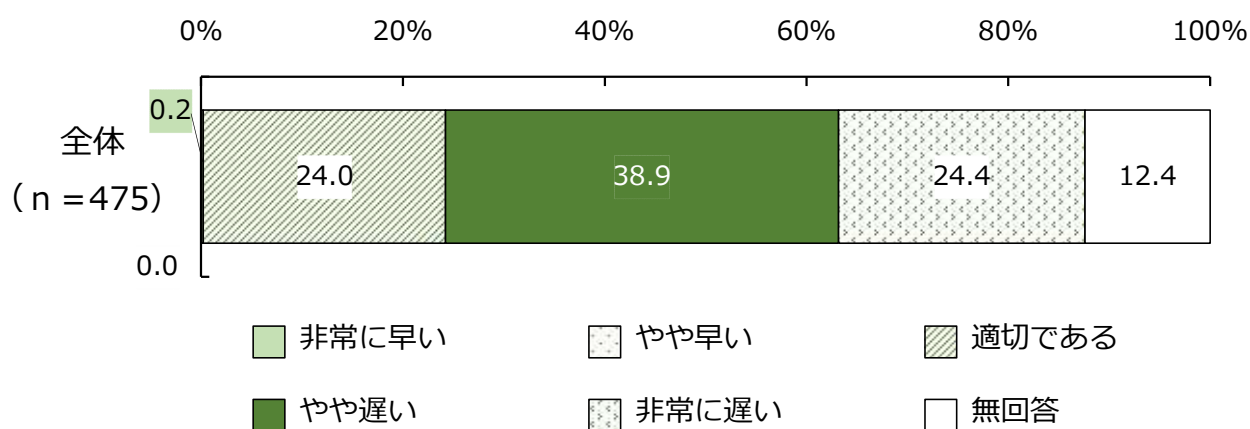
(複数回答可能)



※「情報なし」は、その他の具体的な内容として多く回答されてきたため、集計時に追加した選択肢である。

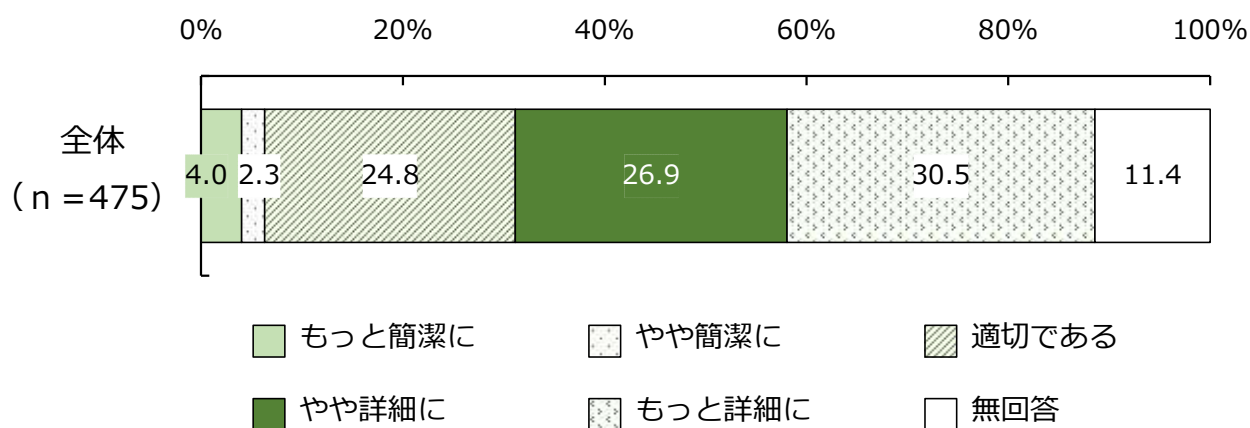
災害ごみの出し方に関する情報の入手方法は、「テレビ」が44.1%と最も多く、次いで「家族・知人」が23.5%、「市のホームページ」「SNS」がそれぞれ17.6%などとなっている。

問 18 あなたは災害ごみの出し方に関する情報の発表のタイミングについてどう思いますか。



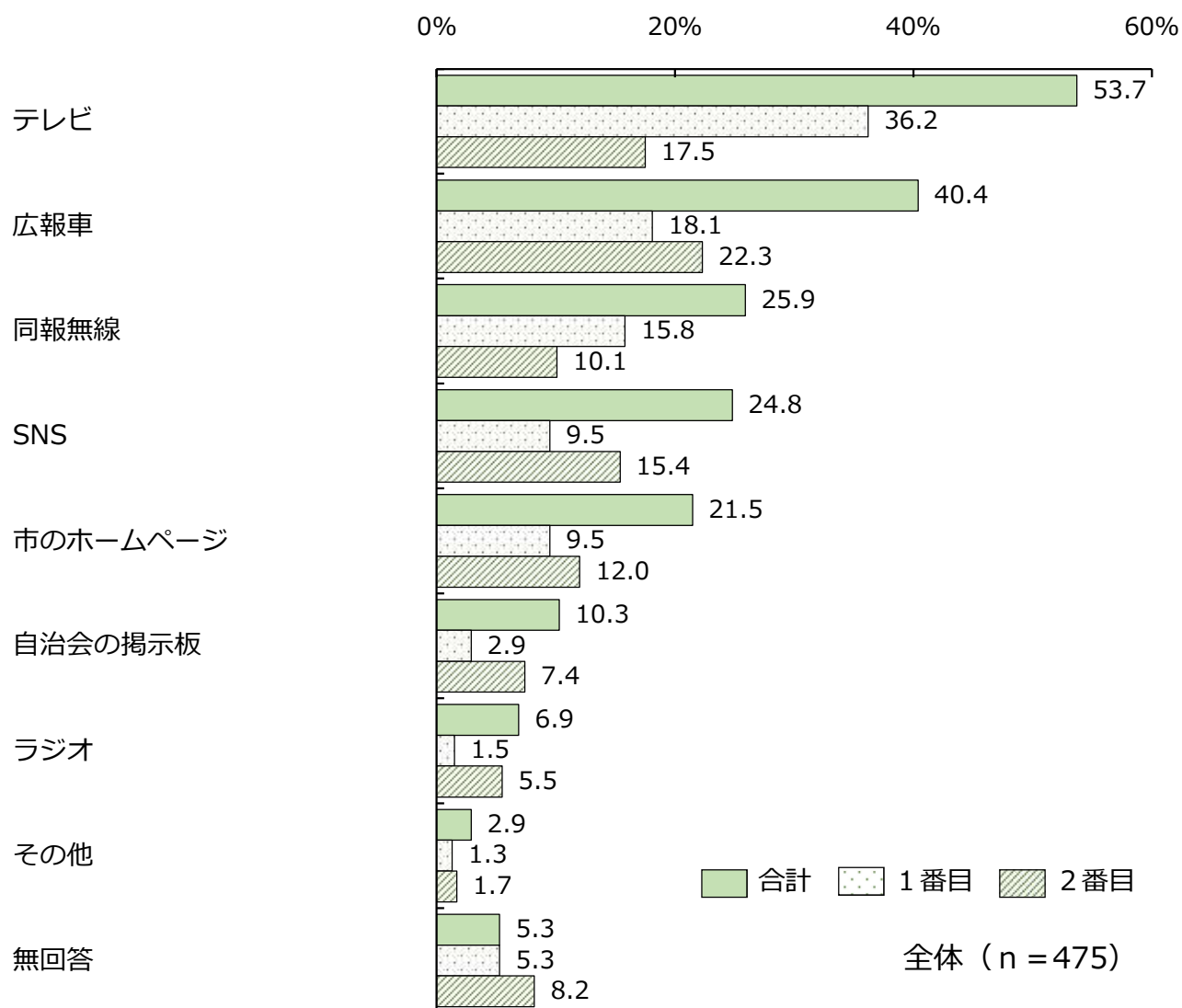
災害ごみの出し方に関する情報の発表のタイミングは、「やや遅い」が 38.9%と最も多く、次いで「非常に遅い」が 24.4%、「適切である」が 24.0%などとなっている。また、『早い』（非常に早い+やや早い）は 0.2%、『遅い』（非常に遅い+やや遅い）は 63.3%となっている。

問 19 あなたは災害ごみの出し方に関する情報の発表内容についてどう思いますか。



災害ごみの出し方に関する情報の発表内容は、「もっと詳細に」が 30.5%と最も多く、次いで「やや詳細に」が 26.9%、「適切である」が 24.8%などとなっている。また、『簡潔に』（もっと簡潔に+やや簡潔に）は 6.3%、『詳細に』（もっと詳細に+やや詳細に）は 57.4%となっている。

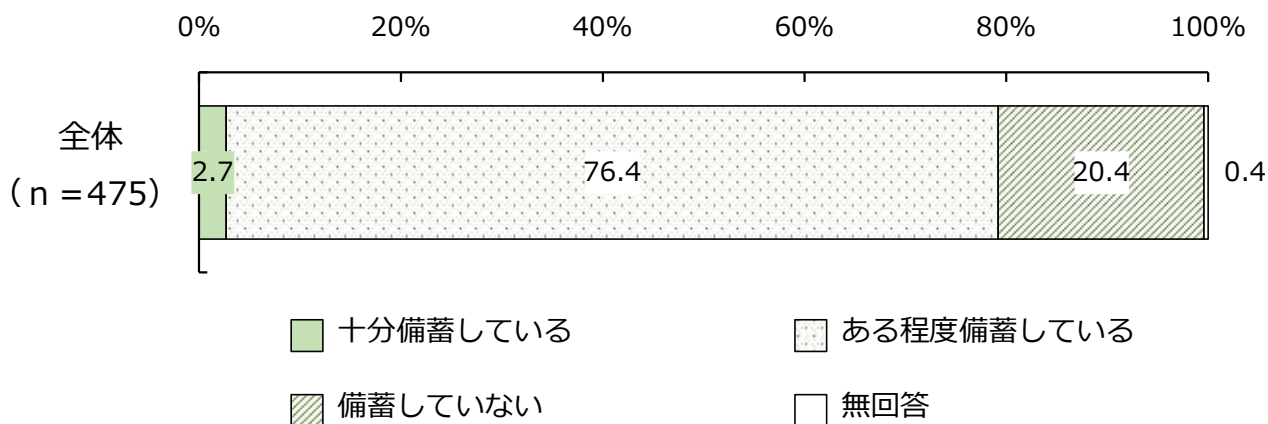
問 20 災害ごみの出し方に関する情報について、どのように発信するのが適切だと思いますか。  
 ※最も有効だと思うもの、2番目に有効だと思うものについてお答えください。



災害ごみの出し方に関する情報を発信するために適切だと思う手段は、「テレビ」が53.7%と最も多く、次いで「広報車」が40.4%、「同報無線」が25.9%などとなっている。また、最も適切だと思う手段は、「テレビ」が36.2%と最も多く、次いで「広報車」が18.1%、「同報無線」が15.8%などとなっている。

## オ 災害への備えについて

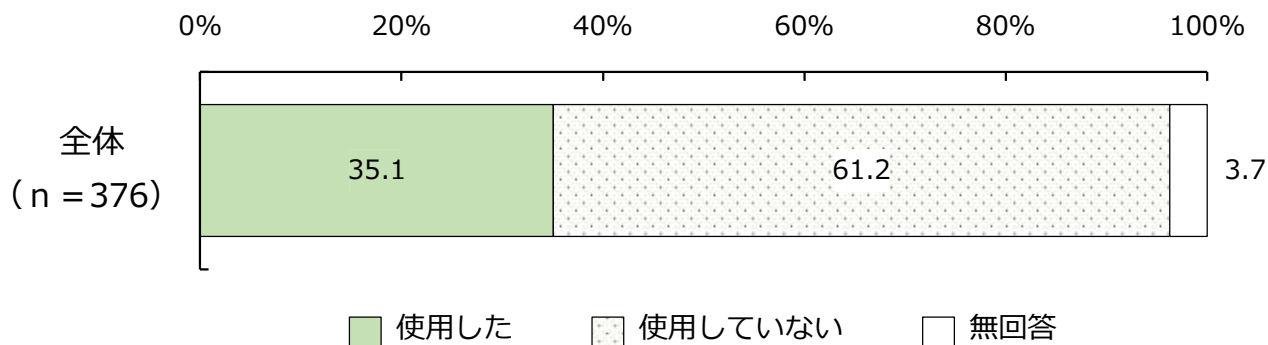
問 21 あなたは、災害に備え、飲料水や食料等を備蓄していますか。



災害に備えて飲料水や食料等を備蓄しているかは、「ある程度備蓄している」が76.4%と最も多く、次いで「備蓄していない」が20.4%、「十分備蓄している」が2.7%となっている。

問 21 で「十分備蓄している」「ある程度備蓄している」と回答した方のみ

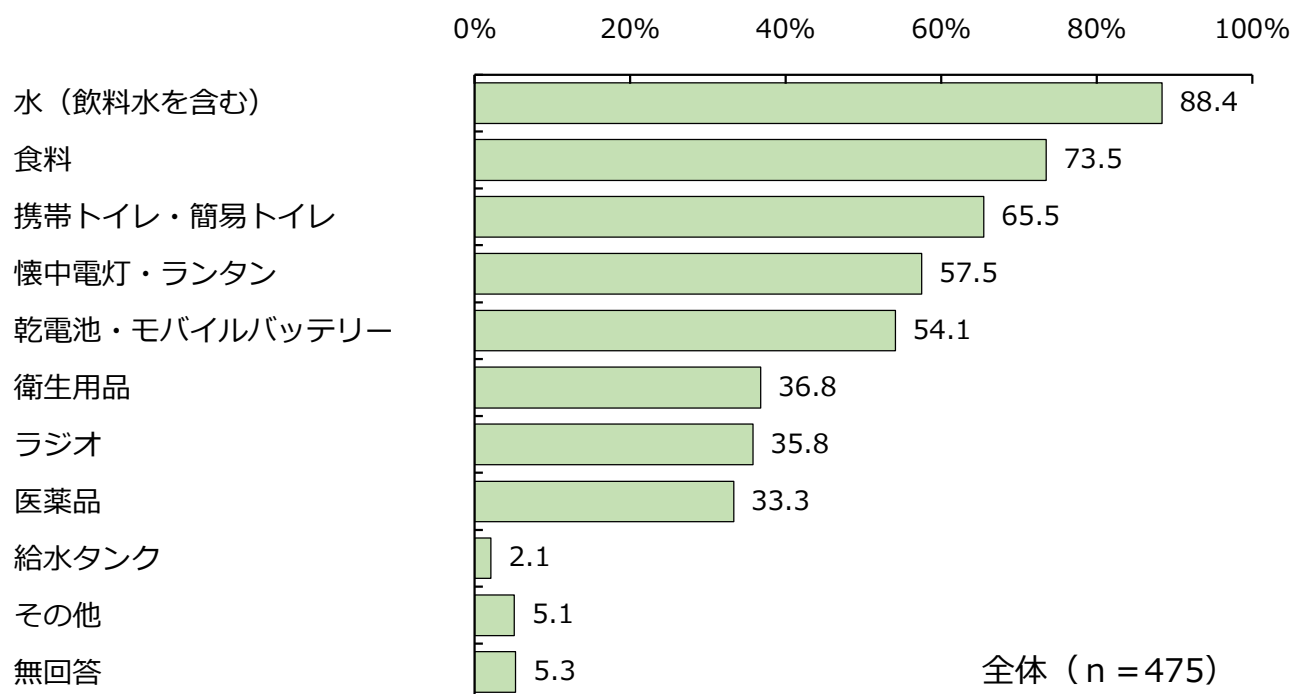
問 22 台風第 15 号の際に、備蓄していた飲料水や食料等は使用しましたか。



台風第 15 号の際に備蓄していた飲料水や食料等の使用の有無は、「使用していない」が61.2%、「使用した」が35.1%となっている。

問 23 台風第 15 号での被災を経験し、あなたが必要だと考える備蓄品はなんですか。

(複数回答可能)



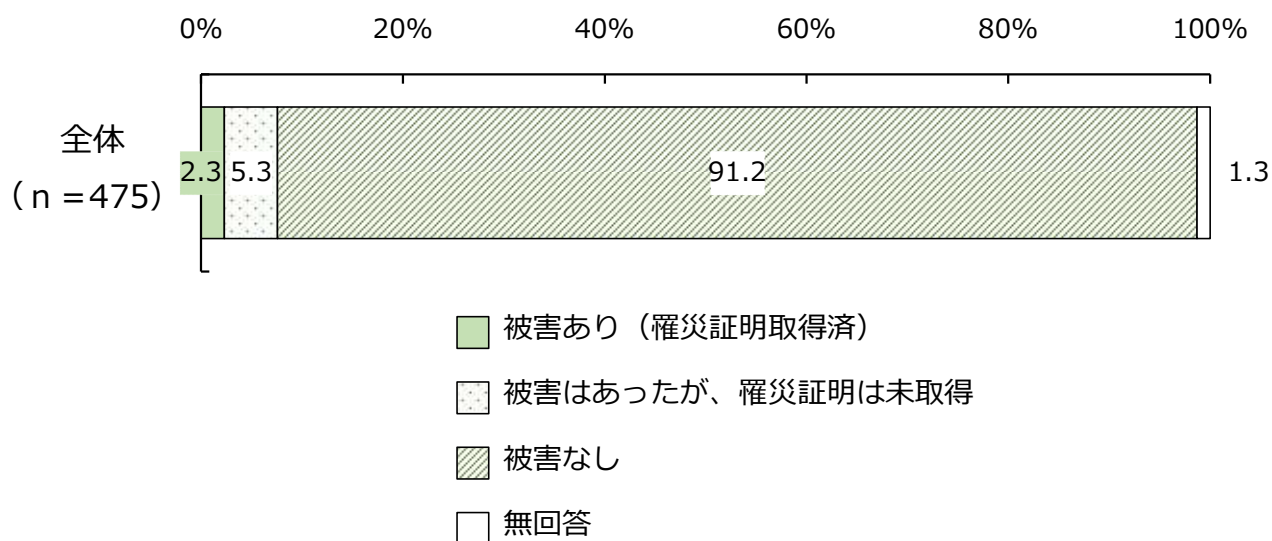
※「給水タンク」は、その他の具体的な内容として多く回答されてきたため、集計時に追加した選択肢である。

台風第 15 号での被災を経験し、必要だと考える備蓄品は、「水 (飲料水を含む)」が 88.4% と最も多く、次いで「食料」が 73.5%、「携帯トイレ・簡易トイレ」が 65.5%などとなっている。



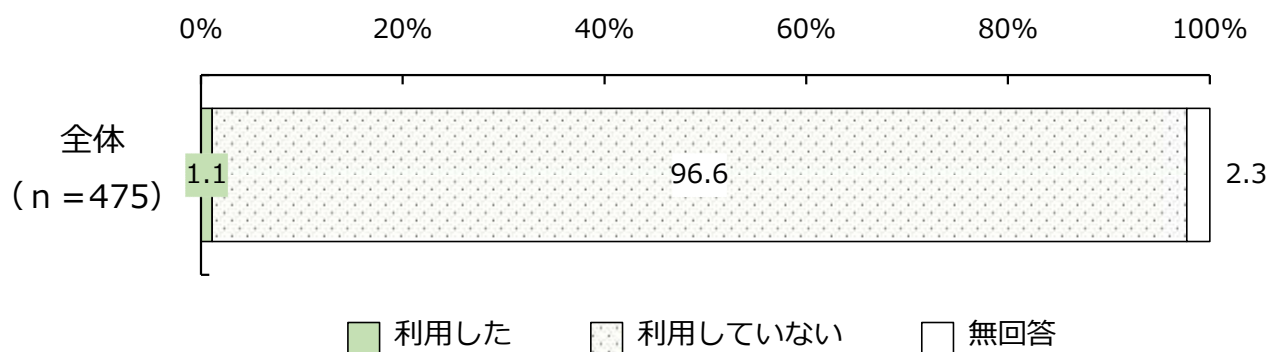
## カ 災害後の対応について

問 24 あなたのお住まいに被害はありましたか。



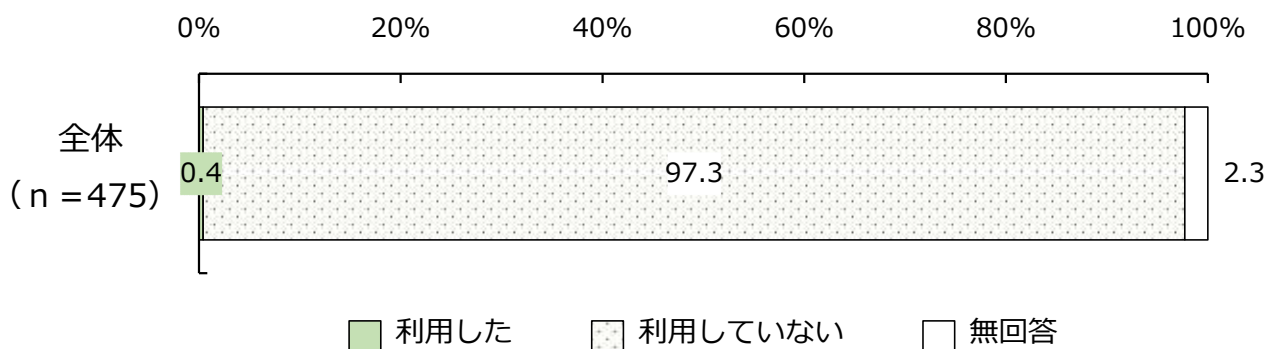
住まいへの被害の有無は、「被害なし」が91.2%と突出している。

問 25 市の生活再建支援窓口を利用しましたか。



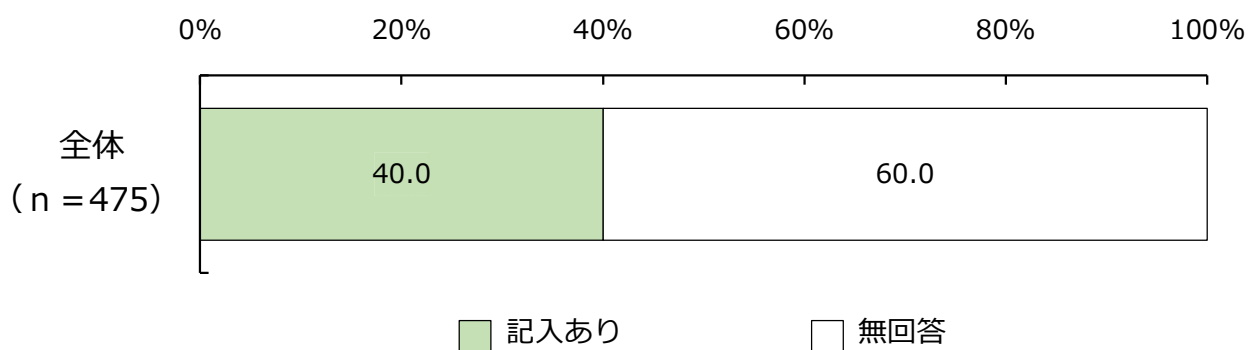
市の生活再建支援窓口の利用状況は、「利用していない」が96.6%と突出している。

問 26 弁護士など、専門家による相談制度を利用しましたか。



専門家による相談制度の利用状況は、「利用していない」が97.3%と突出している。

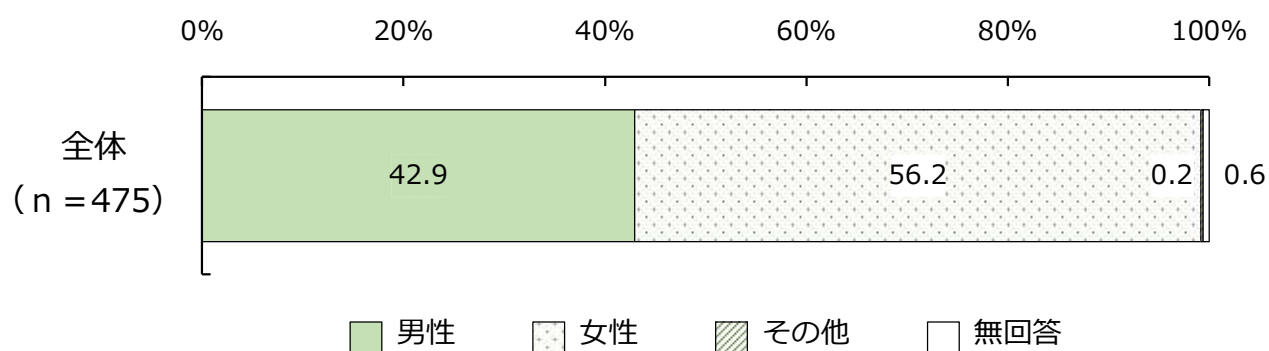
問 27 今後の静岡市の災害対策向上のため、あなたのご意見をください。



今後の静岡市の災害対策向上のための自由意見の記入は、「記入あり」が40.0%となっている。

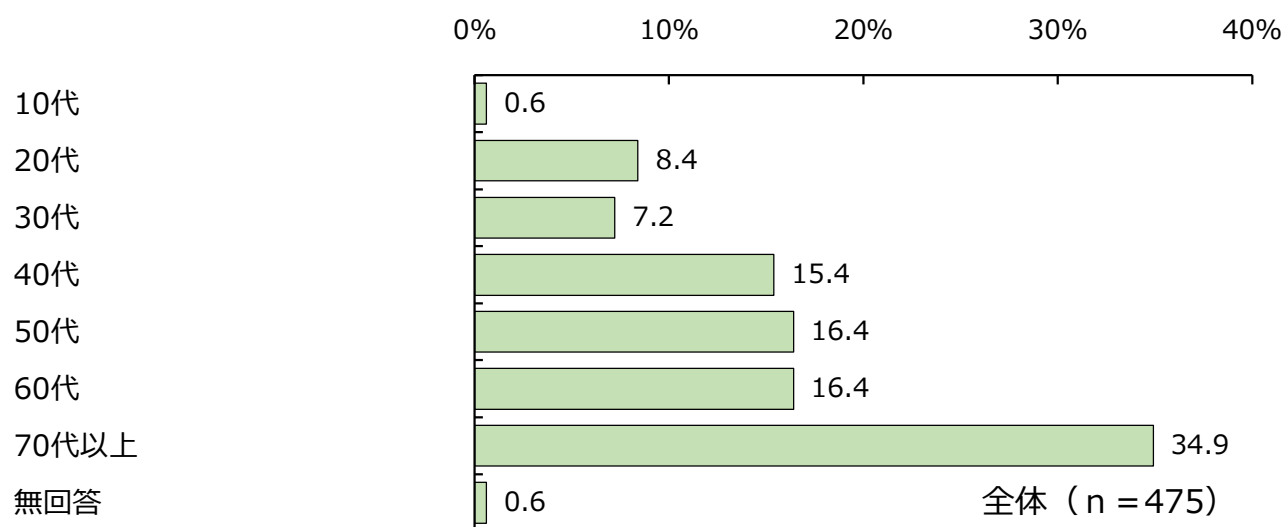
F 1～F 4は、回答者自身のことについて伺った。

F 1 あなたの性別を教えてください。



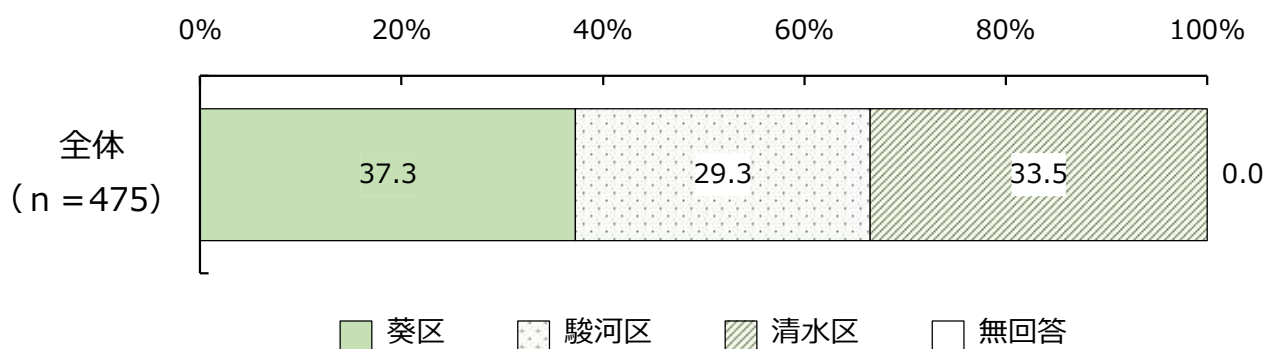
回答者の性別は、「女性」が56.2%と最も多く、次いで「男性」が42.9%、「その他」が0.2%となっている。

F 2 あなたの年代を教えてください。



回答者の年代は、「70代以上」が34.9%と最も多く、次いで「50代」「60代」がそれぞれ16.4%、「40代」が15.4%などとなっている。

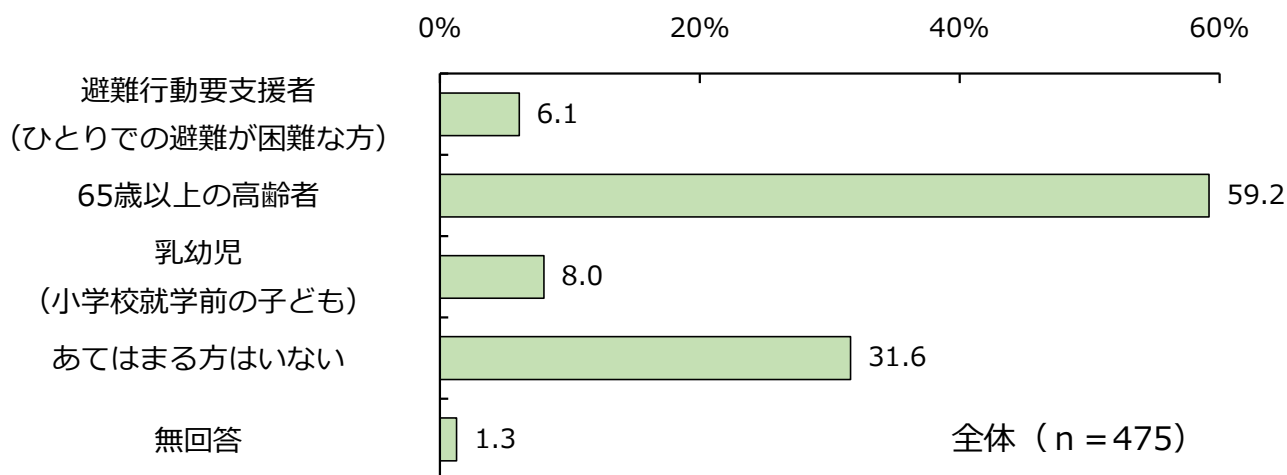
■ お住まいの行政区を教えてください。



居住している行政区は、「葵区」が 37.3%と最も多く、次いで「清水区」が 33.5%、「駿河区」が 29.3%となっている。

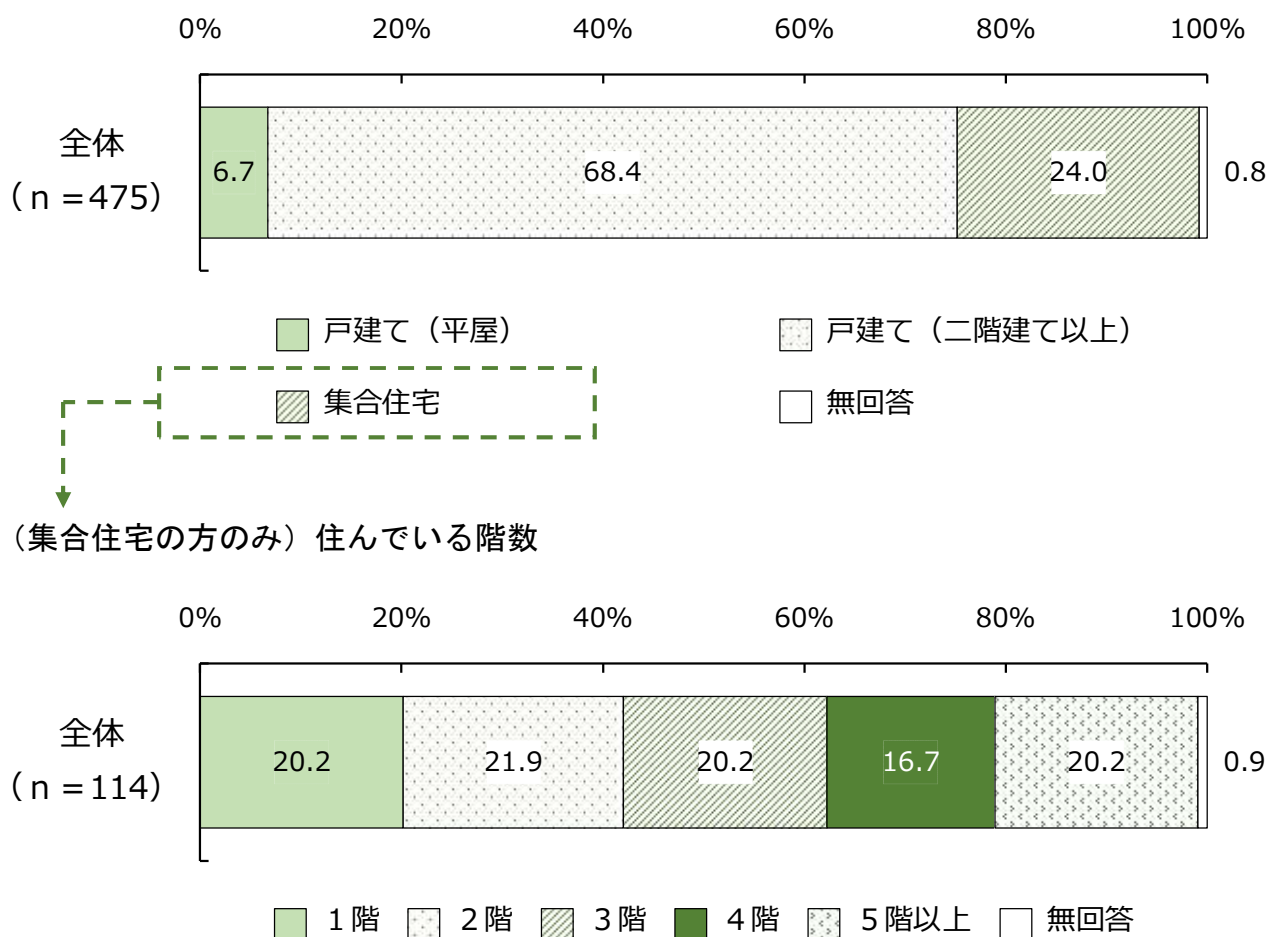
F3 現在、あなた又は同居しているご家族に、次に当てはまる方はいらっしゃいますか。

(複数回答可能)



回答者又は同居している家族に該当する方は、「65歳以上の高齢者」が 59.2%と最も多く、次いで「あてはまる方はいない」が 31.6%、「乳幼児 (小学校就学前の子ども)」が 8.0%などとなっている。

F4 あなたのご自宅の構造を教えてください。また、「集合住宅」を選んだ方は、自宅の階数について、具体的な階数をお答えください。



自宅の構造は、「戸建て（二階建て以上）」が68.4%と最も多く、次いで「集合住宅」が24.0%、「戸建て（平屋）」が6.7%となっている。

集合住宅と回答した方が住んでいる階数は、「2階」が21.9%と最も多く、次いで「1階」「3階」「5階以上」がそれぞれ20.2%、「4階」が16.7%となっている。



## 問 27 (自由意見) の内訳

【葵区 (66 件)】

自由意見	
1	山間部における砂防ダムの補強。土砂災害が起きてしまった時でも車が通れる道の確保。山間部の早めの対策。
2	大雨が降る度、家の裏にある壊れかけたボロボロの空き家が崩れてこないか心配である。我が家は断水せずに済んだが、断水で入浴等が困った方がいた。その時のマニュアルをつくっておいたらどうか。
3	家の中に居ると、同報無線の内容が聞き取れない。停電の場合はテレビも使用できないので、無料 Wi-Fi 等の区画をわかりやすく共有し、インターネットでの情報発信を強化してほしい。
4	状況報告だけでなく、災害ごみや給水施設等の生活に必要な情報を迅速に出してほしい。
5	災害後の断水・停電後の情報を早く的確に知らせてほしかった。避難情報は深夜に何度も流れたが、災害後の情報は非常に遅かった。我が家は停電したので、停電がいつ復旧するのかの情報が得られず、不安だった。
6	自治会長達が苦言を呈したように、災害時にまで市長と県知事の関係性が表面化するのは見ていられない。とてもじゃないが、子どもに説明ができない。
7	河川の治水対策をしっかりとしてほしい。今回山が沢山崩れたので、山崩れのハザードマップ等も作成してほしい。
8	清掃工場の受入状況は、ホームページのトップでわかるようにしてほしい。
9	台風 15 号による土砂災害、浸水被害、津波被害はなかったが、長時間の停電がきつかった。テレビを含め、家電やスマホが使えなかった。ここに対する備えもしておくべきだった。
10	台風 15 号の際に断水はなかったが、停電と通信障害で情報を得られず困った。電池式ラジオは持っていたが、SBS も K-MIX も NHK も普通の番組を放送していたので、情報が得られなかった。カーナビでテレビを観たが、こちらもローカル番組で停電等の情報を発信しておらず、困った。災害時のローカルメディアとの協力をお願いしたい。
11	今回の浸水エリアの治水工事を早めに行ってほしい。
12	災害に対する行政の支援がなさ過ぎる。市長と県知事の連携ができていないことで、自衛隊の派遣が遅れることは有り得ないと思う。辞めてほしい。どうしたら被害が少なく済むか、しっかりと頭を使って考えてもらいたい。
13	会社が清水区にある。情報が中々正確に得られないことがわかった。
14	避難所を早く閉めたことで行き場のない被災者を多数生んでしまったことは、大変残念である。その後の対応があまりにも危機管理総室任せになっていたことも、大変残念である。日頃から小さな子どもをもつ親としても、市の諸々の対応が残念なことが多々ある。一人ひとりの職員が努力していても、横の連携があまりになさ過ぎること、すぐに県や国に助けを求められないという受援力がないことが、後手に回った原因と推察する。市民からの電話に忙殺されないように、まもなく改修が終わる吹田市災害対策本部の視察をおすすめする。
15	今回葵区で停電を経験した。もちろんテレビはつかないのでラジオをつけたが、日常のラインナップのみで全く役に立たなかった。このような時には、SBS ラジオは番組を変えて復旧時期などの情報がほしいと思った。同報無線は、家に居ると残念ながら全く聞こえない。スマホの充電が乏しいので、インターネットで情報を得ることはできない。高齢者なら同じだと思う。
16	自分が住んでいる場所では同報無線は聞こえるが、音が反響して聞き取りにくい。山に囲まれている場所が悪いのかスピーカーが悪いのかわからないが、聞き取りづらい。改善してほしい。
17	設問の選択肢の設定が適切ではない。同報無線は何を言っているのか、常に全く聞き取れない。「広報しずおかです。」という始まりの言葉だけわかる。
18	自宅裏の水路の石垣(安倍川の土手)の石が、台風でいくつか取れた。電話で報告したが、未だに確認に来てもらえない。
19	今回自宅に被害はなかったが、車が水没した。近隣の車を避難させることができるよう、立体駐車場を有する商業施設や店舗が予め市と提携しておけば、水没被害を減らすことができると思う。
20	停電が、12 時間続いた。送電用の鉄塔が倒れたことが原因と知り、重要なインフラである電力供給が大変脆弱であると実感した。鉄塔が倒れても代替的に電力供給できる体制が必要だと思う。

自由意見	
21	最終的にはかなり丁寧な被災者支援が行われていると感じるが、そこに至るまでにかなりの時間を要した印象がある。特に水道については、取水口の閉塞が判明した時点で断水の恐れや節水を呼び掛ける等の広報があれば良かったと思う。今回の対応を時系列に整理して、いつ誰が何をすべきだったかを検証すると、非常に良い危機対応マニュアルになると思う。今でこそ、それなりに評価されているが、熊本も地震直後は酷評されていた。大変だと思うが、静岡市職員もワンチームで頑張してほしい。
22	対応が遅過ぎる。
23	備えあれば憂いなし。普段から備蓄品のチェックをする。
24	長女と同居しているので、各種の申請手続きを行ってもらうことができた。ひとり暮らしの高齢者の場合、床上浸水等の被害を受けてしまったら何もできない。
25	どのような被災者支援があるのかの情報が少なく、友人が途方に暮れていたことが印象的だった。
26	防災情報や防災対策等の相談窓口の設置。既に設置されているのであれば、活用のPR。
27	建物が古く、風が強いとサッシ等がガタガタ音を立てるため、何かあったら心配なことが多い。今外側から壁等の修理をしているようだが、外より中の修理をしてほしいというのが、住民の望みである。
28	川の氾濫や断水がないようにお願いしたい。
29	静岡地区だけの災害であれば、すぐに自衛隊や他の地域の力を借りてほしい。
30	自営業でも会社勤めでも、災害を受けて復旧作業を行った方への休業補償。
31	今回の災害ではスマホがつながらず、テレビもつかず、情報源は同報無線だけだった。しかし、放送が沢山あるわけではなく、問の選択肢にあった広報車が回ってくれるわけでもなく、全く情報がなかった。電気がついた後にもテレビで災害の情報が流れたわけでもなく、職場で人と話して驚くことも沢山あった。スマホを持っていない人、テレビを観ない人、情報収集の方法がわからない人でもわかる情報発信方法をお願いしたい。
32	職場が清水区で、断水した地域が多くあった。給水車を小学校に設置してくれて助かったと思うが、混雑具合に差があったようだ。また、持ち帰れる水量にも差があって、給水車の水がすぐなくなってしまい、次の補給車を何時間も待つことになったと聞いた。混雑具合についての情報発信や不平等にならないための対策があると良いと感じた。
33	浸水しないよう、水が逃げるところがほしい。公園に集めた災害ごみが乱雑に置いてあったので、崩れた時に危ないと感じた。もっと市長と県知事の連携をとってほしい。市民として対応が遅いと困る。
34	清水区の実家が床上浸水した。深夜の出来事なので市のフォローにも限界はあると思うが、もう少し危機的な呼び掛けがリアルタイムであれば、家財等をどかさ余裕ができたり、災害ごみも少なくできたりしたのかなと思う。水や食料等の支給は十分あったが、山の近くに住む高齢者やもっと困っている人への助けが行き届いていないイメージがあった。水の支給等が間に合っているところではなく、本当に動けなくて困っている人のところへは自衛隊は出動しないのかなと思った。
35	高齢者は水の確保が難しいので、灯油販売のように各戸に給水車が回る仕組みが必要である。台風被害から4か月経過しても、まだ被害に遭ったことに対してSOSを出せない人がいたり、放置されている人がいたりする。SOSが出せない世帯等がないように、要援護者名簿の作成や発災後のアウトリーチを早い段階からローラー作戦でやるべき。健康被害や二次被害が起きてしまう。今回は停電もあったが、オール電化の世帯が増えているので電気がないことは致命的である。復旧は早いですが、病院のように停電してもリカバーできる備えを地域としてできないだろうか。信号等がとても危なかった。
36	情報が遅過ぎる。SNS等をもっと活用するべき。
37	停電で全く何もできなくなってしまった。太陽光発電がないオール電化なので、最悪だった。この日に限って1人だったので、かなり心細かった。いつ電気がつくかもわからず、携帯電話も電波がなく、孤独で怖かった。テレビもラジオもSNSもなく情報が入ってこなかった。携帯電話の電波は必ず確保できるようにしてほしい。
38	とにかく、驚くほど情報発信が遅い。今は発信できる情報をいち早くSNSで提供することは常識である。我が家は何の被害もない地域だったが、静岡市のどの地域がどうなっているのか、テレビでも何の情報も流れてこなかった。緊急時はローカルのマスコミとも連携すべきではないか。今回の台風の対応で、静岡市が褒められる点は1つもなかった。全国に向けて静岡市民であることが本当に恥ずかし過ぎる。人並みの仕事はしてほしい。

自由意見	
39	電気自動車が増えていくと思うが、充電できる場所が少ない気がする。鳥坂等の河川の整備ができていない。自宅周辺を含め、側溝の中が土で埋まっている。
40	自分を含め、テレビを持っていない（観ない）人が増え、情報はパソコンやスマートフォンからの SNS だけという時代になりつつあると思う。同報無線が頼りになると思う。高齢者でも同報無線に耳を傾けているので、災害時は大きな音でも良いと思う。広報車にも来てもらえれば、尚良いと思う。
41	テレビでは報道されていないが、とても酷い被害があった地域があった。住民はかなりの日数をかけて、ボランティアと協力して土砂や泥を片付けていた。静岡市等が対応してくれるものと思ったが、何もしてくれなかったようである。もう少し早く対応できなかったのか。
42	清水区の災害のことを何も知らず、数日後に仕事で清水方面に行って知った。同じ市内なのに、報道や情報が少ないことに驚いた。新型コロナウイルス感染症のワクチン等、全てにおいて静岡市の対応の遅さに驚くばかりである。
43	何年も前から自宅裏の急傾斜崩壊対策を依頼しているが、二度土砂が大量に流れ込んだ。全て自費で片付けた。市や県ともに行政には期待していない。アンケートをしたという既成事実だけが目的の静岡市役所ではないことを、一市民として期待する。
44	避難場所の東千代田小学校に行くためには、巴川を渡らなければならない。暴風雨の時に橋を渡るのは怖い気がする。
45	このような災害の時は、やはりどこから情報を得るかが大事だと思う。今回は停電したので携帯電話のありがたみをひしひしと感じた。自宅では同報無線が全くと言って良いほど聞こえない。普段は静かで良いが、災害時は不安になる。今回の停電では、中電のホームページや SNS、ハッシュタグからの検索で色々見たが、それ等がまとまっているページがあれば、もっと大きな災害が起きた時に楽だと思う。通行できない道路等、行かないとわからないことも不安になる。今まで被害がなかったので慢心があったと、今回の台風で思った。
46	雨がものすごく降っていると、同報無線が全くと言って良いほど聞こえない。どうにかならないか。高齢者が皆スマホを使えるわけではないので、何とか情報が行き渡るように考えてもらえないか。
47	今回の台風災害への行政の対応が非常に遅かったことに、憤りを感じている。浸水した翌日には被災者の生活が一変して、路頭に迷うことになる。しかし、片付けを進めなければ、生活はままならない。問い合わせをしたくても、休日で市役所にはつながらない。大量の汚泥やごみをどのように処分すれば良いのか、どこに持っていけば良いのか。運ぶにしても、車は廃車となって使えない。休日だから役所に電話がつながらないというのは、緊急時には通用しないと思う。即座にホットラインを開設できるシステムをつくってほしい。こちらから問い合わせないと色々な情報を得ることができないということも改善してほしい。スマホから情報を得ることができない高齢者は沢山いる。アナログな方法だが、市の広報車でごみ出しの方法等の情報を放送しながら被災地域を巡回することが、被災者としては一番わかりやすいと実感した。同報無線は、全く聞こえなかった。広報車で巡回することで、情報を提供しながら市職員が被災地の状況を把握することができると思う。テレビに災害専門チャンネルをつくり、24 時間災害についての情報を放送してほしい。今回は、早いうちから断水についてニュースで放送されていたと思う。そのニュースを観ながら、私達のように床上浸水が 70 センチにもなる地域のことが取り上げられないことに、不満を覚えた。とにかくすぐ現地を見に来てほしい。市役所や県庁の職員やその家族、知り合いの中にも、被災された人もいると思う。そのような人達から聞き取りをして情報を収集することも、現状を迅速に把握する手段の 1 つとなるのではないかと思う。今回の我が家の被災が、どこの河川がどのように決壊したことによるものなのかを、詳しく知りたい。それがわからないと、今後の改善要望を具体的に言うことができない。同じような災害が起こらないよう、早急な巴川整備を行ってほしいと願う。静岡新聞に巴川の整備に 10 年位かかるという記事が掲載されていた。それまでの間にも、温暖化の影響で同じような災害が必ず起こる。来年また起こるかもしれない。その度に同じような労力や精神的苦痛に悩まされることは、本当に辛く、耐えがたいものである。時間が掛かるのであれば、その間に浸水エリアの河川の川底の泥を撤去したり、雑草を根から除去したりする等、水捌けの良い状況にする必要があるため、年数回の工事を強く希望する。今回一番感謝したいのは、ごみ収集車の清掃員である。市役所に電話しても、順番だから、混んでいるから等、残念ながら迅速な対応してもらえなかった。そのような中、ごみ収集車の清掃員は臨機応変に迅速な対応を嫌な顔ひとつせずに行ってくれた。本当にありがたく、感謝の気持ちでいっぱいである。
48	市長にしっかりしてもらいたい。静岡市の職員も同じく、しっかりしてほしい。



自由意見	
49	小さな土砂崩れが起きたので、土砂の片付け方について市役所に電話した。各自で片付けをするが、片付け場所は決まっておらず、取りに来てくれるわけでもないということだった。山崩れの土砂だから「山に捨てて良いか？」と聞くと「それは困る。」との返事で、どうしようもないという結果だった。片付けについての指示をテレビで観たのは、それから2週間位後だった。避難場所は美和中だが、足久保川と安倍川の合流地点にあり、この辺りでは一番危険である。学校に何もないので、各自必要なものを持って避難し、場所は早い者勝ちという現実である。これでは、自宅に居た方がマシになってしまう。
50	台風等の大雨時に水害が起きる可能性の高い河川の早期改善。防潮堤等の津波対策の強化。
51	他の市町村に比べて遅かった。
52	情報発信が遅過ぎたので、状況把握ができなかった。
53	葵区に居住しているので、清水区の友人宅に食料品や水を届けた。水は何か所かのスーパーを買い回り、苦勞した。友人は87歳で自宅ビルの3階でひとり暮らしなので、給水車が来ても取りにいけなかった。災害時はひとり暮らしの高齢者を、民生委員や町内会長等がもう少し見回ってくれると良いと思う。地区によってはとても良くしてくれるところもあるようだが、民生委員や組長の顔も知らないところもあるようである。
54	私は75歳の高齢者で、40代の息子との二人暮らしである。息子の勤務体系が不規則なので、息子が夜勤の時は私が一人に対応することになる。心配になることもあるので、事前に町内で情報を共有できるようにしてほしい。ただし、高齢者が多くなっているのも、それでも万全ではないかもしれないという心配がある。
55	山崩れの場所を木の伐採等をして整備してほしい。
56	過信かもしれないが、我が地区は安全だと思う。
57	同報無線は聞こえる部分と聞こえない部分があつて、結局よくわからなかった。こんな感じで聞き取れない部分があつた。マイクの向き？風向き？アナウンスの発声の仕方？一考をお願いしたい。【図あり】
58	市長の動きがとにかくひどかった。全国放送でコメンテーターから非難され、恥ずかしいくらいだった。当日についての弁明もお粗末だった。
59	台風15号で一番困ったことは、停電でテレビが一切観られず、携帯電話も通じなかったことである。すぐ近くまで水が来ているのに、何の情報も入らなかった。近所の住民と外に出て、情報を待った。
60	やはり県知事、市長、県議、市議には、市民の先頭に立って動いてほしいと思う。静岡出身の国会議員にも励ましてほしいと思う。このような時にこそ、その方の心根がわかる。
61	予期できない線状降水帯が発生したので、このような大きな災害になったと感じている。寝ている間に強い雨が降り続けていると思っていたが、朝になってテレビや知人等を通じて断水や停電等のことを聞いて事の大きさを知った。我が家は何もなくて良かった。
62	清水区の取水場のニュースを観たが、ひどかった。生活で一番必要なことをほったらかしにして、箱物や道路工事ばかりに力を入れたことを猛省してほしい。
63	被害を受けた人の被災状況に応じて、少しでも補助金を出してあげてほしい。
64	停電になったので中部電力に電話したが、全然つながらなくて不安が募った。広報で情報を流してくれたら助かる。断水はしなかったが、水の勢いがなくなって心配だった。
65	同報無線で、停電について早く知らせしてほしい。
66	清水区が断水しているという情報が発信されるのが遅かった。マンションなので停電で水が使えず、周りも停電している様子だったので、以前住んでいた清水区に避難しようとしてしまった。どこの地域にどのような被害があるのかを早く発信してほしい。間違った方向に避難してしまうことになる。

## 【駿河区 (45 件)】

自由意見	
1	同報無線が聞き取りにくいので、改善をお願いしたい。
2	近隣の治水対策をしてほしい。側溝清掃、水路改修（巴川、長尾川等の支流）、フラップゲート等の逆流防止対策、トラックやダンプの提供サービス。
3	静岡市駿河区小鹿 2076-2 付近は畑からの土砂崩れがあったが、対応が遅くて1週間ほど通行できなかった。同じような雨が降ったらまた土砂崩れしそうなので、対応してほしい。
4	清水地区の給水方法を、川からの取水ではなく、地下水からの取水に変更してほしい。
5	県知事と市長の連携ができていないことに悲しくなる。市民の代表としての責任のなさに驚いた。子ども以下の2人とその取り巻きの人の馬鹿さが残念である。役所は、他人事過ぎると思う。会社であれば潰れる。無責任の集まり。
6	災害時に市民が自ら防災支援や復旧支援等のボランティアを行う等、一人ひとりの災害・防災意識を高める等の活動を市で推奨することが、防災に役立ち、被害の軽減につながるのではないと思う。
7	高齢者や被災者に身体的・精神的に寄り添った対応をお願いしたい。避難した人が避難所で安心して生活できる物品や段ボールベッド、間仕切り等の備蓄。
8	どのような場合にどこで何を確認できるか、どのような場合にどこに行けば良いか、被害があった場合に具体的にどこに相談すれば良いかを、事前に明確にしてほしい。
9	県知事と市長のコミュニケーション？
10	公園に井戸を設置してほしい。
11	情報提供をもう少し早くしてほしい。防災ラジオでは緊急情報がわかりにくいことが多々あるので、もう少しわかりやすいように放送してほしい。静岡市は広いので時々わかりにくいことがあるので、もう少しわかりやすく放送してほしい。
12	自治会からの放送等が何もなかったのが、広報車や消防車の放送で情報を収集した。自治会役員は何をしていたのか。
13	下川原5丁目に、小坂川の氾濫でいつも大変な目に遭っている家がある。小坂川が氾濫しないように改良を加えてほしい。
14	今回の災害では、各種対応や報道の遅れ、情報の不足を感じた。自宅から100メートル付近に同報無線が設置されているが、全く内容がわからなかった。直接受信する手段がなければ、非常時に対応できないことがわかった。リンクがアナログであろうとデジタルであろうと、通信アプリを多用して非常時には携帯電話に即応する等、対応が必要と考える。想定されている東南海地震等には、現状では全く対応できないと思われる。
15	安倍川や丸子川等の河川対策をしてほしい。駿河区広野は、あれだけの雨だと相当の被害があるはずだが、雨水対策が良くて何も被害はなかった。ありがとう。
16	過去の大水害は、7月10日前後に起きている。6月や7月、台風シーズンの9月等に市の広報（静岡気分？）で注意事項や災害への準備、心構え等を掲載して町内会を通して配布したらどうか。
17	静岡市は、昭和49年の七夕豪雨の甚大な被害を経験している。その経験を活かして、大谷川放水路や麻機、大内地区に第1～第5工区の遊水地を計画した。先人が知恵を絞った安全対策だが、現在でもまだ第2工区の200ヘクタールが完成していない。これでは、鳥坂地区や清水区の水害対策は解決しない。県土木は平成8年頃に後30年で完成させると言っていたが、30年経っても完成しない。大谷川放水路は真っすぐ駿河湾に流れているので、大谷川放水路の周りに遊水地をつくっても解決しないので意味がない。私が提案する解決策は、巴川を大内辺りから袖師辺りの海に真っすぐ掘削して、直線の放水路をつくることである。そうすれば川の流れを障害することなく、スムーズに放流できる。そして、現在の市内を曲がりくねって流れている巴川は埋め立てて、有効利用をした方が良いと思う。現在市内の巴川に流れ込んでいる支流は、暗渠のマスを入れて対応できる。
18	長男の家族が清水区南部に住んでいるが、断水のため我が家に避難してきた。清水市と静岡市が合併する際には、水道の強化が重要な条件だった。駿河区の南部に水道強化施設が追加されたのに、不十分で断水した。再度ポンプ能力をチェックして、改善してほしい。山崩れや崖崩れの危険箇所を早く広報してほしい。知人が多く、いつも大丈夫かと心配している。



自由意見	
19	情報は一斉放送ではなく、各地区に的確に詳細に簡潔に提供してほしい。マイナンバーカードの手続き等を見ても、行政はややこしくてわかりにくく、遅くて面倒である。適確に詳細に簡潔に表現する研究をしてほしい。
20	今回の件について、ニュース等で報道されているところでは、総責任者である市長の行動に問題・課題があったとされている。それにも関わらず、このアンケートを実施し意見を集約して報告書を作成する当危機管理総室の責任者が、市長の当日及びその後の行動について一切検証を行わないということは有り得ない。責任者として業務放棄と言わざるを得ない。深く反省してほしい。できれば、この責任者はその任を降りるべきだ。災害時における最高責任者（市長）の役割は、最も重大だ。市長は災害時にその重責を担うためにいると言っても、過言ではない。このことを危機管理システムの最重要要諦として組み込んでほしい。
21	停電をした場合、無線やテレビ、ラジオ等で知らせてほしい。
22	夜中になって避難するような情報は出さないこと。
23	多様な水源確保。管網のバイパス強化（複数の管網による水供給の可能性）。下水管の強度を日頃より把握して応急体制を強化する。
24	これからも災害対策情報をお願いしたい。
25	断水でトイレが使用できなかったのも、最寄りの避難所である学校に行ったが開いていなかった。SNS等で避難所が開設されているのかいないのかの情報がほしかった。そして、トイレ等は開放してもらえると大変ありがたい。
26	9月23日の夜、コロナの影響で延期していた結婚式と披露宴を開催していた。このような災害になることがもう少し早くわかっていれば、いくら人生に1度の挙式とはいえ、招待客の帰路確保等の行動ができていたと思う。状況が悪化する可能性が少しでもあるのであれば、浸水や列車についての情報は早めに得たかった。空振りなら、それはそれで「これで済んで良かったね」と思える。県民の1人として、県知事と市長の連携不足は恥ずかしかった。被害者のために尽力してくれた職員には感謝している。
27	今回はありがたいことに停電も断水も浸水もなく、翌日から普通の生活を送ることができた。被災地である清水でボランティアとして活動し、備えておくことの大事さを痛感させられた。自分の家や家族に合った防災を知らないことが、いかに被災後の生活の質に影響するかを感じた。そのため、災害が起こる前にできることとして、携帯トイレの使い方や処理の方法等を伝えることが必要だと思った。ただ備えを呼び掛けるだけではイメージがしにくいので、理由や使用方法までを詳しく知る機会をつくることが、災害が起きた時に役立つと思う。すごく地味で面倒な活動ではあるが、自治会のサロン等に小さい単位で伝えていくことが防災ではないかと思った。私は防災士の資格を持っているので、今回の台風15号の経験から、子育て中のお母さん向けに代用できるもの等を伝える活動を自治会公民館で始めた。防災は大事なことはわかっているけど、実際にどう使うのかを教えてもらわないことには広まらないと思うので、少しでも知ることができる機会・体験できる機会が増えると良いと思う。
28	自治会ごとに、水やトイレ、炊飯、発電等、緊急時に共有できる器具等があると良いと思った。そのため補助金が出ると良い。
29	自宅は日本平動物園の近く（海拔18メートル）で、幸いにも雨の心配は全くない。今回の台風被害は他人事のように、2～3日後に知って驚いた。清水区に住む友人から水が出なくて困っているという連絡があり、2リットルのペットボトルを40本用意した。給水車から水をもらうタンクがなく、鍋やバケツを使っている人が多いということだった。家族全員で水やタンクを買いに行っても、清水区では売っていないとのことだった。その時点で、駿河区のエンチャーでは水やタンクをストックしてあった。主人がキャンプで使用するビニール製のタンク（20リットル）を渡したが、これは場所をとらないので、いつも車に載せているようである。畳むとA4サイズで1枚500円程度なので、各家庭で2～4枚備蓄して良いと思う。
30	防災無線を聞き取りやすくしてほしい。行方不明者を探す時も聞こえなくて不便だと思うことがある。幼稚園や小学校、中学校、高校等の子どもの年齢に合わせた指導・アドバイスをもらえると家族で取り組みやすくなる。

自由意見	
31	市役所から車で20分ほどの場所で大きな被害があったが、ボランティアが入ったのは1週間経過してからだった。遅かった理由を知りたい。ボランティアの要請は、個人が連絡したら話が進んだ。西ヶ谷、内牧、幸庵新田、内宮。地震が来る地域と言われて40年経ち、沢山の訓練をしてきたはずだが、住民から被害状況を吸い上げ、行政が動くまでかなりの時間を要している。とても不安になった。訓練の方法を変えた方が良いのではないか。河川や小さい川に、かなり土砂が積もっている。見ればわかるので、早く取り除いてほしい。被害の証明についての相談を公民館ですることはできないのか。皆、車が水没して、移動手段がなくて困っている。被害にあった人にアンケートをしてほしい。
32	自宅は大丈夫だったが、葵区に住む両親は停電で情報収集が非常に困難だった。テレビやラジオを頼り過ぎてはいけなことがわかった。また、ホームページ等も自分から働き掛けなければ見られないので、高齢者には難しい。そのため、離れて住む私に携帯で連絡を取っていた。対策が必要だと思う。
33	自宅はマンションなので、停電でポンプが使えず、断水となった。幸い道路を挟んだ向かい側から南は停電しなかったので、アピタやコンビニでトイレを借りて過ごすことができた。静岡市全体で停電が起きたと想定すると、大変なことだと思う。断水が長引いた清水エリアでは、民間企業がお風呂を開放してくれてとても助かったと聞いている。そのような協力企業を日頃から集めて、補助金等を活用してもらっても良いと思う。また、仮設トイレをすぐ設置できるように用意してもらえると助かる。
34	高齢者は、SNS等での情報収集が困難である。同報無線は、注意して聞かないと聞き取れない。町内の声掛けや広報車等のアナログな手段が、一番確実である。高齢者だけで家に居る時間が多い我が家としては安心できる。
35	情報弱者が取り残されないような配慮。テレビやラジオ、SNSではなく、誰もが見聞きすることができる回覧板や広報車の有効活用。
36	藤枝市の実家が床上浸水した。家の状況を見に来た課税課の若い男女の職員が、一緒に浸水した絨毯を取り外したり、片付けたりしてくれた。あの2人には心から感謝している。静岡市の職員にも、困っている人の手助けをお願いしたい。
37	職場が清水区だが、幸い断水しておらず、大きな負担なく過ごすことができた。ただ、清水区に住んでいる同僚が大変な状況であり、出勤できないこともあった。被災して収入に影響が及んだ人も多かったと思う。どこまで補償するかは難しいが、補助金として生活費も必要だと感じた。
38	自宅は下島だが、自宅前の道路が広がっているので、大雨の度に玄関近くまで水が来る。車を移動させないと、浸水してしまう。横の駐車場の車は、台風15号の時にほとんど浸水した。この道路をどうにか修繕してもらいたいと思う。
39	電気は使えたので良かったが、携帯が使えず情報を得られなかった。テレビの情報は遅く、状況が把握できなかった。断水・停電している地域の友人からの問い合わせにも対応できなかった。もっと早く状況や情報を発信してほしい。
40	安倍川の近くなので、川の氾濫状況。
41	指揮官にしっかりしてもらいたい。清水区が可哀想だった。
42	静岡市の対応が、とにかく遅かった。一般人や市外・県外の方の動きの方が早い状況を、どう考えたのか。今後このようなことがないように、市がいち早く対応してくれることを願う。地震や津波の有事の際にどうするのだろうと、本当に考えさせられた。
43	安倍川の近くに住んでいる。今回安倍川橋の手越辺りが切れそうと言われていたが、安倍川の情報が多く、息子が車で見回ってしまった。自宅周辺は水捌けが良いので安倍川が氾濫しなければ心配ないが、安倍川が心配である。
44	県と市の意思疎通。
45	平成22年頃の区画整理で、害はあまりなかった。

## 【清水区 (79 件)】

自由意見	
1	市のホームページの情報が少し遅いように思った。SNS までとは言わないが、更新を早めにしてもらえると思う。自治会の問題なのかもしれないが、ひとり暮らしの高齢者世帯への援助が足りないように思う。浸水被害にあった家の片付けは人手不足で困っている人が多かったので、手伝いの依頼や管理について整えておいた方が良いのではないかと。
2	年々雨量が増え、どこが浸水しても不思議ではない。河川や興津川の取水口の整備は重要である。町内の備蓄の内容を、現状に合わせて変えるべきである。
3	興津川の対応が遅い。
4	全ての情報が遅い。台風 15 号への市長の対応について、あからさまにわかるような嘘をついていたが、しっかりと対応をしてほしい。県知事と対立等をしていないで、迅速な対応をすべきだと思う。台風 15 号の断水については、川勝知事と田辺市長に重大な責任があると思う。二人とも責任の擦り付け合いをしている場合ではないと思う。
5	子どもを連れて大雨の中で徒歩での避難はできない。警報の出ていない地区の避難所等を使って、車で避難できると良い。家の中にも同報無線は聞こえないので、もっと別の方法で情報を提供してほしい。今回の台風で、電話が壊れ、自宅は漏電、車は水没等し、情報を入手することも移動もできない状況になった。事前に決められた場所に行けば物資や情報が入手できるようにしてほしい。今回の被害の復旧で払う消費税がすごい額なので、それに見合ったレベルの支援がほしい。早く巴川を何とかしてほしい。
6	浸水で車両が使用できないのに、給水所までの距離が遠かった。自宅の被害はなかったが、車両が水没した。しかし、自宅に被害がなかったことを理由に、被害の証明をするものがなかった。ハザードマップを参考に引越したが、被害にあった。今回の被害を早急にハザードマップに反映し、すぐ出してほしい。令和 5 年度のうちに引越そうと思う。
7	市民に対して災害の備えを更に行うように情報発信したらどうか。私はスーパーマーケットに勤めているが、災害時の断水の影響でお客さんが居住区を越えて水・ミネラルウォーターや衛生商品を買いに来た。災害で物流がストップしてパニックになった市民もいたと思う。災害に対する危機意識を市民が少しでも高めることで、災害発生時のパニックを低減できると思う。市役所の職員は大変だと思うが、頑張してほしい。
8	水害で車が使えないので、給水場所まで水を取りに行けない。被害のひどい地域には、給水車に回ってほしい。
9	清水区にある自宅が断水した。すぐ復旧すると思ってあまり深く考えていなかったが、かなりの時間が経過してから復旧に時間がかかることを知り、静岡市や静岡県の対応に愕然とした。静岡市民であることが情けなくなり、悲しい気持ちになった。ここぞという時のリーダーの判断が遅過ぎる。もっと早い段階で自衛隊に協力を要請していれば、このような事態にはならなかった。リーダーには、もっと市民の目線に立って、スピード感を持ってリーダーシップを発揮してほしい。今もその気持ちは変わらない。給水情報を知りたくて市に電話した時の担当者の対応も最悪だった。
10	災害時に県と情報共有を密に行う体制づくりを早急に求める。
11	2つ目の取水場等の水源の確保。災害ごみが発生する最悪のパターンを想定したシミュレーション。集積場の仮置き場に関する協定。片付けに伴う職員の配置とシミュレーション。
12	清水区布沢の沢に砂防ダムをいち早くつくってほしい。また、この川だけでなく、支流の土砂を撤去する作業を進めてほしい。道の地下を通っている排水口が詰まっていないか、点検してほしい。
13	同報無線がしっかり聞こえるように手段を講じてほしい。
14	高齢者は「避難して。」と言われても、既に大雨が降っているので中々避難することができない。外に出ることも危ないので、家に居た方が安全だと思う人もまだ多くいると思う。そのような人にどう今後の指示をするのが大事だと思う。
15	給水する入れ物がなくてクーラーボックスを利用したが、何回も行って疲れた。ポリタンクを購入して、対策を見直した。
16	他市からの応援は、大変ありがたかった。他市から支援がなければ、静岡市だけでは対応しきれない状況だった。また、他市では水を入れるビニール袋も用意されていた。防災先進地域のはずが、いざ災害となると対応や必要性があるもの等の脆弱性が明るみになってしまった。他市に学び、いざという時に役立つ対策をしてほしい。



自由意見	
17	自宅は無事だったが、職場には被害があった。職場の周辺の住宅も浸水被害にあった。この地域は、すでに何回か浸水被害に遭っているが、排水対策等はしないのか。清水区鳥坂地域の人は諦めろと言うことか。清水区は大規模な断水になったが、復旧に向けた対策の遅れに関して市長・県知事ともに明確な理由を言わないのは何故か。特に知事はリニアに関して命の水と言っているが、その命の水が止まっている地域への対応があまりにも遅過ぎた。もう命の水等と、口にしないほしい。
18	清水地区に茶色の土が流れてきた。安倍川水系上流から葵区を経由して巴川に流れ込んだものだと思う。短時間の豪雨を早く海に排水するためには、①安倍川河口に堆積した土砂の撤去による排水性向上、②巴川の水深を確保できるように以前のような浚渫による排水性向上が必要である。
19	①取水口のテレビ映像を観て、そんなに脆いものなのかと思った。清水区の人口を考えると、もっと強固で安心できる設備があっても良いのではないかと。②災害対策本部長である市長の対応検証を行わないのは、おかしい。③なぜ、市長の視察が発生の2日後になったのか。早いうちに災害現場を視察してくれば、市民は少なからず安心する。
20	県知事にしても、市長や市の上層部の人の好き嫌いから、県民や市民にどれだけの影響が出たかを考えてほしい。過去10年以上に渡ってどのくらいの不利益があったのだろうか。仲良くしてくれなくても良いが、市民の不利益とならないようにしてほしい。
21	横砂地区は、ここ10年の間に2回の床上浸水があった。庵原川と小川が溢れて、浸水した。IAI等の工場地帯からの雨水が一気に小川に流れ込むが、横砂中町辺りのカーブで負担がかかり、小川が溢れてしまう。今後また台風等の大雨が降れば、また浸水してしまう。対策をしてほしい。
22	市長は県知事に負けないよう、メディア対応をお願いしたい。
23	断水に対する処置が遅く、生活に困った。2週間も水を買ったり、もらいに行ったりして疲れた。長かった。
24	市長の行動の遅さで、市民は大変な思いをした。もっと早い対応が必要である。市長の行動は遅過ぎる。
25	同報無線がものすごく聞きづらい。役立てたいけど、役に立たない。
26	巴川が近いので、短時間で大量に降水した場合、高松放水路にきちんと放水されるのか、また、水量が分散される等の安全性や効果はどうか気になる。今後も同様の雨が降ると予想されるが、今回の台風では1号線から瀬名方面にかかる橋の近くまで水が来て十分だとは感じなかった。今後はどう対応していくのか。長尾川は台風第15号の前に溜まった土砂を取っていたが、台風後は前よりも土砂が溜まっている。根本的に解決しないのであれば、労力やお金が無駄になる。土砂を溜めないためにはどうすれば良いのか、川が氾濫しないためにはどうすれば良いのかを、解決してほしいと思う。その場しのぎでは、労力とお金が無駄になる。
27	ごみ置き場の指定場所を決めることが遅い。応急給水の情報が全くなかった。ボランティアが来るのが遅い。
28	家の井戸を使ったので、トイレ等の使用に問題はなかった。畑の突井戸は自然流水があり、近くの人が利用した。このような場所の確認や周知が必要だと思う。
29	市から住民への情報伝達の迅速化。各地区自治会及び交流館の有効利用。可能であれば給水所付近の駐車場の確保。三保交流館付近の道路は駐停車禁止ではなかったが、路上駐車によりパトカーが出勤して駐車車両の移動を指示された。
30	自宅に雨水貯水タンクがあるので、トイレ用の水として大変助かった。
31	台風15号の影響による断水で、トイレや生活用水の確保のための給水情報の収集に大変苦労した。飲料水は、ある程度備えていた。東京在住の娘が、Yahoo!リアルタイム検索から静岡地区で井戸水を供給してくれる場所を調べて知らせてくれた。自分でも調べたが、情報が中々得られなかった。SNSで多くの市民が情報を発信していて、大変助かった。災害時に大切なことは、適正な情報伝達・収集だと思う。私は、静岡市のホームページを頼りにしていたが、ホームページの更新が大変遅かった。ホームページが更新される前に、テレビ等が給水箇所の情報を提供していた。市民が正確な情報を得ようとする場合、一番確実なのは混乱する電話ではなく、ホームページではないかと思う。災害時に備え、適正な情報伝達システムの構築を考えるべきではないかと思った。
32	他県からの給水を受け、嬉しかった。

自由意見	
33	9月23日の夜は、自宅で当時生後2か月の娘と2人きりだった。台風が来ることはわかっていたが、そこまで危険視せず、いつもと変わらずに過ごしていた。警報が発令されていたこと等も気にしていなかった。情報はTwitterが主で、巴川のライブカメラも観ていた。我が家は幸いにも床下が少し濡れる程度で、重大な被害はなかった。なので、私達の災害は24日からの断水である。防災無線は、普段から外に出ても何か言っている程度で、ほとんど聞こえない。テレビも報道が少なくて意味がない。一番役に立ったのは、SNSだった。我が家は自治会に加入していない20代夫婦と乳幼児2人の家族で、近所に自治会に加入している組長の50代の両親が住んでいる。断水になり始めていることや給水(飲料用・井戸水)の情報をTwitterで入手して、両親に連絡した。ごみ捨ての段階まで行くと、組合に加入している両親の方が情報はあったが、断水の初期段階ではSNSの方が強かった。民間で給水所や物資配付、情報提供をしている人の方が行動は早かった。テレビも防災無線も自治会も正直遅い。若い世代が自治会に入る意味があるのかと、疑問を持ってしまう。早くしろと言うのは簡単だが、無理があることもわかっているので、これからは若い世代がSNSを上手く活用して高齢者につなげていければ良いと思う。現状の自治会や市の仕組みに頼らず、新しい仕組みを考えていくことを市に求める。
34	国への災害派遣依頼が遅いと感じた。同報無線の音量は十分だが、人によって話し方が聞き取りにくかった。聞き取りやすい話し方や間の取り方をしてもらえると助かる。
35	長年の課題であり、何度も工事を行ってくれているものの、巴川の治水には不安が残る。今後考えられる異常気象にも耐えられる巴川になると、安心して住むことができる。
36	自衛隊の派遣や給水車の配置が遅い。情報の伝達が遅かったように感じる。市民が自分で情報を調べないとわからない情報発信の仕方は、意味がない。テレビで災害についての報道を増やす必要があったと思う。また災害が起きた時には、スピード感を持って対応してほしい。
37	私の住んでいる地区は高齢者が多いので、同報無線は情報を得る手段として頼りにしている人も多数いると思う。普段の広報は文章を読み上げるスピードや間の取り方が上手くないのか、言葉にエコーがかかって聞き終わらないうちに次の言葉が聞こえ、内容がよくわからない。スピーカーからの距離で聞こえ方が違う地域があることをもう少し念頭に置いて考えてくれると良いと思う。
38	幼い子どもがいるので、給水所まで行ったり、水を運んだりすることがとても難しかった。せめて車で行ける給水所を増やしてほしい。保育園が休園になったので他区の預かり保育等を探したが、コロナ禍も重なって全然受け入れてもらえず、辛かった。
39	SNSがなければ、より困った。テレビでもほしい情報は、あまり得られなかった。若い人はSNSで自ら情報を得られるのでまだマシかもしれないが、高齢者等はより情報が少なくて大変だったのではないかと思う。今回は特に水を必要としたので、給水車と共に水を入れるポリタンク的なものも一緒に配布してくれたらありがたい。買いたくても買えなかった。温泉等がある施設は無料にしてほしい。取水口についても、対応が遅い。
40	断水がとても辛かった。体調も悪かったので、給水所にも行けず、安易に周囲に助けを求められる状況ではなかった。もう少し早く自衛隊を要請してほしい。
41	給水車ももう少し近所に来てくれると助かる。市のホームページが見にくい。何日何時時点の情報なのか、少し前の情報が現時点でも有効なのかが読み取りにくいことがあった。
42	災害時の情報の適切な発信方法はこれと決めることは、難しい。高齢者ならば同報無線やテレビに頼る。若ければSNS等のネットに頼るだろう。どちらからの発信も必要だと思う。ほとんどの人は、自分がどのような場所に住んでいるのか、ハザードマップで確認していると思う。私の地区では浸水と断水はしなかったが、どのような手段でも市から公式に正しい情報を少しでも早く得られたら不安は薄れると思う。余計な行動や不安を煽るようなSNSでの情報拡散も少なくなると思う。
43	災害ごみ置き場や給水場等はすぐに対応できるように、場所を決めておくべき。今回のことを雛型にしてチュートリアルを作成し、自治体には定期的に訓練してほしい。他県は転入時に給水袋や災害マップがセットになった災害袋をくれるが、静岡市はなかった。市のホームページがあまりにも見づらくて、役に立たなかった。ほしい情報に辿り着けない。
44	断水が解消された後で、「清水区内の耐震性貯水槽15か所のうち、活用されたのは7か所のみ」という報道を観た。我が家の近所にもこの貯水槽があったことを、この報道で知った。実際使用されていなかった。自衛隊の給水車が来てくれるまでは給水車が少なく、何時間も給水待ちをしていたので、この貯水槽が活用されていれば違ったのかなと思った。災害派遣要請も遅いと感じた。給水所へのトイレの設置も、給水所開設と同じタイミングで行ってほしい。

自由意見	
45	自衛隊の派遣要請等、災害が起きた後の対応が遅過ぎる。トップが馬鹿だと組織は駄目だと痛感した。
46	県知事の対応が遅く、不適切だった。
47	断水発覚後の対応が遅過ぎる。土曜だからと言っても、生活は待ってくれない。今までの防災訓練は、何のためだったのか。断水発生後の情報がなさ過ぎる。県外の友人から給水所を教えてもらうなんて、何と情けない思いをしたか。そして、何のためのTwitter、ホームページなのか。このような時に使ってほしい。対応してくれる職員にはいつも頭が下がる。感謝している。しかし、辛い思いをした清水区民はずっと忘れない。箱物より先に治水だと思う。お願いだから、命を守ってほしい。
48	私の住む地区は大地震での津波被害が大きくなると考えられているのに、避難できる高い建物が全くない。避難地である高台の公園に行くためには国1バイパスを横断しなくてはならず、高齢者と同居している我が家の避難は現実的ではない。台風15号の際に自宅前の側溝に流れ込んだ泥がそのままになっており、側溝が以前と比べてかなり浅くなっている。このままでは、今年の梅雨や台風の時期が心配である。
49	今回の台風15号で、自治会の動きが全くなかった。防災訓練は地震のことばかりで、台風に関する対策が何もなかった。断水になっても、自治会としては何もしなかった。市の対策も重要だが、自治会ももっと対策をした方が良くと思う。本当に困っている人の現状をしっかりと把握することが重要だと思う。断水は障害者や高齢者は健常者以上に大変であるため、支援を是非お願いしたい。障害者のお風呂の場所を充実してほしい。
50	今回、自宅は被害も断水もなかったのですが、給水についての情報等も伝わってこなかった。しかし、周りから同報無線が聞き取りづらく、詳しくは公民館や市のホームページでということだったと聞いたので、高齢者にはわかりづらく、情報収集しにくいと感じた。
51	今回静岡市内に給水車がないということを知った。これに限らず、被災した東北や関西等の事例を参考に、万全に対策してほしいと思った。
52	同報無線が全然聞こえないので、聞き取れるものにしてほしい。高齢者は重い水を運ぶことが困難である。給水の待ち時間が長過ぎる。仕事をしていると、吸水の時間内に行けない。情報が遅い。
53	介助が必要な高齢者がいる。避難が必要な時に人手がないと、大変である。定期的に声掛けをしてくれる人がいると、日頃からのコミュニケーションがとれて安心できる。
54	市長の対応が悪過ぎる。
55	この地域は、断水があった。市長のコメントが遅く、とても不安だった。最初のコメントで「重機が入れば、5～6日後には……。」とあり、曖昧ではあったものの少しは希望が持てた。確実なことではなくても、先が見えれば頑張れる。市長はもう少し市民の心に向き合うべきだと思った。
56	台風15号による自宅の浸水はなかったが、家の前に借りている駐車場が浸水した。車も浸水し、修理が必要となった。夜中に大雨が降ったので、朝起きてから気が付いた状態だった。夜中でも広報車等を出して状況を伝えてくれると良いと思う。
57	被害状況の把握等にSNSを活用すべき。市長からの発信(9/25)が遅過ぎた。危機管理意識が低過ぎる。静岡市内の給水車配置場所が少ない。企業やボランティア団体等がSNSで発信してくれたので、巴川製紙やしずてつストア等を利用した。高齢者のみの世帯は情報が少なく、運搬も困難で苦労したと思う。中学校や高校は休校にして、地域でボランティア活動を行えば良いと思う。桜が丘高校は、翌日(9/24)に半数近い欠席者(孫のクラス)がいながらも午後まで通常授業を行った。学校も対応を迷ったらしいが、有り得ない。災害時の緊急対応(連絡)システムに学校等の横のつながりが必要である。テレビ局も情報が遅かった。自衛隊派遣要請をトップが判断できない時、判断するための有識者集団をつくってほしい。
58	知り合いのひとり暮らしの高齢者は、床下浸水で大変だったようだ。そのような人への支援が十分に行えたかどうか心配だった。後片付けの手伝いができる人をできるだけ早くお願いしてほしいと思う。給水所から水を運ぶことができなかった人もいたので、近所の人で運んでくれたようだ。車の運転ができる人は良いが、給水所までも行けない人がいたようだ。私のところには、市の方が水を届けてくれた。配付品を受け取るために、南幹線が混雑した。車の運転ができない人はもらいに行けなかったため、自治会の集会場等へ届けて被災した地域に配付してはどうか。南幹線の近くの薬局が営業していて、水等も手に入った。
59	実家が被害にあった。片付けに必死で行政の動きがわからなかったため、断水等をかなり後になって知った。
60	同報無線がよく聞こえない。



自由意見	
61	今回の台風 15 号では当日断水したので、トイレ等が困った。今まで避難訓練はしていたが、被害に遭ってみると給水場所やごみの出し方等が困った。被害が出てから決めるのではなく、予め細かく決めて提示しておいてほしい。今回は、災害の情報が遅過ぎた。スマホの時代なので、もっと確実に早く出してほしい。国への要請も遅過ぎる。
62	道路の冠水が早く、気が付くと既に車が出せない状況になる。道路の嵩上げを希望する。
63	とにかく、市や県の公の対応が遅過ぎる。お粗末だった。当方は少し断水しただけだったが、他の家族や友人、知人には被災した人が多くいる。自分達で SNS 等から情報を得るしか手段がなく、周りの人もできる限りの助けをそれぞれが個人的に行っていた。特に清水区の人や SNS をやっていない人には情報が行き渡らず、更に被害を拡大させたようだ。市内ですら清水区のひどい状況を知らずにいた人達が沢山いた。
64	今回の静岡市の対応は、あまりに遅過ぎた。有り得ない。即自衛隊を要請するべきだった。県知事と市長のやり取りが全国ニュースとなり、本当に情けなくなった。どっちもどっちである。携帯の番号を教えたくなかったと言うが、子どもじゃあるまいし……。頼りにできないのだと思った。しかし、頑張っってアンケートをとって改善しようとする市役所職員もいる。頑張っってほしい。市民第一でお願いしたい。
65	給水車や災害ごみについての情報が、早くほしかった。
66	私が住んでいるところは、山の下である。5～6年前から杉の木が家の方に来ていたので、切ってもらった。その時、切ってくれた方はお金がかかるから後は切れないと言った。今年になって山の土や水が畑から家の方にまで流れてきたので、私が何とかしてくださいと言ったら、家が悪いのではない、災害が悪いと言って何もしてくれなかった。私は 78 歳だが、1人で毎日片付けている。
67	今の行政は台風 15 号の対応があまりにも悪かったので、信頼できない。被害にあっても助けてもらえないと思う。現場を見る、対策を考える、まず行動してほしい。
68	水が出なくて困った。もう 1 か所、水が出るようにつくってほしい。
69	このような機会を与えられたことを光榮に思う。今回の台風 15 号は、今までにない線状降水帯に見舞われ、清水区の断水に至った。突然水が出なくなったが、どうすれば良いのかの情報が乏しかった。飲み水は店舗で品切れ状態だったので、富士まで足を延ばして買いに行った。ポリタンクは品薄で絶望的だった。給水車をもっと多く出してほしかった。そして、給水車のところまで水をもらいに行くのではなく、巡回してほしい。サッカー場の方まで車で水をもらいに行くより、もっと住宅を回ってほしかった。巴川支流の氾濫もしかり、3万台が浸水した。レンタカーも足りない。未だに修繕もできないという話を耳にする。市の対応の遅さに残念の一言である。
70	同報無線は、普段から何を話しているのか聞き取りづらい。
71	同じ静岡市なのに、旧清水市だけ断水したことに愕然とした。また、市長がテレビで清水区の断水復旧は 1 週間かかると話しており、暗い気持ちになった。興津水系と安倍川水系を是非つないでほしい。それでも水が足りない時は、断水も仕方ないと思う。県と市が連携して何が今一番大切かを考え、協力してより良い静岡市になるように願っている。
72	情報を早く提供してほしい。
73	災害は、誰かのせいで起きるものではない。しかし、自分に災害が降りかかると、誰かのせいにしたくなったり、遅い対応等に文句を言いたくなったりする等、予想しなかったことが沢山起こる。自分達にできることは、災害に備え、必需品を用意することだと、改めて強く思う。役所職員の大変さに頭が下がる。
74	ひとり暮らしの足が悪い高齢者は、このような災害が起きた時に大変困ると思う。そのため、一番に食料や水を届けてほしい。そのような人が実際に親戚にいたので、食料と水を届けた。
75	防災のトップクラスの人にだけ頼るのではなく、より早く一人ひとりが地域の人と一緒に助け合う気持ちが必要だと思う。常に周りに声を掛ける。
76	近くで川が溢れそうなことや保育園に水が入って来たこと等の情報が早くあれば、少しは荷物を上に上げることができたかもしれない。
77	今住んでいる草薙団地では被害はなかったが、上 1 丁目にある住宅が床上浸水となった。物置にしていたので、主人が休みの日に週 1～2 日片付けをしたが、令和 4 年 12 月いっぱいまでかかった。特に畳はカビが生えてしまい、災害ごみを持っていってくれる人には申し訳ない思いだった。
78	近年の異常気象に対応することは中々難しいと思うが、ハザードマップの更新や住民への周知がもっと必要だと思う。新築が多く浸水したようだが、不動産会社や建設業者にも責任の一端があるのではないかと思っている。

自由意見

79 市内のどこに居ても、同報無線をよく聞き取れるようにしてほしい。



## 台風第15号に係る災害対応検証 関連資料

令和5年3月  
静岡市

編集：静岡市 危機管理総室  
〒420-8602 静岡県静岡市葵区追手町5-1  
TEL：054-221-1012 FAX：054-254-2100